

マンスリー・レポート11月号

# 令和2年度 COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの 影響分析調査業務（アフリカ地域）

---

株式会社野村総合研究所

コンサルティング事業本部 ICTメディア・サービスコンサルティング部

2020年11月26日



# はじめに ~本レポートをご覧いただくにあたって~

## ■ 本調査のねらい

COVID-19の影響を受けているアフリカ諸国がFVC再構築を目指す中、我が国の技術・ノウハウを活用し現地で産業人材を育成することは現地国にとっても我が国の海外展開にとっても重要であると想定されます。この産業人材育成に資する施策を検討するため、現地でCOVIDによるFVCへの影響や見通し、FVC再構築に向けた動向を調査することを目的とします。

## ■ 調査対象国

南アフリカ、ケニア、ナイジェリアの3か国

## ■ 本マスリーレポートの位置づけ

本レポートは、対象3か国における調査結果の速報をGFVC 推進官民協議会メンバーの皆様方にお届けすることを目的としています。情報は調査状況を鑑みて毎月アップデートすることを予定しておりますが、各国で入手できる情報量が異なるため、ご提供できる情報の粒度が異なる可能性があることにご留意ください。

## ■ 連絡先

ご不明点などございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

NRIインド 上木原広平 [Kohei.Kamikihara@nri.com](mailto:Kohei.Kamikihara@nri.com)

NRIプロジェクトメンバーーメーリングリスト [maff-africa@nri.co.jp](mailto:maff-africa@nri.co.jp)

(CCにメーリングリストを入れてご連絡をお願い致します)

# 11月のマンスリーレポートにおけるご報告内容

## インタビューを含む更新情報をご報告

○：机上調査結果 ◎：インタビュー調査結果 ●：示唆・整理結果

マンスリーレポート報告内容	10月	11月	12月	1月	2月
Task 1. COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	●	●	●	●	●
主要な農産物の生産量	○				
主要な農林水産物の消費量(コメ、トウモロコシ、豆類、肉類、魚類等)	○	●	●		
主要な農産物・食品の輸出量・輸入量(主要な輸出先国、輸入元国別)	○	●	●		
Eコマースによる取扱量	○	●	●		
テイクアウト・デリバリーによる取扱量	○	●	●		
消費者マインド(今後の外食、健康への意識等)	○	●	●		
Task1まとめ	●	●	●	●	
Task 2. COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	○	○			
FVCに対するCOVID-19の影響	○	○			
消費者の行動様式に対するCOVID-19の影響	○	○			
FVC全体が直面する課題	○	○			
Task2まとめ	●	●	●	●	
Task 3. 現地FVC再構築に向けた最新動向調査	○	○			
各種制限の緩和の動き(出入国制限、外出制限、営業制限、それらと同時に課す感染回避策)	○	○			
政府の支援策(生産者、食品製造業、物流業者、小売・外食など各分野)	○	○			
民間企業の事業動向(日本企業含む)	○	○			
第3国(企業)・国際組織の動向	○	○			
Task3まとめ	●	●	●	●	
Task 4. FVC再構築に向けたTV会議					●
TV会議結果					●
Task 5. 分析および日系企業の機会創出に向けた示唆の抽出	Task1~4を踏まえた、日系企業の機会創出に向けた示唆				

※インタビュー調査結果については、インタビューよとの調整次第で報告月が一部ずれ込む可能性有

# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ&サマリ

1. 南アフリカ
2. ケニア
3. ナイジェリア



## 南アフリカの2020年11月号のコンテンツとサマリは下記の通り

報告内容	目次	サマリ
COVID-19による食 市場・物流への影 響と今後の見通し 調査	主要な農産物の生産量 主要な農林水産物の消費量 主要な農産物・食品の輸出量・ 輸入量 Eコマースによる取扱量 テイクアウト・デリバリーによる 取扱量 消費者マインド	農業がロックダウン対象から外れ、また好天候も追い風となったため、COVID下にも関わらず生産量は増加見込（特にトウモロコシは前年比30%増） レストランや小売の営業停止・縮小により食肉を中心に減少見込 輸入  輸入元国における輸出制限により減少見込 輸出  短期的には減少したものの、生産状況が良好のため輸出機会が増える可能性 包装食品におけるEコマースの利用割合は依然低いものの、COVIDにより0.3%から1.9%に増加 COVIDを受け自宅消費需要が高まり、外食サービスに占める利用割合は宅配・テイクアウト合わせて前年度から12.3%増加 高所得者層ではビーガンフードなど健康志向が高まっている。COVIDを経て全所得層で低価格食品・オンライン注文需要が増加
COVID-19により顕 在化したFVCの 課題調査	農業資材 農業生産 保管・輸送 加工 卸・小売 消費	農業資材は輸入依存構造のため、輸入の減少、港湾オペレーションの混乱が資材調達に影響 2020年の農産物生産量は増加しており、COVIDによる生産量への影響は限定的。 ただし、消費・輸出需要の減少で農家収益への打撃は発生 主に船舶・航空輸送の混乱により流通の遅延・価格高騰が発生 港湾での遅延、移動制限、サプライヤーの出荷遅延などが原因で原材料などの調達に遅延発生 移動制限や店舗利用制限により卸・小売事業者の収益性に影響が生じている一方、オムニチャネルへの新たな動きが活発化 消費者は食料品不足と価格高騰に直面
現地FVC再構築に 向けた最新動向 調査	各種制限の緩和の動き 政府の支援策 民間企業の事業動向 第3国(企業)・国際組織の動向	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済 農家や中小企業への金融支援、食料価格のモニタリングなどを実施 オンラインプラットフォーム利用増加/ 工場操業停止/ 安全措置実施/ オムニチャネル強化 など FAOは害虫監視アプリを開発し、農家の被害抑制を支援



## FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題

顕在課題

潜在課題\*

橙色：更新情報

農業資材

農業生産

保管 &amp; 運送

加工

卸・小売

消費

ヒト

① 移動制限・営業/操業制限・COVID感染

② 輸送キャパ減少による農業資材供給遅延

輸入依存リスク顕在化

通貨安が輸入にダメージ

③ 来期の収穫遅延の可能性

輸出価格下落による収益減

財務状況悪化

④ 輸送キャパ減少による輸送遅延

移動制限による陸上輸送遅延

輸送キャパ減少、遅延によるコスト増加

輸出量の減少

FVC寸断による食品ロス

原材料など調達の遅延  
財務が脆弱な中小企業の経営悪化

⑤ インフォーマル流通・屋外市場制限

レストランおよび食肉需要低下  
市場閉鎖による小売業者の収益減

短期的な食料品不足

パンデミック期の価格高騰

オムニチャネル需要増加

モノ

力ネ

データ/  
デジタル

- 1 課題の多くは移動制限が原因
- 2 農業資材は輸入依存構造
- 3 2020年の収穫への影響は軽微。ただし財務状況に問題
- 4 港湾・航空の輸送キャパ減少が遅延・コスト増の原因
- 5 観光客激減が外食関連サービスに打撃

\*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



## 課題への対応事例は下記の通り

## 課題対応の方向性

## 課題整理フレームワーク

## ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸—  
一時的か不可逆か

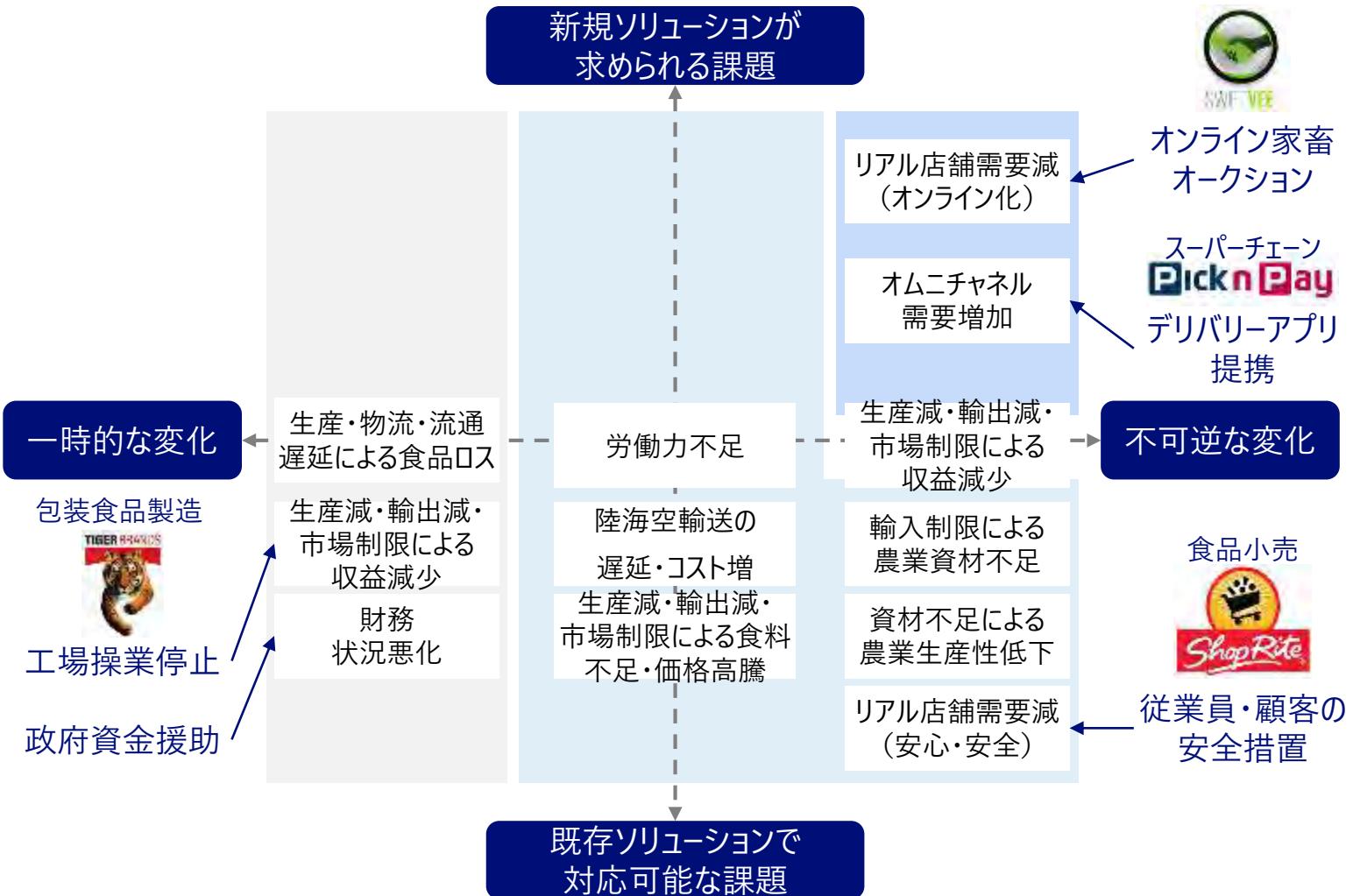
縦：ソリューション軸方向性軸—  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

## ②課題対応の方向性で整理

止血 オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

レジリエンス 将来のパンデミックを見越して備え

肉体改造 価値観・ビジネスモデルの変化への対応





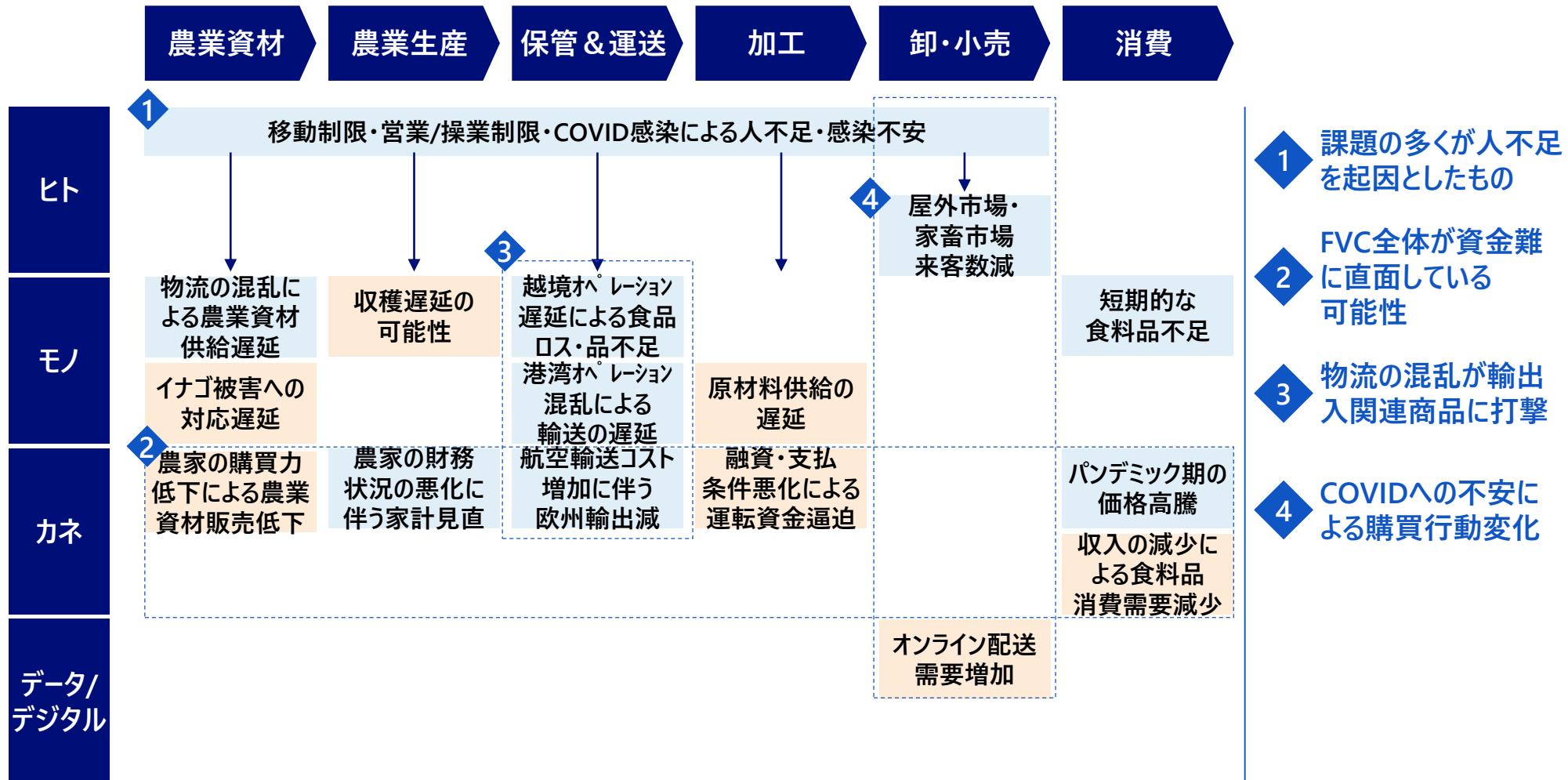
## ケニアの2020年11月号のコンテンツとサマリは下記の通り

報告内容	目次	サマリ
COVID-19による食 市場・物流への影 響と今後の見通し 調査	主要な農産物の生産量 主要な農林水産物の消費量 主要な農産物・食品の輸出量・ 輸入量	失業した兼業農家の間で農業労働者の解雇が発生し、これら兼業農家の生産量が減少 COVIDを受けて買い溜めや安価品に嗜好がシフトするなど国民の消費形態・嗜好が変化 輸入 輸入量の減少により、輸入依存度が高い穀物や農業資材の供給不足が発生する可能性 輸出 航空輸送の高騰により欧州向け輸出量が1/3に減少。近隣諸国向け輸出量への影響は軽微
	Eコマースによる取扱量 テイクアウト・デリバリーによる 取扱量	レストランなどB2B向けが減少する一方、小売店の営業時間短縮などの影響でB2C向けが増加 主要オンラインデリバリーサービスの利用量が3倍に拡大
	消費者マインド	必需品を中心に富裕層・小売店による買占めが発生。全体的に、買い物頻度を減らし一回当たりの購入量を増やす買い溜めが増加
COVID-19により顕 在化したFVCの 課題調査	農業資材 農業生産 保管・輸送 加工 卸・小売	物流の混乱により肥料などの農業資材供給不足が発生。イナゴ被害への対処が遅れる可能性も 財務状況悪化を受け、保険解約など農家による家計見直しが発生。生産では労働者不足の可能性 欧洲向け輸出は航空輸送費の高騰、近隣諸国との輸出入は国境での遅延が発生 融資条件や支払条件が悪化したことで運転資金の逼迫が発生 外出制限・移動制限により市場アクセスが減少。消費者の間でもリアル店舗での消費に不安が発生
現地FVC再構築に 向けた最新動向 調査	消費 各種制限の緩和の動き 政府の支援策 民間企業の事業動向 第3国(企業)・国際組織の動向	物流の混乱などの影響で食料品不足と価格高騰に直面 多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済 農家向けには中長期、消費者向けには緊急的な措置を実施 輸出業者による国内向け販売拡大/提携による消費者へのオンライン配送/零細小売支援など 世界銀行はケニアの農家向けに補助金を交付。電子クーポンにより農薬などの購入を支援



## FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 領在課題 潜在課題\*





## 課題への対応事例は下記の通り

橙色：更新情報

## 課題対応の方向性

## 課題整理フレームワーク

## ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸—  
一時的か不可逆か

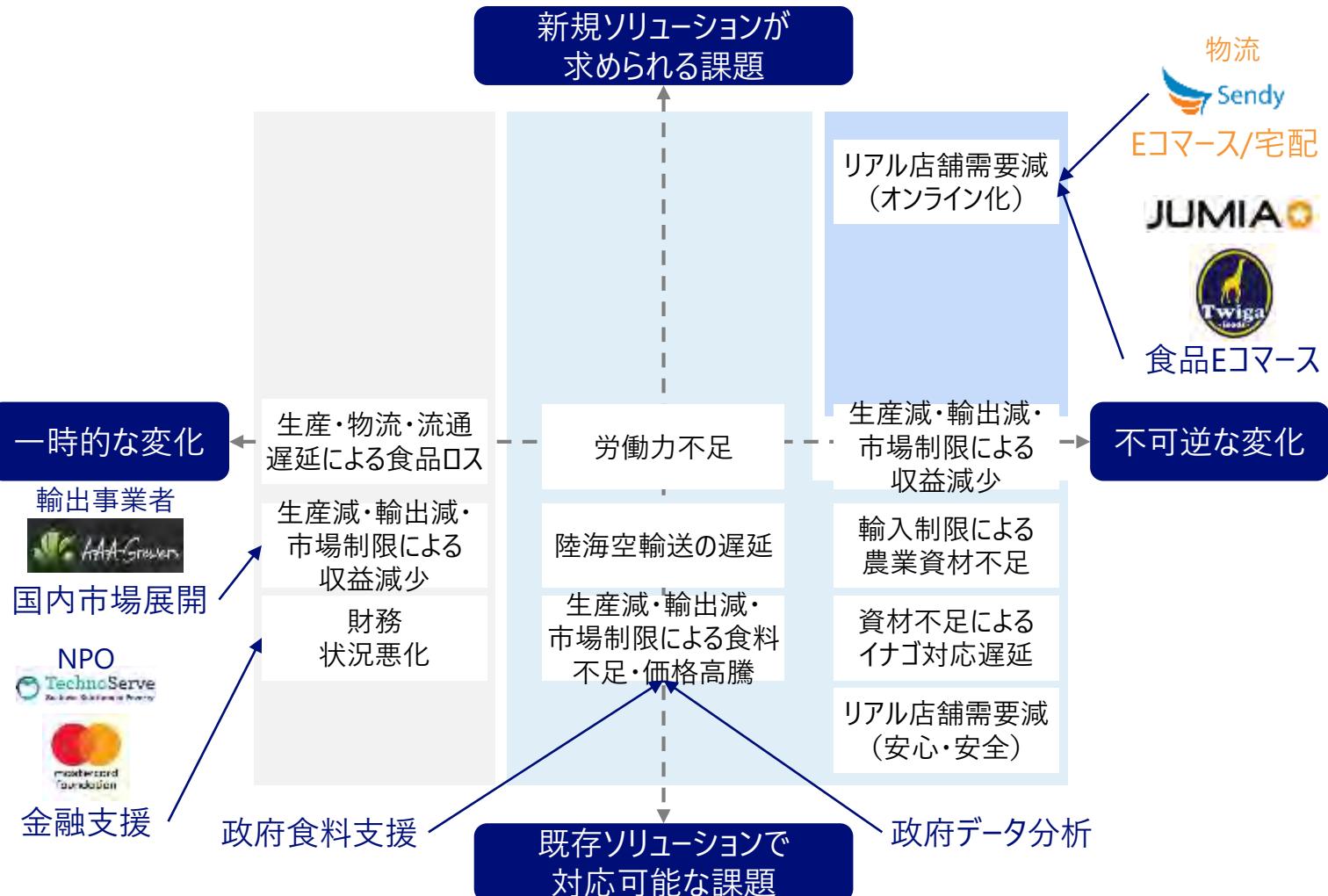
縦：ソリューション軸方向性—  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

## ②課題対応の方向性で整理

止血 オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

レジリエンス 将来のパンデミックを見越（耐性）した備え

肉体改造 価値観・ビジネスモデルの変化への対応



# 令和2年度COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの影響分析調査（アフリカ地域）ナイジェリア 2020年11月

## ナイジェリアの2020年11月号のコンテンツとサマリは下記の通り

橙色：更新情報

報告内容	目次	サマリ
COVID-19による食 市場・物流への影 響と今後の見通し 調査	主要な農産物の生産量	COVIDによる生産への影響は軽微であると見込まれているが、政府は対策として新計画を発表
	主要な農林水産物の消費量	CPIが約8%上昇するなど食品価格が高騰
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	輸入 国境封鎖により物流が混乱した影響で特に米などで減少する可能性 輸出 国境封鎖の影響で減少する可能性
	Eコマースによる取扱量	Eコマースへの機運が高まり需要が増加するとの意見とともに普及に否定的な意見も存在
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	デリバリー事業に参入するスーパーが登場しており、取扱量が増加していく可能性
	消費者マインド	レストランの営業停止や小売店の取引先閉鎖でオンライン取引やデリバリーに注目 輸入量の減少に伴い、国産品の消費量が増加
COVID-19により顕 在化したFVCの 課題調査	農業資材	外貨不足により農業資材の輸入価格が増加し、移動制限による供給遅延も相まって入手困難
	農業生産	労働力不足、農業カレンダーの乱れで収穫量が減少する可能性
	保管・輸送	輸入制限により農業生産量減や航空輸送コスト増が発生。また各地で食品ロスが発生している可能性。港ではCOVIDオペレーションによる遅延が発生。遅延による待機料で輸送コストも増加
	加工	労働力不足により生産・出荷の遅延や停止が発生
	卸・小売	リアル店舗の収益性悪化に伴いEコマースへの期待が高まるが、普及に時間を要する可能性
	消費	価格高騰が発生。また食料支援物資の到着に遅れが発生
現地FVC再構築に 向けた最新動向 調査	各種制限の緩和の動き	国際空港2港を運航再開。夜間外出制限や集会の人数制限は継続
	政府の支援策	農家向け 資金援助のほか種子提供による農業活動支援を実施 FVC全体向け 金融支援、雇用創出に注力
	民間企業の事業動向	ドローンによる消毒剤散布/バイクによる配送サービス / 輸出向け割引 / トマト工場建設/ 食品寄付 など
第3国(企業)・国際組織の動向	生産者向けトレーニング/ 政府プロジェクト支援 など	

## FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り



## FVC上の課題

顕在課題

潜在課題\*

(注) ボックスの大きさと課題の重要度は関連なし

橙色：更新情報



	農業資材	農業生産	保管 & 運送	加工	卸・小売	消費	
ヒト	移動制限による労働力不足 農業カレンダーの乱れによる収穫量減少		港湾のCOVIDオペレーションによる輸送遅延				1 移動制限による輸送の遅延やコスト増がFVCの各工程に打撃
モノ	1 移動制限による資材入手困難 資材調達の遅延による収穫量減少 資材調達の遅延による収入減	移動制限による生鮮食品ロス	輸入制限による生産量低下 輸送制限による食品ロス	原材料・梱包入手困難による出荷停滞 労働者不足による生産の遅延	食料供給量低下による栄養失調 食料支援の到着遅れ		2 FVC全体が資金難に直面している可能性
カネ	2 外貨準備高低下による資材価格上昇	売掛金回収期間の長期化	穀物備蓄開放による食料価格低下 輸送キャパ制限によるコスト増加		消費減少によるキャッシュフロー悪化	可処分所得の低下 食料品価格の高騰	3 Eコマース普及の見通しが不透明
データ/ デジタル	事業継続性への不安		1		3 Eコマース普及への機運と障害		

\*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



## 課題への対応事例は下記の通り

### 課題対応の方向性

#### 課題整理フレームワーク

##### ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸—  
一時的か不可逆か

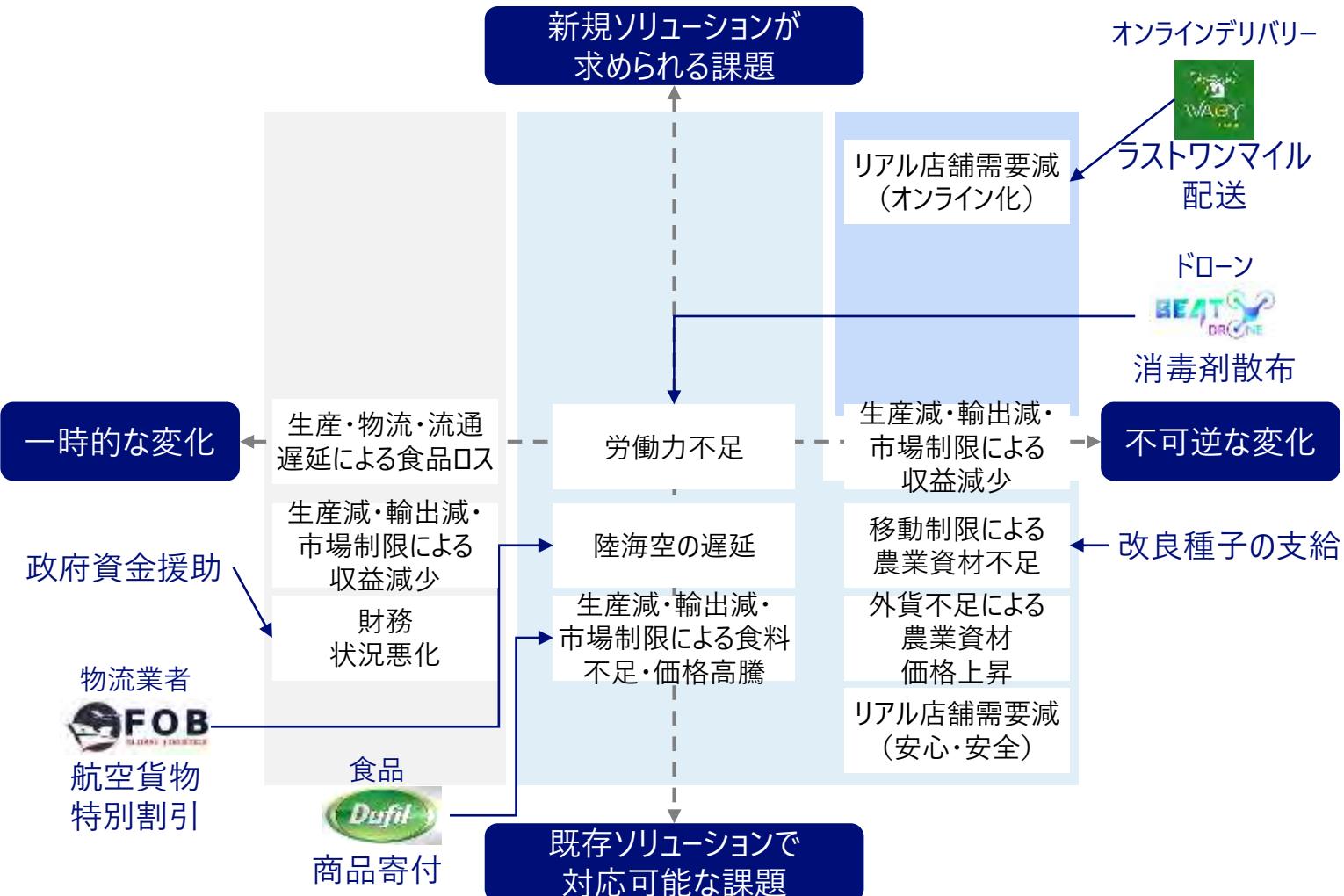
縦：ソリューション軸方向性軸—  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

##### ②課題対応の方向性で整理

止血 オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

レジリエンス 将来のパンデミックを見越  
(耐性) した備え

肉体改造 価値観・ビジネスモデルの  
変化への対応



# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ & サマリ

### 1. 南アフリカ

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

### 2. ケニア

### 3. ナイジェリア

令和2年度COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの影響分析調査（アフリカ地域）南アフリカ 2020年11月  
南アフリカの2020年11月号のコンテンツとサマリは下記の通り



報告内容	目次	サマリ	ページ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	農業がロックダウン対象から外れ、また好天候も追い風となったため、COVID下にも関わらず生産量は増加見込（特にトウモロコシは前年比30%増）	18
	主要な農林水産物の消費量	レストランや小売の営業停止・縮小により食肉を中心に減少見込	19
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	輸入  輸入元国における輸出制限により減少見込 輸出  短期的には減少したものの、生産状況が良好のため輸出機会が増える可能性	20,21
	Eコマースによる取扱量	包装食品におけるEコマースの利用割合は依然低いものの、COVIDにより0.3%から1.9%に増加	22
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	COVIDを受け自宅消費需要が高まり、外食サービスに占める利用割合は宅配・テイクアウト合わせて前年度から12.3%増加	22
	消費者マインド	高所得者層ではビーガンフードなど健康志向が高まっている。COVIDを経て全所得層で低価格食品・オンライン注文需要が増加	24,25
COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	農業資材	農業資材は輸入依存構造のため、 <b>輸入の減少</b> 、港湾オペレーションの混乱が資材調達に影響	28
	農業生産	2020年の農産物生産量は増加しており、COVIDによる生産量への影響は限定的。 ただし、消費・輸出需要の減少で農家収益への打撃は発生	29
	保管・輸送	主に船舶・航空輸送の混乱により流通の遅延・価格高騰が発生	30
	加工	港湾での遅延、移動制限、サプライヤーの出荷遅延などが原因で原材料などの調達に遅延発生	31
	卸・小売	移動制限や店舗利用制限により卸・小売事業者の収益性に影響が生じている一方、オムニチャネルへの新たな動きが活発化	32
	消費	消費者は食料品不足と価格高騰に直面	33
現地FVC再構築に向けた最新動向調査	各種制限の緩和の動き	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済	36
	政府の支援策	農家や中小企業への金融支援、食料価格のモニタリングなどを実施	37
	民間企業の事業動向	オンラインプラットフォーム利用増加/ 工場操業停止/ 安全措置実施/ オムニチャネル強化など	38-41
第3国(企業)・国際組織の動向	FAOは害虫監視アプリを開発し、農家の被害抑制を支援	42	



## FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

## FVC上の課題

顕在課題

潜在課題\*

橙色：更新情報

農業資材

農業生産

保管 &amp; 運送

加工

卸・小売

消費

ヒト

① 移動制限・営業/操業制限・COVID感染

② 輸送キャパ減少による農業資材供給遅延

輸入依存リスク顕在化

通貨安が輸入にダメージ

③ 来期の収穫遅延の可能性

輸出価格下落による収益減

財務状況悪化

④ 輸送キャパ減少による輸送遅延

移動制限による陸上輸送遅延

輸送キャパ減少、遅延によるコスト増加

輸出量の減少

FVC寸断による食品ロス

原材料など調達の遅延  
財務が脆弱な中小企業の経営悪化

⑤ インフォーマル流通・屋外市場制限

レストランおよび食肉需要低下  
市場閉鎖による小売業者の収益減

短期的な食料品不足

パンデミック期の価格高騰

オムニチャネル需要増加

モノ

力ネ

データ/  
デジタル

- 1 課題の多くは移動制限が原因
- 2 農業資材は輸入依存構造
- 3 2020年の収穫への影響は軽微。ただし財務状況に問題
- 4 港湾・航空の輸送キャパ減少が遅延・コスト増の原因
- 5 観光客激減が外食関連サービスに打撃

\*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



## 課題への対応事例は下記の通り

## 課題対応の方向性

## 課題整理フレームワーク

## ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸—  
一時的か不可逆か

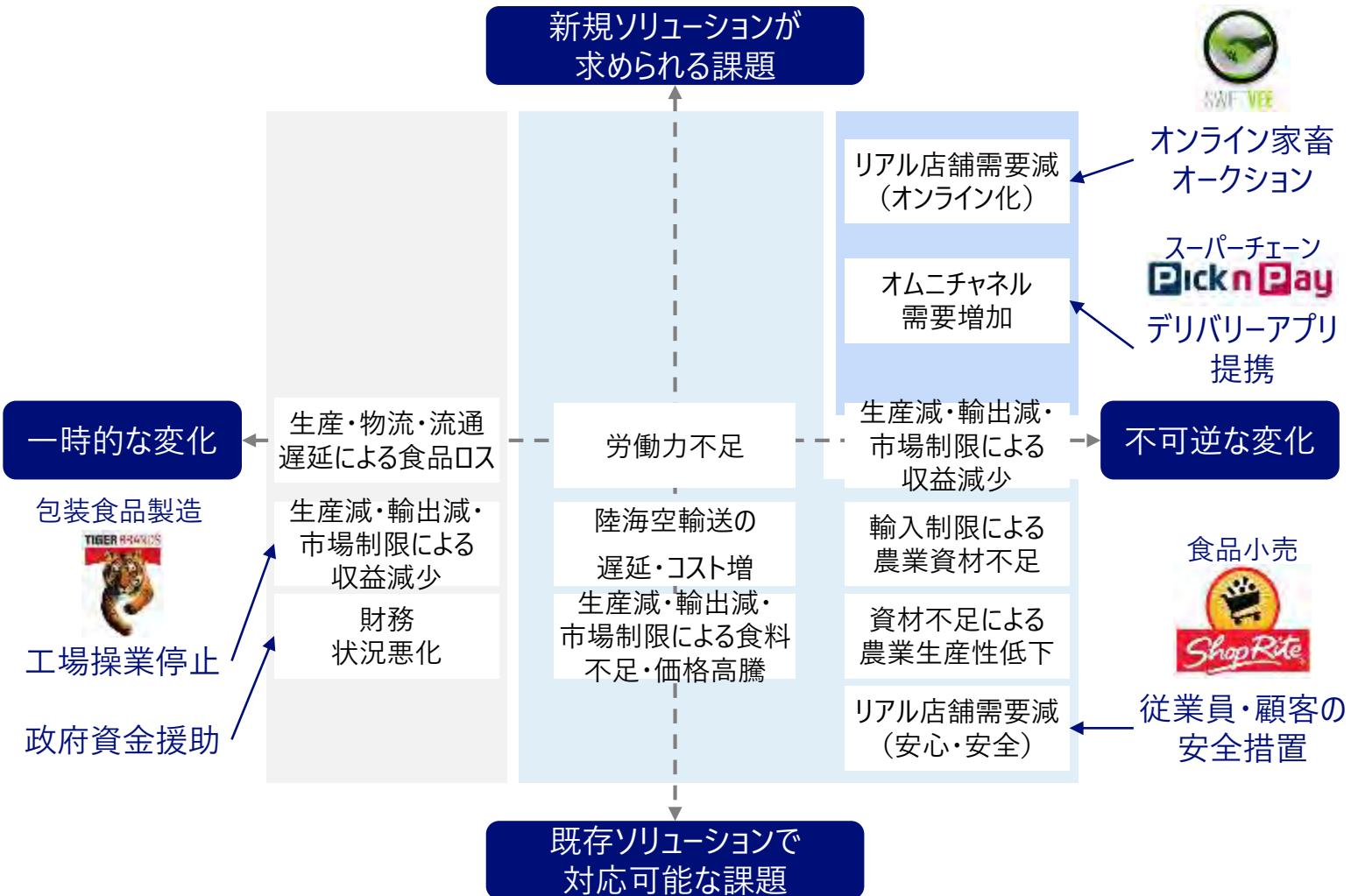
縦：ソリューション軸方向性軸—  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

## ②課題対応の方向性で整理

止血 オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

レジリエンス 将来のパンデミックを見越して備え

肉体改造 価値観・ビジネスモデルの変化への対応



# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ & サマリ

### 1. 南アフリカ

#### 1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

### 2. ケニア

### 3. ナイジェリア

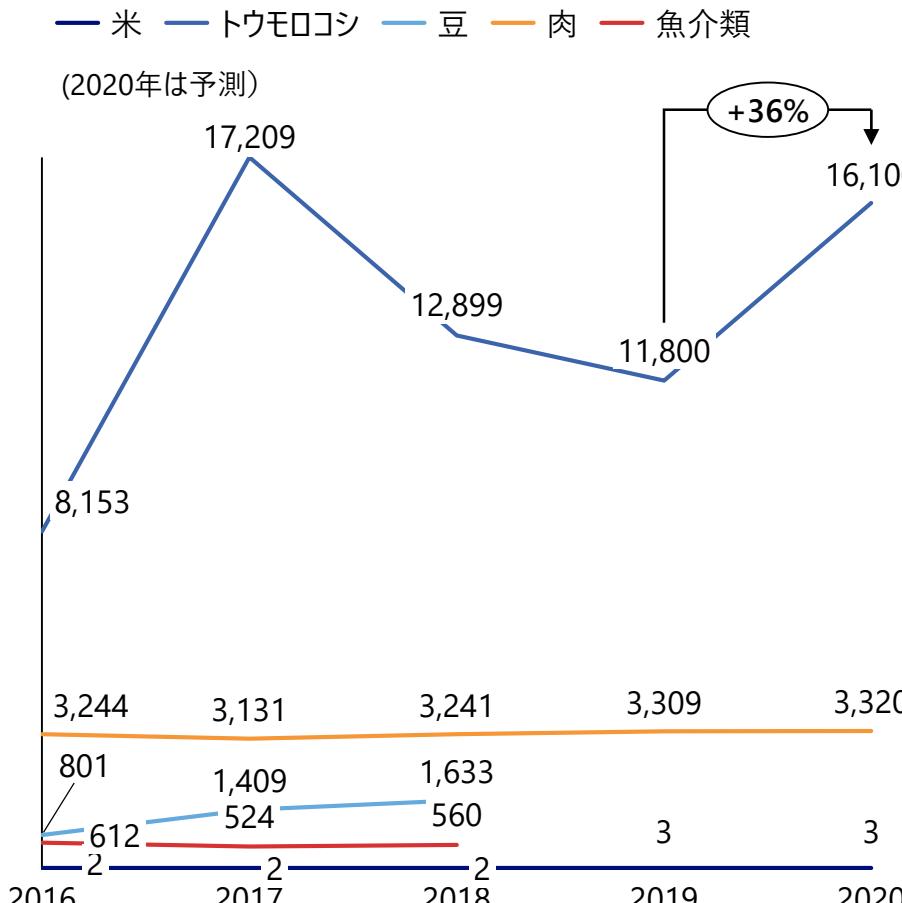
## COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し | 生産量



農業がロックダウン対象から外れ、また好天候も追い風となったため、  
COVID下にも関わらず生産量は増加見込（特にトウモロコシは前年比30%増）

## 主要農林水産物の生産量推移、2016-2020（千トン）

赤色：COVIDによる主な影響 橙色：今月号の更新情報



## キートレンド/特徴

## トウモロコシ：主要な生産地域

- トウモロコシは主に北西州、ム普ランガ州、自由州、クワズール・ナタール州で主要農産品として生産

## トウモロコシ：天候により左右

- 2015・16・18年は干ばつによる降雨量の減少や霜によるダメージなど悪天候に見舞われたためトウモロコシの生産量が減少
- 2017・19年は良好な気候となつたために生産量が増加

## 豆：財布に優しい栄養源

- 加工・缶詰豆は南アフリカでは多くの郷土料理に使われており、手ごろな価格で栄養価が高いため全所得層で人気
- 近年、芳しくない経済状況が続く中（2016-19年のGDP成長率は0.15～1.4%、失業率25%以上）、缶詰豆を栄養源として選択する傾向

## COVID-19による変化

## 他セクターに比ベダメージは軽微

- 農業は政府により必須サービスに指定。ロックダウン下でも稼働可能で、また今年度は天候に恵まれたため、トウモロコシなどコモディティの生産量が増加見込み。
- トウモロコシについては、好調のため農家は作付面積を2019/2020年の240万haから2020/21は264万haに8.3%増加させる見通し
- 上記理由から製造業など他産業と比較してCOVIDによるダメージは少ないと想定



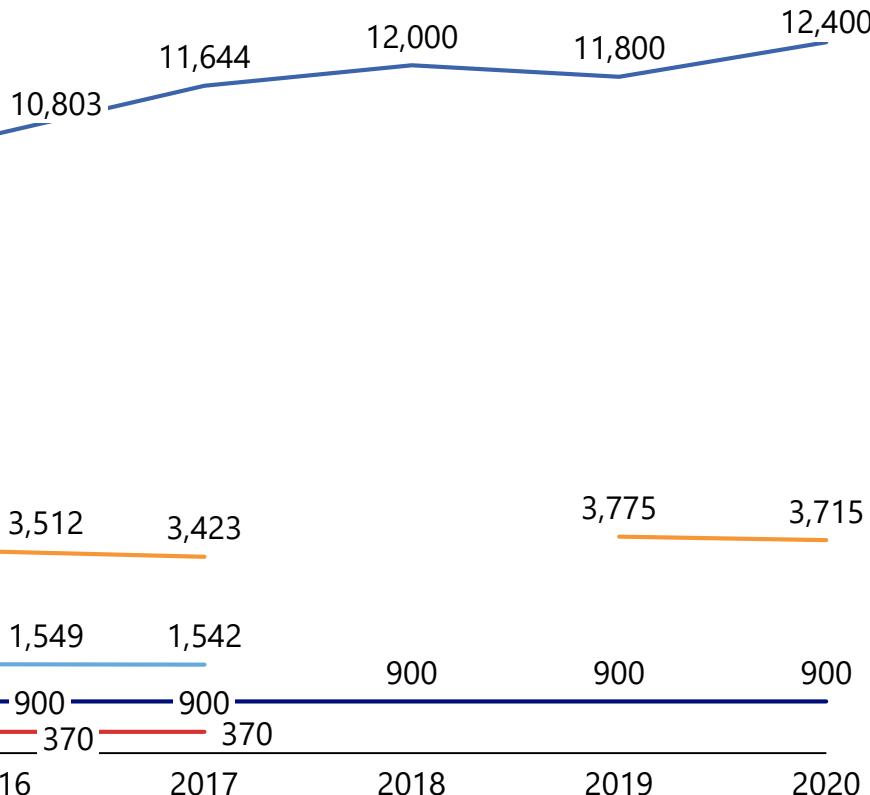
## レストランや小売の営業停止・縮小により食肉を中心に減少見込

主要農林水産物の消費量推移、2016-2020（千トン）

赤色：COVIDによる主な影響

— 米 — トウモロコシ — 豆 — 肉 — 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類の2019-20、肉の2018はデータなし。肉についてはEuromonitorにデータがあるが、FAOと乖離するため記載していない

Source: FAO, ニュース記事

## キートレンド/特徴

## トウモロコシ：主食

- トウモロコシは南アフリカの最も重要な主食作物で全国的に生産・消費。とりわけ低所得者層の食生活はトウモロコシを中心

## 魚介類：健康食品として注目

- 魚介類は肉類よりも健康に良いと考える人が増加。健康意識の高い富裕層を中心に消費が増加
- また、政府は食料安全保障の観点から持続的な魚介類の供給量増加を目指してOperation Phakisaを2018年に開始。魚介類の消費量増加を後押し

## COVID-19による変化

## レストラン営業停止および貿易制限による消費減少

- COVIDによるレストラン・小売店の営業停止や縮小により、2020年度の農林水産物の国内消費量は肉類を中心として減少する見込み
- 米の主要輸入元であるインド・ベトナムにおける輸出制限により米の供給量が減少。また世界的な米価格の上昇が消費量に影響を与える可能性
- トウモロコシについては影響は軽微との見込み

## 輸入元国における輸出制限により減少見込

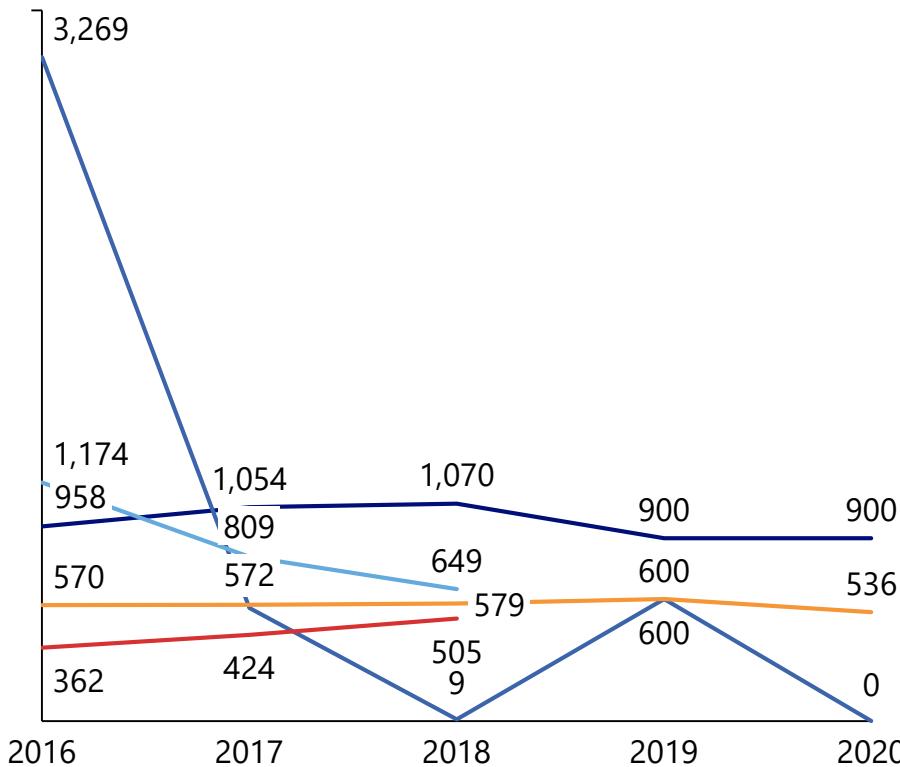


主要農林水産物の輸入量推移、2016-2020（千トン）

赤色：COVIDによる主な影響

— 米 — トウモロコシ — 豆 — 肉 — 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類の2019-20はデータなし

## キートレンド/特徴

## 主要輸入元

- トウモロコシ：ブラジル、アルゼンチン
- 米：タイ（80%）、インド（20%）
- 豆：中国、エチオピア、米国
- 肉：ブラジル（50%）、オランダ、スペイン、イギリス
- 魚介類：ナミビア、米国、ベトナム、ノルウェイ

魚介類：  
健康食品として注目

- 富裕層の中で健康食品への関心が高まっており、魚介類は肉類よりも健康と考えられていることで輸入量が増加

豆：輸入から  
国産にシフト

- 2016年以降、安い国産豆の人気が高まったことで輸入量減少

## 鶏肉：鳥インフルエンザによる輸入増加

- 2018年に鳥インフルエンザが流行したことで約500万羽の鶏を殺処分。鶏の供給量が不足し、結果として特にブラジルからの輸入量が増加

## COVID-19による変化

輸入元国  
における  
輸出制限

- COVIDにより輸入元国において輸出が制限され（収穫量の減少による自国内流通の優先、輸出業務の停止・遅延など）、特に米の輸入が悪影響を受ける可能性



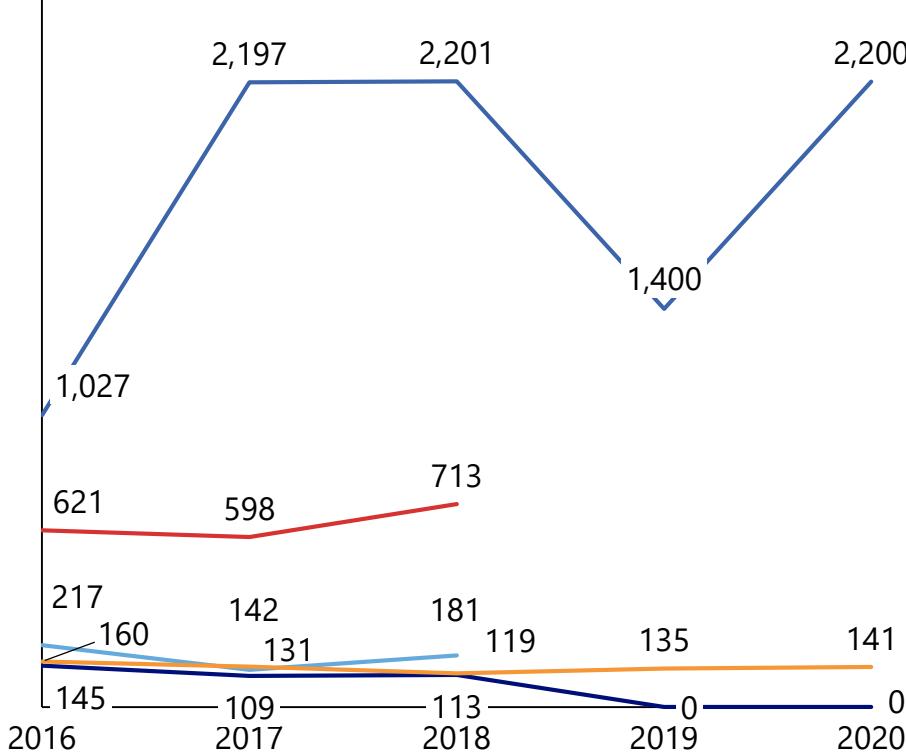
## 短期的には減少したものの、生産状況が良好のため輸出機会が増える可能性

主要農林水産物の輸出量推移、2016-2020（千トン）

赤色：COVIDによる主な影響

— 米 — トウモロコシ — 豆 — 肉 — 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類の2019-20はデータなし

## キートレンド/特徴

## 主要輸出先

- トウモロコシ：ベトナム、韓国、ボツワナ、イタリア、日本
- 米：エスワティニ、ジンバブエ、ボツワナ（近隣諸国への再輸出）
- 豆：エスワティニ、UAE、インド
- 肉：モザンビーク、レソト、ナミビア、クウェート、ベトナム
- 魚介類：欧州（主にスペイン・フランス）、日本、イギリス、米国、中国、豪州、モザンビーク

トウモロコシ：  
生産量減少による輸出減少

## COVID-19による変化

輸出市場での  
他国代替の  
可能性

- 2018年は干ばつの影響で生産量が落ち込み輸出量も減少

- COVIDを原因としたサプライチェーン・物流の混乱により短期的に輸出量が減少
- 一方、生産量には大きな影響がなく、影響を受ける他国に代わって輸出機会が増える可能性。実際にデータ上では昨年比で大幅増加見込み

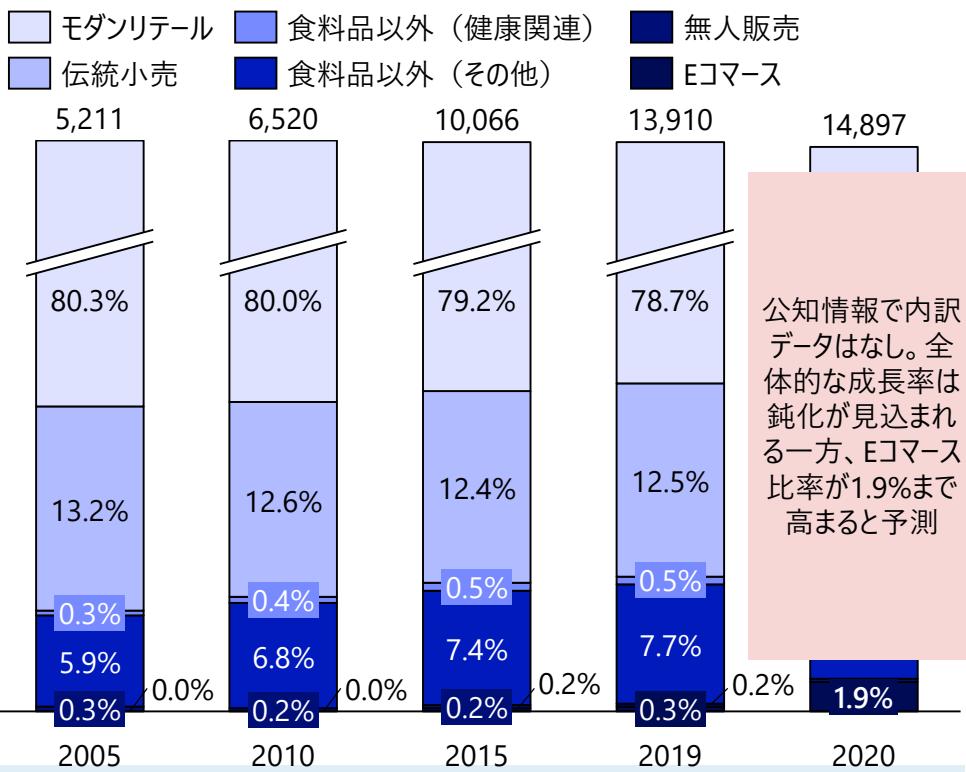


## COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

包装食品| Eコマースの利用割合は依然低いもののCOVIDにより0.3%から1.9%に増加

外食サービス| COVIDを受け自宅消費需要が高まり、宅配・テイクアウト合わせてシェア12.3%増加

### 包装食品の販売チャネル割合（百万ドル）



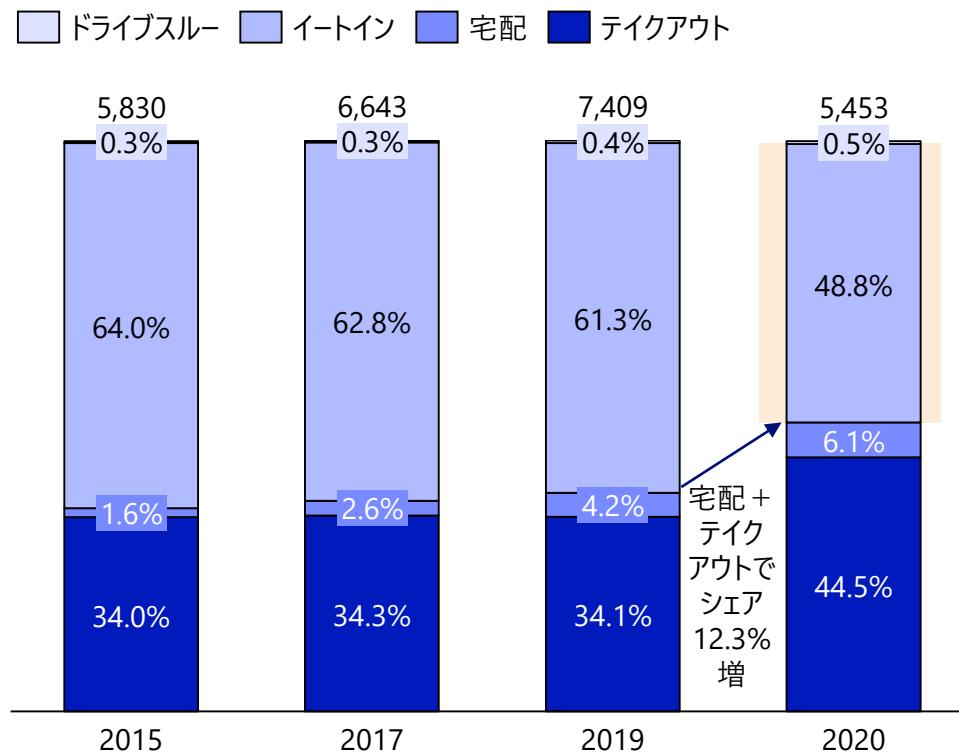
- 包装食品の主要チャネルはモダンリテール（スーパー・マーケット、ハイパー・マーケット、コンビニ）で特に全体の約60%がスーパー・マーケット
- COVIDによりリアル店舗が営業停止したこと、オンライン販売が増加。例えば伝統的小売はWhatsAppを通じて注文を受ける取組を開始

(2020年は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

赤色：COVIDによる主な影響

### 外食サービスの利用チャネル割合（百万ドル）

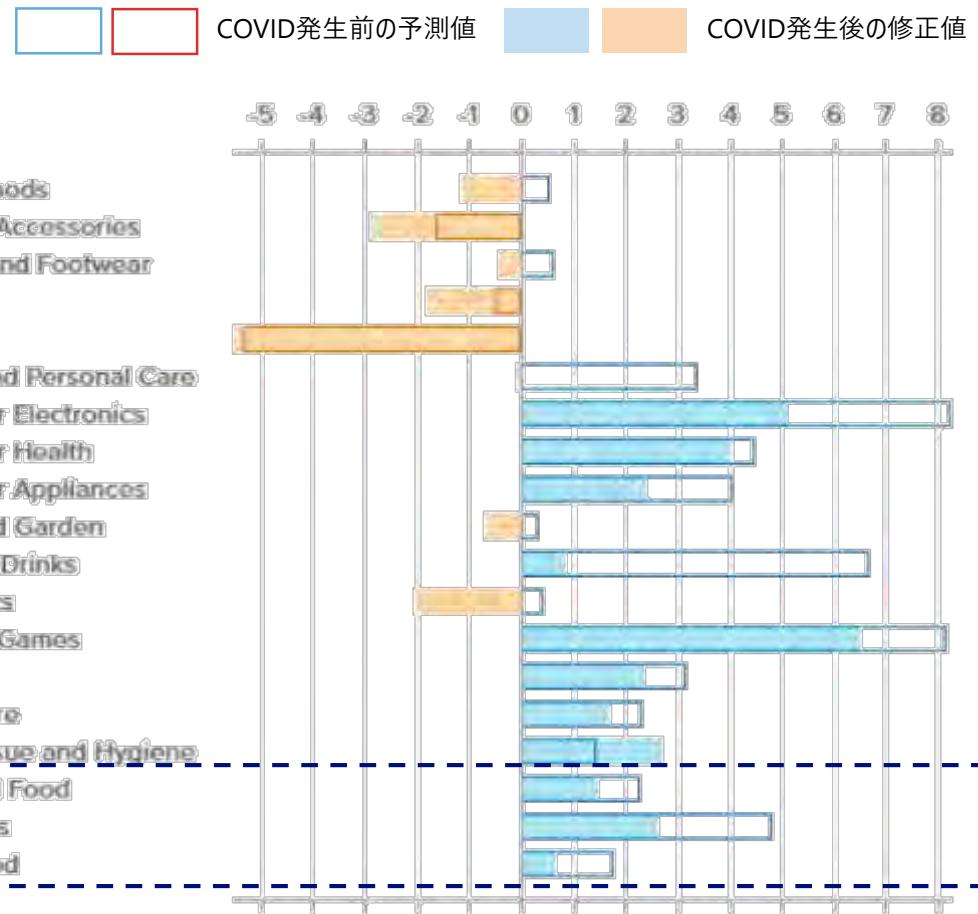


- イートイン（61%）およびテイクアウト（34%）が外食の太宗
- 割合は未だ小さいものの、宅配への関心が近年徐々に増加。COVIDにより自宅消費需要が高まっているため、この傾向は加速していく見通し



## 【参考】COVID-19により、食品小売の今年度の成長率は1~2%下落する見込み

2019-20年のカテゴリー別小売販売の成長率予測（%）



- ほとんどの小売セグメントの成長率は、COVID発生前の予測値から下方修正
- 包装・生鮮食品で1%、ホットドリンクで2%程度下振れるとの予測
- パニック購買や店舗の早期再開により、包装・生鮮食品への成長鈍化圧力は相対的に軽微

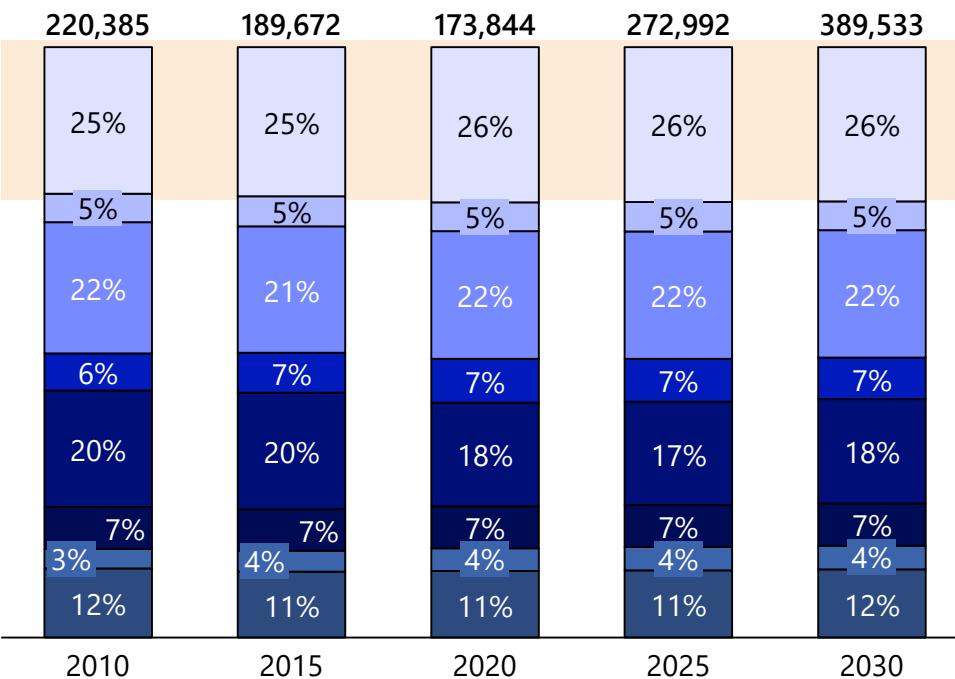
## COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

## 必需品以外の製品需要や衝動買いが減少する一方で巣ごもり需要が増加するなど購買行動が変化



## 消費者支出内訳(百万ドル)

飲食料	住宅	移動	教育
衣料	健康	レジャー	その他



- 消費者支出合計に占める飲食料の割合は約26%を占め、COVIDを経ても今後10年の間に大きな変化は見られないと予測
- 2020-30における消費量は年平均で6%成長する見込み

(2020年以降は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事、インタビュー

赤色：COVIDによる主な影響 橙色：今月号の更新情報

## 主要な消費者トレンド

## 背景

- 若者・拡大する消費者層が食料消費の成長を下支え
- 人口成長が消費量を刺激。一方、高い失業率、政策の不確実性、腐敗の蔓延などが消費意欲を阻害

便利さ  
=最重要

- 消費者の生活がますます多忙となる中、宅配サービスやテイクアウトの需要が増加。**この傾向はCOVIDにより加速**

植物由来製品  
の需要増加

- 肉製品の人気が高い一方、健康志向の高まりを受けて植物由来製品需要も増加

販売・  
マーケティング  
チャネルの変化

- 食品・ブランド認知を高めるための重要なファクターとしてソーシャルメディア利用率が増加
- COVIDにより宅配サービス事業者が増加し、個人経営店による宅配サービス利用率が増加**

健康志向の  
高まり

- 健康志向の高まりを受け、ビーガン・ベジタリアン向け飲食料品への需要が増加

購買行動の  
変化

- 必需品への需要はコンスタントである一方、必需品以外の製品への需要が減少

購買決定者の  
変化

- 衝動買いが減少し、より目的に沿った買い物が増加。また一回当たりの購買量も増加
- 例えば夫の買い物機会が増加するなど買い物時の意思決定者が多様化しており、ブランド・製品選択要素が変化

巣ごもり  
需要増加

- パスタ・缶詰などの保存食や、自宅で過ごす時間を楽しむためのお菓子などの需要増加
- 加工済の乳児向け食品需要が低下。ワーキングマザーが自身で料理するようになった事が原因

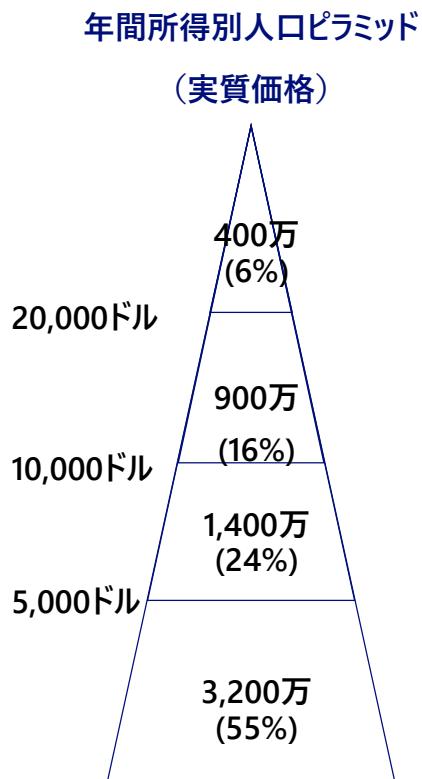


## COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

高所得者層ではビーガンフードなど健康志向が高まっている。

COVIDを経て全所得階層で低価格食品・オンライン注文需要が増加

### 所得別の消費者行動



#### COVIDによる変化

年間所得別人口ピラミッド (実質価格)	食製品	購買チャネル	外食サービス
20,000ドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>便利で味の良い冷凍・パッケージ食品、冷凍魚介類を嗜好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モダンリテール（ハイパーマーケット/スーパー、惣菜店）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストラン、ニッチな食品（ビーガンフードなど）、ジュースキオスク、移動式コーヒーシップ</li> </ul>
10,000ドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>パッケージ・生鮮食品を主に消費</li> <li>主なタンパク質源は肉類</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モダンリテール・伝統小売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストラン、テイクアウト専門店、屋外市場</li> </ul>
5,000ドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>パッケージ・生鮮食品を主に消費</li> <li>主なタンパク質源は豆類</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>価格重視</li> <li>生鮮食品・コモディティ食品を主に消費。生魚も消費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パパママストア、屋外市場など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋台、キオスク</li> </ul>
COVIDによる変化		<ul style="list-style-type: none"> <li>ロックダウン前にパニック購買が発生</li> <li>衝動買いが減少</li> <li>伝統小売は注文にWhatsAppを利用 (M-Commerce)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストラン・テイクアウト店舗需要が減少</li> </ul>

# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ & サマリ

### 1. 南アフリカ

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

### 2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

### 2. ケニア

### 3. ナイジェリア



## FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

## FVC上の課題

顕在課題

潜在課題\*

橙色：更新情報

農業資材

農業生産

保管 &amp; 運送

加工

卸・小売

消費

ヒト

① 移動制限・営業/操業制限・COVID感染

② 輸送キャパ減少による農業資材供給遅延

輸入依存リスク顕在化

通貨安が輸入にダメージ

③ 来期の収穫遅延の可能性

輸出価格下落による収益減

財務状況悪化

④ 輸送キャパ減少による輸送遅延

移動制限による陸上輸送遅延

輸送キャパ減少、遅延によるコスト増加

輸出量の減少

FVC寸断による食品ロス

原材料など調達の遅延  
財務が脆弱な中小企業の経営悪化

⑤ インフォーマル流通・屋外市場制限

レストランおよび食肉需要低下  
市場閉鎖による小売業者の収益減

短期的な食料品不足

パンデミック期の価格高騰

オムニチャネル需要増加

モノ

力ネ

データ/  
デジタル

- 1 課題の多くは移動制限が原因
- 2 農業資材は輸入依存構造
- 3 2020年の収穫への影響は軽微。ただし財務状況に問題
- 4 港湾・航空の輸送キャパ減少が遅延・コスト増の原因
- 5 観光客激減が外食関連サービスに打撃

\*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

農業資材は輸入依存構造のため、輸入の減少、港湾オペレーションの混乱が資材調達に影響

### トピック

### 課題

### 内容

#### 顕在課題

#### 潜在課題

#### 課題分類

#### ① ヒト

#### ② モノ

#### ③ カネ

#### ④ データ

#### 農業資材供給

① ②

港湾オペレーションの混乱による農業資材供給の遅延



②

輸入依存リスク顕在化



③

通貨安による輸入減少

- 南アフリカは肥料・農薬・農機の多くを輸入に依存。例えば肥料は80%、農薬は95%が輸入品
- 港湾施設の稼働停止・縮小により、農薬、肥料、植物材料、農機などの農業資材の輸入供給に遅延が発生

- 農業資材は輸入依存のため、国際価格・為替レート、輸入元国での流通コストが影響  
⇒輸入元国のサプライチェーンでの供給量減少や輸出制限がかかった場合、価格高騰や流通制限が発生し、収穫が遅延するなどの影響を受ける可能性

- ランド安が原因でインフレが進んだことで輸入控えが発生



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

2020年の農産物生産量は増加しており、COVIDの生産量への影響は限定的。  
ただし、消費・輸出需要の減少で農家収益への打撃は発生

### トピック

### 課題

### 内容

#### 顕在課題

#### 潜在課題

#### 課題分類

##### ① ヒト

##### ② モノ

##### ③ カネ

##### ④ データ

### 農家の収益



#### ③

輸出価格下落による  
収益減少

#### ③

**財務状況の悪化**  
(課題顕在化を確認)

#### 内容

- トウモロコシ（10%）、大豆（8%）、小麦（6%）など、3月から4月にかけて主要な農産物価格が世界的に下落しており、農家の収益に打撃

#### ① ②

来期の収穫遅延の  
可能性

- 2018年時点の農業債務残高は過去最高の1,680億レアルに到達。うち60%が商業銀行、29%が土地銀行、残りは農協、民間人、その他の機関からの負債。また2019年度の干ばつによる作付期、収穫期の損失が農家の財務状況に深刻な影響→当初は2020年度は回復期と見込まれていたが、COVID-19による需要低下により短期的な財務状況の改善は困難
- 好調な生産量に反して消費量が減少したことや、資材価格が高騰したことが収益性に影響**
- トウモロコシ、粟、モロコシ、大豆などの主要農産物の生産は、種付、収穫、収穫後の処理など多くの工程を近隣の町や集落から移動してくる季節労働者に依存
- 農業が必須事業に認定されたことから影響は最小限にとどまったものの、今後移動制限が厳しくなる場合、来期への準備段階での影響を受ける可能性

### 農業生産





## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 主に船舶・航空輸送の混乱により流通の遅延・価格高騰が発生

橙色：更新情報

## トピック

## 課題

## 内容

## 顕在課題

## 潜在課題

## 課題分類

## ① ヒト

## ② モノ

## ③ カネ

## ④ データ

## 船舶輸送



① ②

港湾オペレーションの混乱・輸送キャパシティ制限による輸送遅延

① ③

港湾オペレーションの混乱・輸送キャパシティ制限によるコスト増加

## 航空輸送



②

航空輸送コスト増加

## 陸上輸送



① ②

移動制限による輸送の遅延

- ケープタウンで稼働している港湾施設数が減少し、オペレーションに遅延が発生
- 輸入量の減少により、特に海上輸送に必須となる冷凍用コンテナが不足
- ロックダウン後、港湾施設のキャパシティは通常の30%にまで縮小し、貨物の積み込み時間が増加（1隻当たり最大25日必要）

- ケープタウン港において、港湾オペレーター間で感染が拡大したためにオペレーションが遅延し、入港できない沖待ちの船が発生
- 港湾が混雑すると船会社・物流業者は荷主に対して船混み割増料金（congestion surcharge）を請求するため、荷主の物流コストが増加
- 輸送キャパシティ減少により交渉力のある大手でもスペース取得困難に。輸送コストも増加。年末は繁忙期のため、11-12月にかけて状況が悪化

- 生鮮食品や季節性商品は、南アフリカでは航空輸送により流通
- ロックダウン後、新型コロナ割増料金（Covid-19 Surcharge）や航空便数減少を原因として輸送キャパシティが減少した結果、航空貨物運賃が1,80ドル/kgから3,00ドル/kgまで上昇。
- 11月時点でも3-4倍の価格となっており、生鮮食品や季節性商品の価格高騰の原因

- ロックダウン・州間移動の制限により農産物品の輸送でも遅延が生じている可能性



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 港湾での遅延、移動制限、サプライヤーの出荷遅延などが原因で原材料などの調達に遅延発生

橙色：更新情報

トピック	課題	内容	顕在課題	潜在課題	課題分類	①ヒト	②モノ	③カネ	④データ
農産物加工	①② FVC寸断による食品ロス	<ul style="list-style-type: none"> <li>包装・加工工程あるいは前工程での労働力の制限により生産量の減少やオペレーションの遅延が発生し、結果として食品ロスが増加する可能性（加工食品工場に関しては、工場勤務者は職場近くに住んでいたため影響は軽微）</li> <li>例えばフルーツでは、パックハウス、トラック輸送施設、市場、港など各工程で遅延することにより鮮度が劣化し、廃棄処分が増加する可能性</li> </ul>							
	③ 輸出量の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後収穫され加工・輸出されていく農産物は、輸出量が輸出先国の輸入制限措置に依存</li> <li>例えばフルーツでは、ブドウは既に大部分が加工・輸出済みのため影響は軽微。一方、これからシーズンとなる柑橘類の輸出は欧州諸国の輸入措置次第</li> </ul>							
	②③ 財務体質が脆弱な中小企業の経営悪化	<ul style="list-style-type: none"> <li>南アフリカの食品加工産業は10社が76%を占める構造。これら大企業は強固なサプライチェーン（小売・レストランへ直販も可能）・財務基盤を有しているためCOVIDによる影響は限定的</li> <li>一方、中小企業は小規模かつ分散している卸や小売、Spaza（パパママストア）などに製品を提供しており、特に財務基盤が脆弱な企業ほど物流網の混乱により打撃を受ける可能性</li> </ul>							
調達・輸送	② 原材料・資材・生産財調達の遅延 (顕在課題確認)	<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾での遅延、移動制限、サプライヤーの出荷の遅延などのサプライチェーンの混乱により、原材料・包装材料・化学品・スペアパーツ、生産機械の調達に遅延が発生し、加工・生産に影響が発生</li> </ul>							



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

移動制限や店舗利用制限により卸・小売事業者の収益性に影響が生じている一方、オムニチャネルへの新たな動きが活発化

### トピック

### 課題

#### 流通・小売



① ②

インフォーマル流通・屋外  
食品市場の制限による  
流通量の低下

② ③

市場閉鎖による  
小売業者の収益減

① ④

オムニチャネル需要増加

#### 外食サービス



① ③

レストランおよび  
食肉需要の低下

### 内容

#### 顕在課題

#### 潜在課題

#### 課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

- 治安部隊がインフォーマル流通を扱う小売業者の移動や屋外食品市場の営業を制限
- その結果、インフォーマル小売業者は生鮮市場からの購入や農村部での通常販売ができなくなり、流通網に悪影響が発生

- 6月にハウテン州プレトリアのツワネ市場を閉鎖した結果、最大2,800万レアル（160万米ドル）の売上損失が発生（南アフリカの生鮮食品卸企業 RSAグループCEOのJaco Oosthuizen氏談）

- 食料品のリアル小売店や外食サービスの多くが営業停止・縮小あるいは顧客の来店数が減少する中、オムニチャネルの重要性が増加  
⇒例えばレストランチェーンのMr D Foodは、小売のforecourts、薬局のMedirite pharmaciesとの提携を通じて業態を食品・医療品のデリバリーサービスに転換

- イートインの営業停止は特にイートイン利用が多いカフェ・バー・レストランに影響。**11月時点でロックダウンはレベル1まで緩和されている一方、夜間の外出禁止令は継続しており、深夜帯の消費に依然として打撃**
- ロックダウンにより外食チェーンの需要が減少したことで食肉需要も減少し、食肉生産者の収入に打撃



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 消費者は食料品不足と価格高騰に直面

## トピック

## 課題

## 内容

## 顕在課題

## 潜在課題

## 課題分類

## ①ヒト

## ②モノ

## ③カネ

## ④データ

食料品流通



②

短期的な食料品不足

食料品価格

② ④

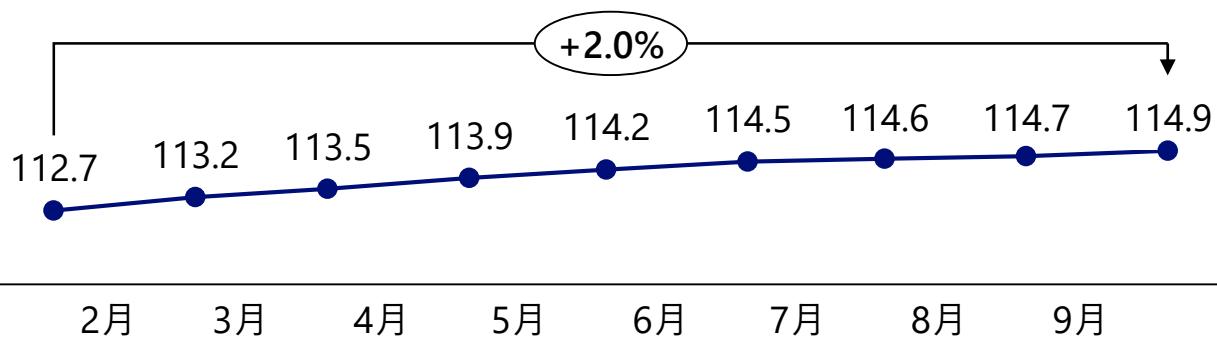
パンデミック期間における  
価格高騰

- 特定都市（Central Karoo州のMurraysburgやMerwevilleなど）は、食品物流が弱く、ロックダウンの結果として必要不可欠な食料品の不足が発生

- 4月前半の間に、ロックダウンによるパニック購買やサプライチェーンの遅延の影響により必須食品の価格が3～10%上昇
- 主な製品の上昇率は下記：牛乳、卵＆チーズ (+3%)、牛ミンチ (+7%)、果物 (9%)、野菜 (10%)、果物 (3%)

## 食品における消費者物価指数 (2020年1月—9月) (2016年12月を100とする)

- 食品価格全体としては、2020年1月と9月を比較すると2.0%程度上昇



# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ & サマリ

### 1. 南アフリカ

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

### 3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

### 2. ケニア

### 3. ナイジェリア



## 南アフリカ コンテンツ & サマリ - COVID-19 により顕在化したFVCの課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

### 課題への対応事例は下記の通り

#### 課題対応の方向性

##### 課題整理フレームワーク

###### ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸 –  
一時的か不可逆か

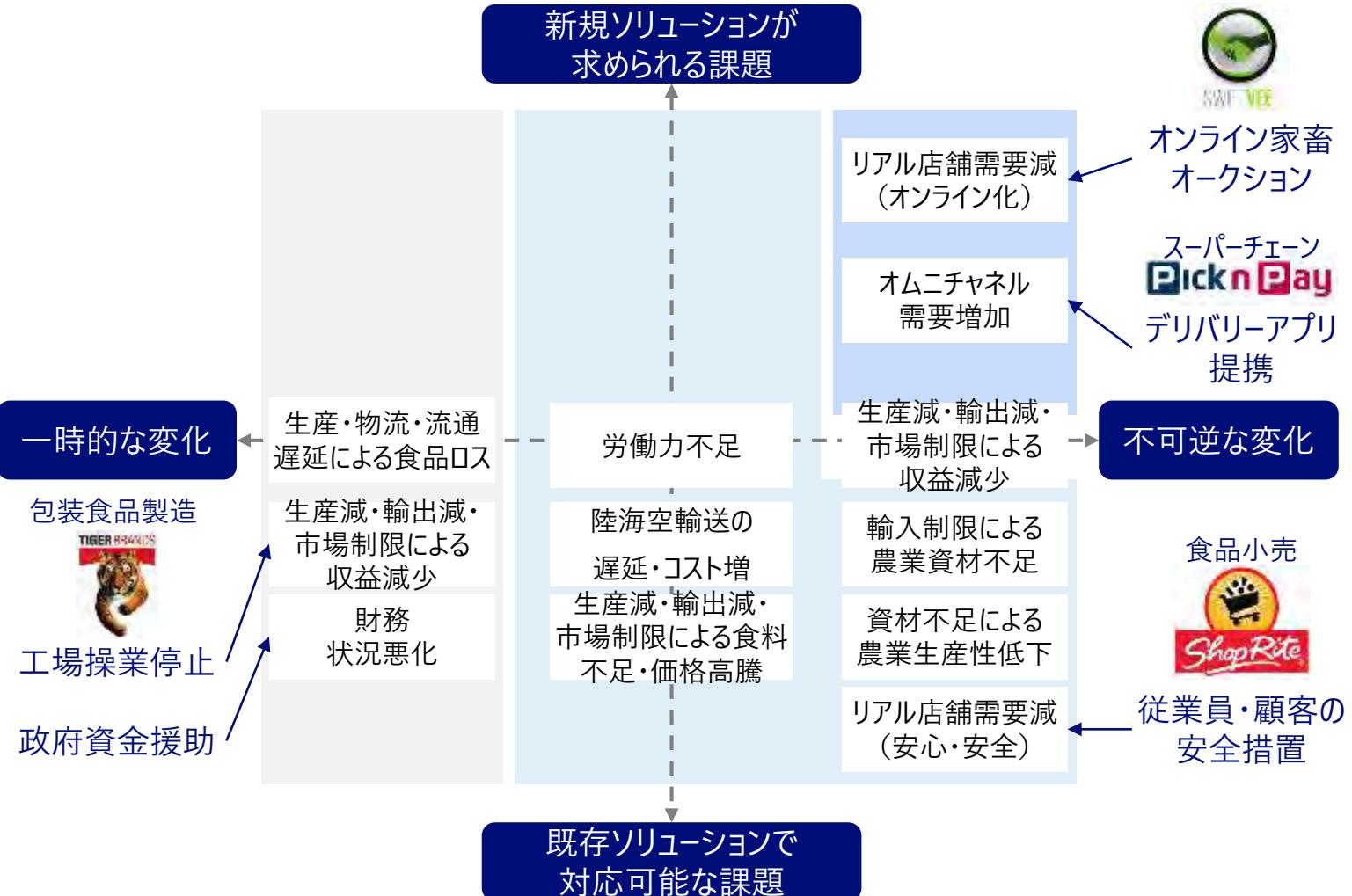
縦：ソリューション軸方向性軸 –  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

###### ②課題対応の方向性で整理

止血 オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

レジリエンス 将来のパンデミックを見越  
(耐性) した備え

肉体改造 価値観・ビジネスモデルの  
変化への対応





## 現地FVC再構築に向けた最新動向

# 多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済

個人	国内移動
	国際移動
	その他
ビジネス	農業
	ロジスティクス
	製造業
	小売・レストラン

COVID-19による制限	
国内移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月にすべての国内移動を制限</li> <li>午後10時～午前4時までの夜間外出を禁止</li> </ul>
国際移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月に入国を禁止（旅行はGDPの8.5%を占める重要産業）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての集会を最大50人までに制限</li> </ul>
農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品・農業活動は必須サービスに認定</li> <li>ワイン・漁業は認定されず</li> </ul>
ロジスティクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出入向け貨物を含む輸送・ロジスティクスサービス事業を必須製品を扱う場合に限定</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月に開始されたシャットダウン期間中は製造業の生産オペレーションを停止</li> </ul>
小売・レストラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての外食サービスおよび必須製品以外を扱う小売店舗の営業を停止</li> <li>アルコール・タバコの販売を禁止</li> </ul>

2020年11月現在の状況	
国内移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月よりビジネスやその他の必要不可欠な目的での州間移動を許可（承認が必要）</li> <li>8月よりすべての州間移動を許可</li> <li>夜間の外出禁止時間を午前0時～4時までに短縮</li> </ul>
国際移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月より入国禁止を解除</li> <li>11月11日より国境を完全開放。旅行者は出国前72時間以内にPCR検査で陰性であることが条件</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月より社会・宗教・政治集会の最大数を集会所の50%まで（室内は250人・屋外は500人）に緩和</li> </ul>
農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月よりワイン（輸出）・漁業も操業開始を許可。また農家が収穫用に従業員を雇用することを許可</li> </ul>
ロジスティクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月より必須製品以外を扱う場合の輸送・ロジスティクスサービスも事業再開</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月より鉱業・製造業・建設業の生産を通常化</li> </ul>
小売・レストラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月よりテイクアウト・小売店、6月よりイートインの営業を再開</li> <li>8月よりアルコール・タバコの販売を再開</li> </ul>



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 政府

# 農家や中小企業への金融支援、食料価格のモニタリングなどを実施

対象	政策	政策概要	インパクト
農家	12億レアル（7,100万ドル）の金融支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地改革・農村開発省は、財務状況が悪化した小規模農家を対象として12億レアルを支援</li> </ul>	COVID-19の影響を受ける零細農家に即時・短期的支援を提供することで収入の悪化を軽減
FVC関連中小企業	6か月間の融資条件緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>南アフリカ中小企業開発局は、COVID-19によって、あるいは2020年4月から6か月間の間に財務上の悪影響を受けた中小企業を対象に債務救済スキームを発表</li> <li>本スキームは女性・若者・障碍者が経営する企業を優先対象</li> </ul>	COVID-19の影響を受ける中小企業に即時・短期的支援を提供することでキャッシュフローの悪化を軽減
FVC全体	食料不足監視のための農業バリューチェーントラッカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>南アフリカ政府は産業界のキープレイヤーとのパートナーシップの下で農業バリューチェーンを監視するトラッカーを開発</li> <li>バリューチェーン上のボトルネックや異常を早期に検知し、生産・加工・小売に至る産業全体の状況をシステムに上げ、政府は48時間ごとに情報を更新する仕組み</li> <li>また、食料不足が深刻となった場合には輸出制限をかけることを決定</li> </ul>	食料へのアクセス状況・価格変化を監視することで対応を迅速化
	食料品に対する価格制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>パニック購買により食料品価格が高騰したことを受け、政府はトウモロコシ・米・小麦など指定食品の価格引き上げと買いだめを禁止</li> <li>また、輸入食料品に対する付加価値税を免除</li> </ul>	価格高騰を回避



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# SwiftVEEが運営する家畜オンラインオークションプラットフォームはCOVID19を受けて利用が急増

### 家畜のオンラインオークション

農業資材

農業生産

保管 &amp; 運送

加工

卸・小売

消費

- SwiftVEEは家畜のオンラインオークションプラットフォームを運営
- SwiftVEEの利用者はCOVID19以降急増しており、2020年第1四半期の12件から第2四半期に160件へと成長



Starts 14 Oct 2020 11:00 AM SAST

HOOPSTAD AFRIKANER  
BULVEILING (Vleissentraal  
Bloemfontein)

(76 items)

Hoopstad, South Africa



Starts 15 Oct 2020 11:00 AM SAST

MID VRYSTAAT BONSMARAS  
(Vleissentraal Bloemfontein)

(78 items)

Bloemfontein, South Africa



Starts 17 Oct 2020 11:00 AM SAST

DORRLAND MEATMASTERS  
(Vleissentraal Bethlehem)

(298 items)

Parys, South Africa

SwiftVEEの家畜オンラインオークションウェブサイト。プラットフォームは牛や羊などが対象



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# 最大の飲食品製造業のTiger BrandsはCOVID19を受け複数の工場を停止

## 工場の操業停止



- 南アフリカ最大の包装食品・飲料会社であるTiger Brandsは、COVID19を受けた需要低下などが原因で、コスト削減のためスナック菓子・調味料・飲料などの複数工場の操業を停止。COVID19により特にエナジードリンク・スポーツドリンクの需要が低下（マーケティング担当者）
- 同社は人員削減や資産売却により危機を乗り切る可能性があると Bloombergが報道



Tiger Brandsは南アフリカ最大の  
包装食品・飲料の製造企業



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# 南アフリカ最大の食品小売事業者Shoprite Groupは複数の安全措置・新たな取組を実施

### 小売店による安全措置（体温チェックなど）の開始



- アフリカ最大の食品小売業者であるShoprite Groupは複数の対応策を実施
  - 従業員の体温をチェックし、規定値を越えた従業員は簡易診療所に紹介
  - 店舗スタッフは消毒・ソーシャルディスタンスを徹底しており、入店者数も管理
  - 入店・レジが混雑する場合、医療関係者・法律関係者・高齢者・障害者を優先（IDカードなどで確認）
  - デリバリーサービスとして食料品向けの「Sixty60」とご当地食材向けのCheckers Food Servicesを開始
  - 店舗・配達担当の従業員にボーナスを支給



店舗内での安全措置



従業員の毎朝の健康チェック



体温が高く追加検査や措置が必要な  
従業員は簡易診療所に紹介



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# スーパー・マーケット・チェーンのPick n Payはデリバリーアプリとの提携によりオムニチャネル販売を強化

## O2O（Offline-to-Online）小売サービスの台頭



- COVID-19により、購買行動がリアル店舗訪問からオンライン注文に変化
- これを受けて、南アフリカの最大のスーパー・マーケット・チェーンの1つであるPick n Payは、アルコール飲料配送アプリ「Bottles App」と提携し、70以上のPick n Pay店舗（ヨハネスブルグ、プレトリア、ケープタウン、ダーバン）から必要な食料品を当日中に配達するサービスを開始
- また、一部の店舗では買い物客が食料品リストをメールで受け取ることができるようにしたり、モバイル非接触型決済を導入してソーシャルディスタンスを維持したりすることも可能



小売店から必須食料品の自宅配達



Pick n Payとfood products社  
(bottlesアプリ)との提携



## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

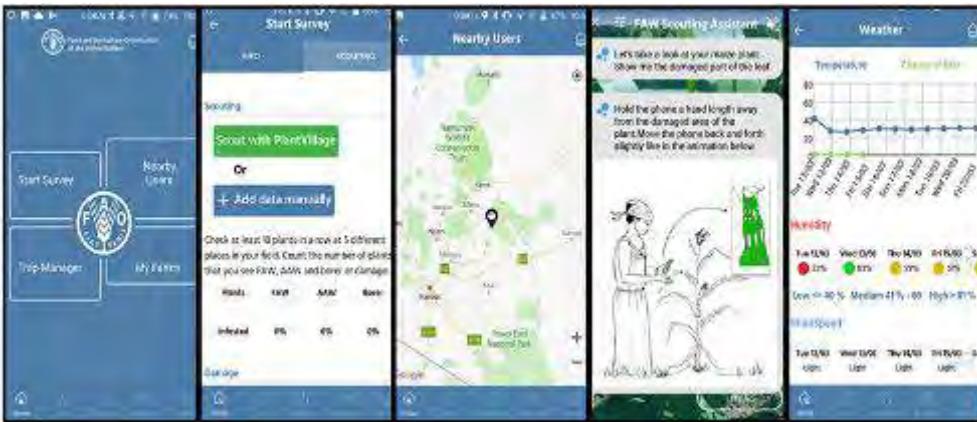
# FAOは害虫監視アプリを開発し、農家の被害抑制を支援

### 害虫（ツマジロクサヨトウ）監視アプリ



- FAOは、ツマジロクサヨトウ（Fall army worm）\*の発生を追跡し、退治するためのリソースへアクセスできるようにするための農家向けアプリFAMEWSを開発
- COVID19の移動制限により農家が監視できる機会が減少し、被害の悪化が想定される中、アプリを利用することで、近隣の害虫発生状況をリアルタイムで把握することが可能
- また、デジタルライブラリー・チャット機能を通じて、対策を調べることやコミュニティの関係者と状況を確認・共有することも可能

\*ツマジロクサヨトウは、トウモロコシ、小麦及びモロコシの成長を阻害する害虫



ツマジロクサヨトウの発生状況をリアルタイムで監視するアプリ  
FAW Monitoring and Early Warning System (FAMEWS)

## コンテンツ & サマリ

### 1. 南アフリカ

### 2. ケニア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

### 3. ナイジェリア



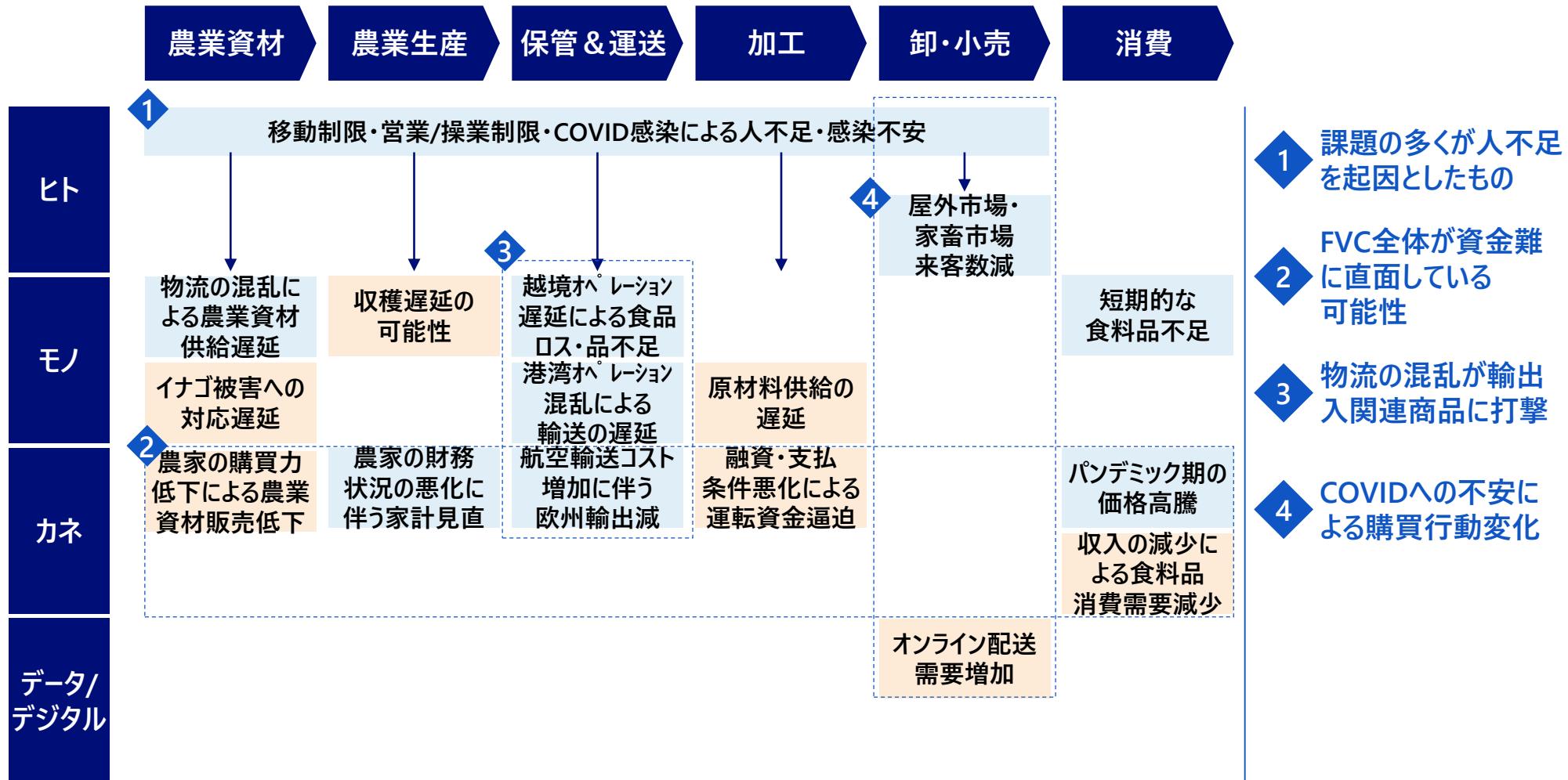
## ケニアの2020年11月号のコンテンツとサマリは下記の通り

報告内容	目次	サマリ	ページ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量 主要な農林水産物の消費量 主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	失業した兼業農家の間で農業労働者の解雇が発生し、これら兼業農家の生産量が減少 COVIDを受けて買い溜めや安価品に嗜好がシフトするなど国民の消費形態・嗜好が変化 輸入 輸入量の減少により、輸入依存度が高い穀物や農業資材の供給不足が発生する可能性 輸出 航空輸送の高騰により欧州向け輸出量が1/3に減少。近隣諸国向けの輸出量への影響は軽微	48 49 50,51
	Eコマースによる取扱量 テイクアウト・デリバリーによる取扱量	レストランなどB2B向けが減少する一方、小売店の営業時間短縮などの影響でB2C向けが増加 主要オンラインデリバリーサービスの利用量が3倍に拡大	52 52
	消費者マインド	必需品を中心に富裕層・小売店による買占めが発生。全体的に、買い物頻度を減らし一回当たりの購入量を増やす買い溜めが増加	53,54
COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	農業資材 農業生産 保管・輸送 加工 卸・小売 消費	物流の混乱により肥料などの農業資材供給不足が発生。イナゴ被害への対処が遅れる可能性も 財務状況悪化を受け、保険解約など農家による家計見直しが発生。生産では労働者不足の可能性 欧州向け輸出は航空輸送費の高騰、近隣諸国との輸出入は国境での遅延が発生 融資条件や支払条件が悪化したことで運転資金の逼迫が発生 外出制限・移動制限により市場アクセスが減少。消費者の間でもリアル店舗での消費に不安が発生 物流の混乱などの影響で食料品不足と価格高騰に直面	57 58 59 60 61 62
現地FVC再構築に向けた最新動向調査	各種制限の緩和の動き 政府の支援策 民間企業の事業動向 第3国(企業)・国際組織の動向	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済 農家向けには中長期、消費者向けには緊急的な措置を実施 輸出業者による国内向け販売拡大/提携による消費者へのオンライン配送/零細小売支援など 世界銀行はケニアの農家向けに補助金を交付。電子クーポンにより農薬などの購入を支援	65 66 67-70 71



## FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 領在課題 潜在課題\*



# 南アフリカ コンテンツ & サマリ - COVID-19 により顕在化したFVCの課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

## 課題への対応事例は下記の通り



### 課題対応の方向性

橙色：更新情報

#### 課題整理フレームワーク

##### ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸 –  
一時的か不可逆か

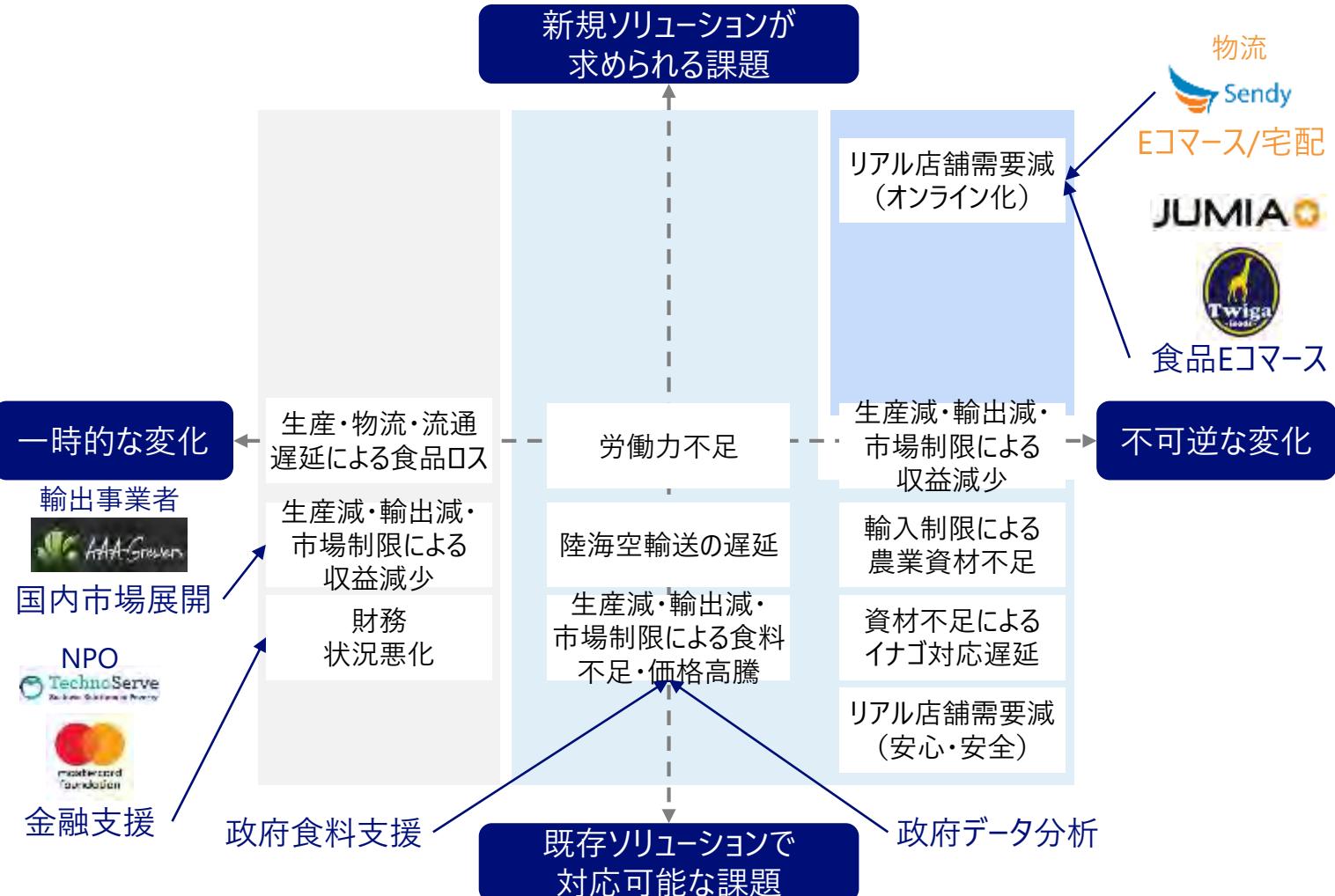
縦：ソリューション軸方向性軸 –  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

##### ②課題対応の方向性で整理

**止血** オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

**レジリエンス** 将来のパンデミックを見越（耐性）した備え

**肉体改造** 価値観・ビジネスモデルの変化への対応



# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ & サマリ

### 1. 南アフリカ

### 2. ケニア

#### 1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

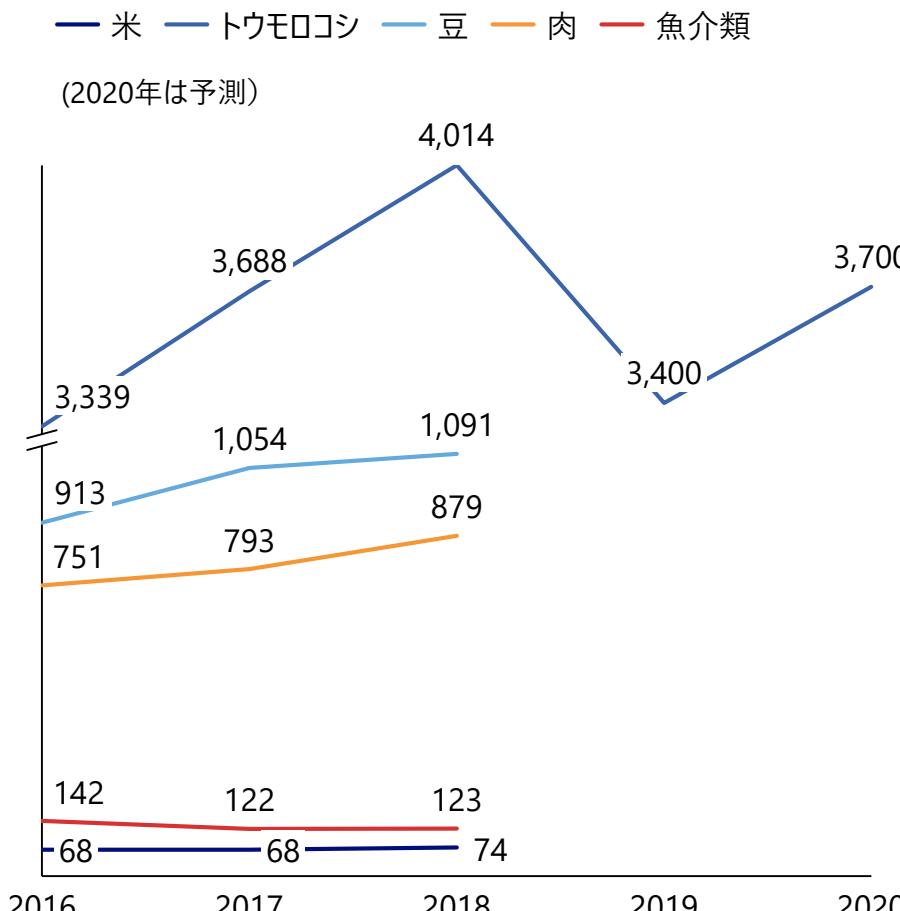
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

### 3. ナイジェリア

## 失業した兼業農家の間で農業労働者の解雇が発生し、これら兼業農家の生産量が減少



主要農林水産物の生産量推移、2016-2020（千トン）



※データはFAOを使用。米・豆・肉・魚介類の2019-20はデータなし

## キートレンド/特徴

## 穀物：自然条件に依存

- 天水栽培が主流
- 悪天候（収穫期の雨）による小麦や豆などの農作物の腐敗やカビ毒（アフラトキシン）リスクにより収穫量が不安定
- 2018年に約1,500万羽のコウヨウチョウが小麦農場に侵入し、農場の約半分の小麦の種子が食べられる被害が発生

## 肉・魚：低品質かつ高価な飼料への対処

- 2009年より政府が魚の養殖業に投資し養殖場が増加した一方、飼料が不足し低品質な飼料が流通したため、政府は飼料基準を設定
- 商業用飼料は高額で酪農家や養殖場にとってコスト負担が大きいことが課題であったが、近年は農業・製造業の廃棄物を使用した低価格、且つ高品質な飼料の利用が拡大。例えば、ケニア西部の酪農家では醸造所の廃棄物Wet Brewer's Grain (WBG)を使用して月約460ドルの節約に成功

## COVID-19による変化

## 兼業農家の収穫減少

- 失業により農業外収入が減少した兼業農家により農業労働者が解雇
- 結果として、これら兼業農家の収穫・販売量が減少

## 政府による家庭菜園キット提供

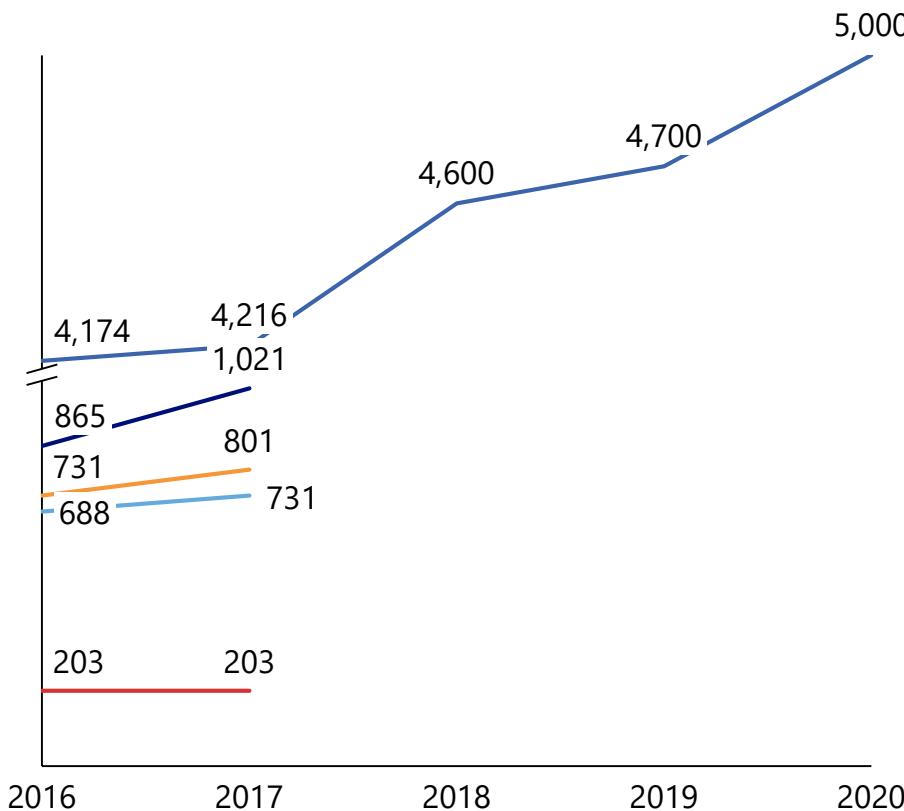
- 政府はCOVID-19影響下の食料危機に備え、農村部・都市部の低所得世帯など100万世帯に家庭菜園キットを提供。また、農業市場への販売を促す方策として、余剰生産者には野菜のソーラードライヤーを提供

## COVIDを受けて買い溜めや安価品に嗜好がシフトするなど国民の消費形態・嗜好が変化



## 主要農林水産物の消費量推移、2016-2020（千トン）

— 米 — トウモロコシ — 豆 — 肉 — 魚介類  
(2020年は予測)



※データはFAOを使用。米・豆・肉・魚介類の2018-20はデータなし

## キートレンド/特徴

## 全体：インフォーマル市場からの購入

- 消費者の食料調達の約55%は非公式市場からの購入
- スーパー・マーケットなどの公式市場は生産者側の品質管理や店側の衛生管理が不十分なケースも存在。消費者は新鮮な食品を販売するインフォーマル市場を選択
- インフォーマル市場では消費者の好む伝統食材や地元の食材、品種を提供

## 穀物：必須食材

- トウモロコシの粉は伝統食品のウガリ（国民の78%が消費）などに使用
- 毎年約200万トンの小麦をパンやペイストリーとして消費

## 肉：都市部での消費増加

- 都市部ではホテル、レストラン、家庭での鶏肉の消費が増加
- 食肉処理される家畜の数は年々増加傾向。2018年は前年比で豚約8%、ヤギ約11%、牛約7%上昇

## COVID-19による変化

## 輸送コスト増による価格上昇

- 輸送トラックの運転手が陰性証明を受けるための感染検査が課税対象に。消費者価格へ転嫁される見込

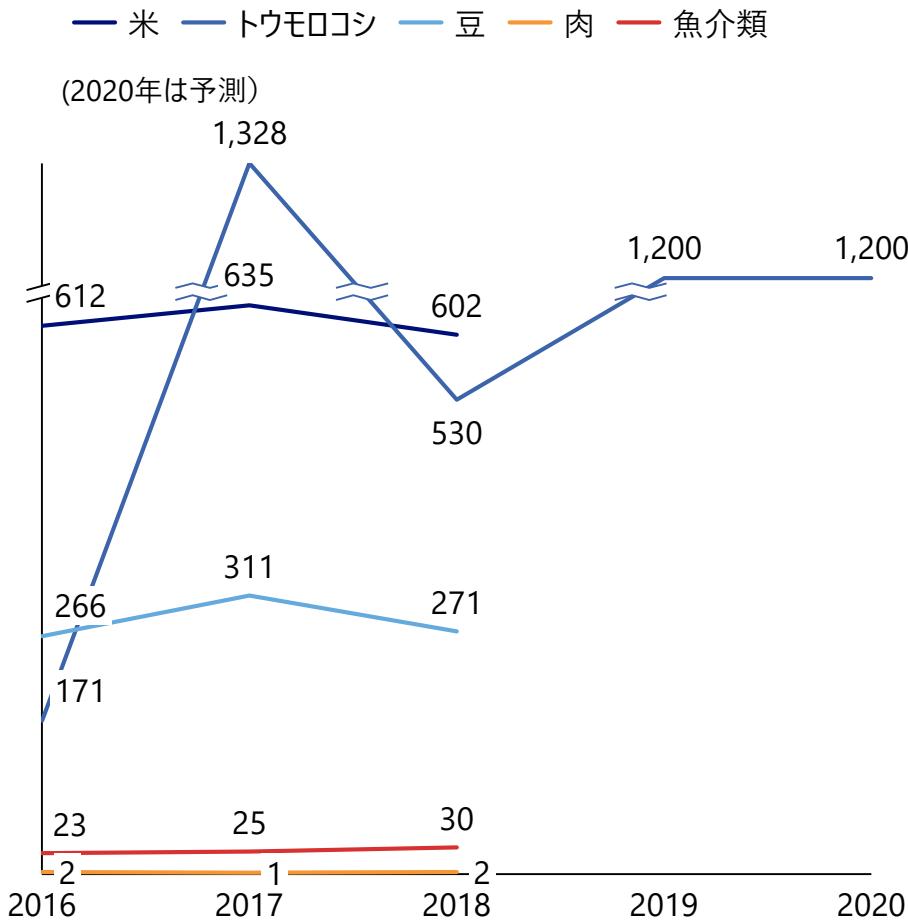
## 消費形態・嗜好の変化

- 4月後半に行われた世論調査（ケニア人対象者400名）では、**食品購入頻度低下(60%)、買い物時に大きいパックサイズの商品を購入(42%)、食料確保に不安がある(80%)、通常より安価なブランドの商品に切り替えた(64%)**との回答結果



# 輸入量の減少により、輸入依存度が高い穀物や農業資材の供給不足が発生する可能性

## 主要農林水産物の輸入量推移, 2016-2020 (千トン)



※データはFAOを使用。米・豆・肉・魚介類の2019-20はデータなし

Source: FAO, ニュース記事

## キートレンド/特徴

### 主要輸入元

- トウモロコシ：ウガンダ（64%）、ザンビア、タンザニア（2018年）
- 米：パキスタン（58%）、タイ、インド（2018年）
- 豆：ウガンダ（84%）、エチオピア、タンザニア（2018年）
- 肉：ウガンダ（38%）、ドイツ、スペイン（2018年）
- 魚介類：中国、タンザニア、韓国（輸入額ベース、2018年）

### 穀物： 輸入依存

- タンザニア、ウガンダなど東アフリカ共同体(EAC)が主要な穀物輸入元
- 人口増加や灌漑化の遅れなどが原因で米、トウモロコシ、小麦などの主食の需要量が国内生産量を超過する年が続いており、輸入が不可欠
- 2017年、雨の遅れとツマジロクサヨトウが国内各地で蔓延し、トウモロコシ収穫量の減少が予測された影響で輸入量は680%近く増加 (\*)
- 政府は国産小麦の流通を促すため、製粉業者に輸入品ではなく国産の小麦を購入するよう要請

### 鶏肉：密輸 への対処

- 隣国（ウガンダ等）から違法輸入された鶏肉が安価で市場に出回り、国産品を圧迫
- ケニア家禽飼育協会は政府へ鶏肉の輸入制限を要請

## COVID-19による変化

### 輸出入制限 による食品価格 の上昇

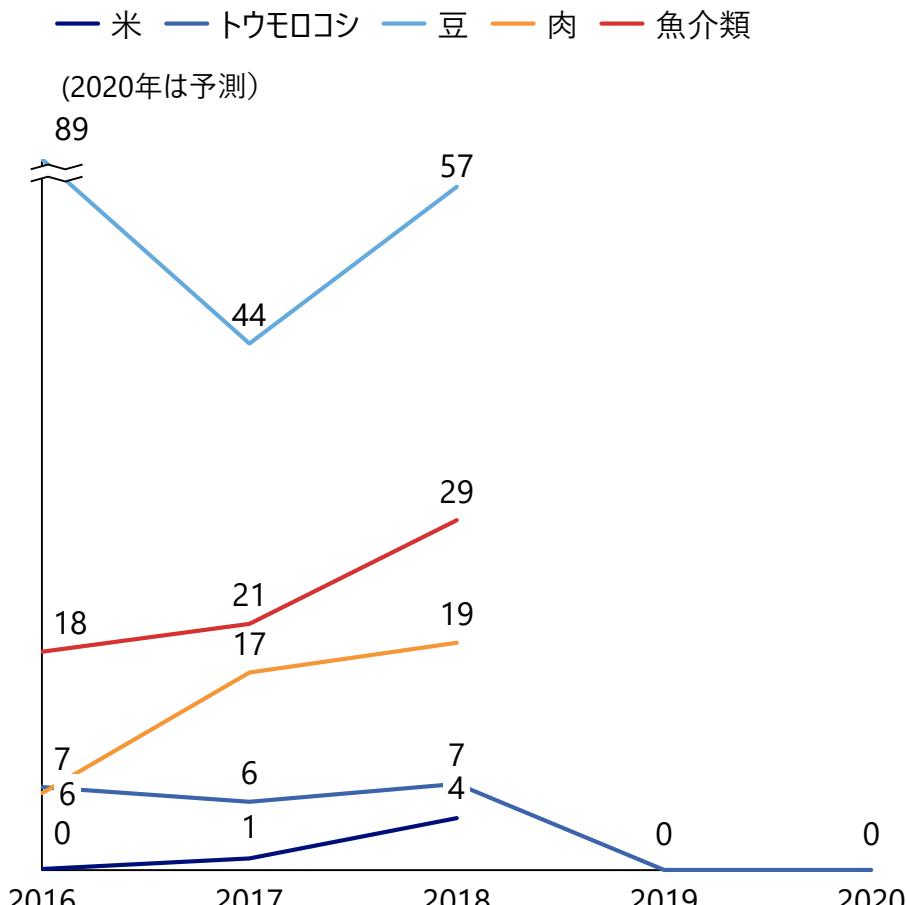
- 輸入量減少の結果、特に穀物で供給不足が発生し価格が上昇する可能性
- 航空貨物便数の減少に加え医薬品などの輸入が優先され、**輸入に依存していた種子や肥料、害虫駆除剤の入荷が減少する可能性**

(\*) ツマジロクサヨトウはトウモロコシを好む害虫。トウモロコシ農家のある地域で飛来が確認され、主食としての需要を賄うため輸入量を増加。インタビューにて生産トレンドとの整合性を確認



## 航空輸送の高騰により欧州向け輸出量が1/3に減少。近隣諸国向けの輸出量への影響は軽微

主要農林水産物の輸出量推移、2016-2020（千トン）



※データはFAOを使用。2019-20はデータなし

### キートレンド/特徴

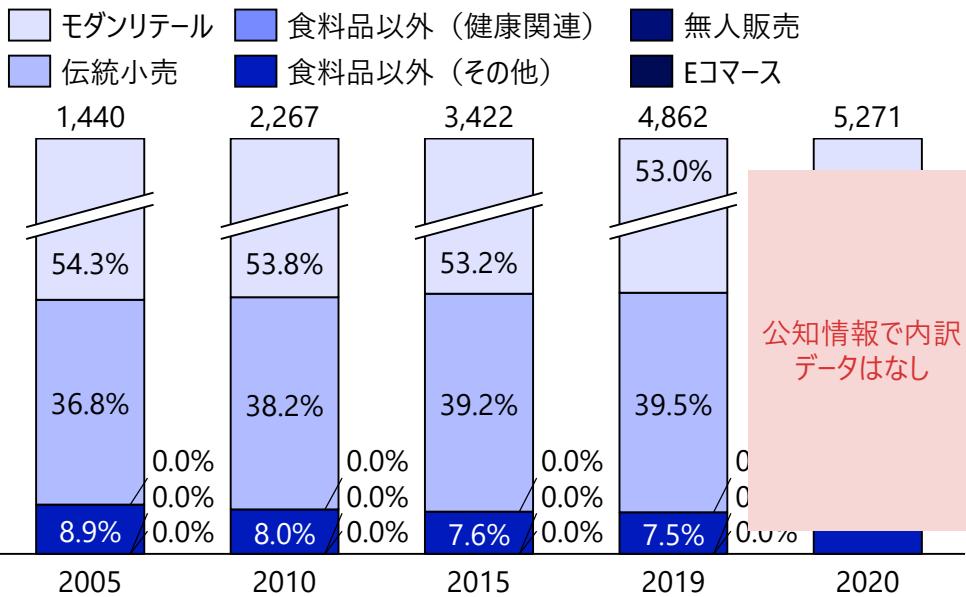
- 主要輸出先**
  - トウモロコシ：ウガンダ（58%）、ルワンダ、韓国（2018年）
  - 米：ウガンダ（93%）、ルワンダ、タンザニア（2018年）
  - 豆：パキスタン（30%）、インド、ウガンダ（2018年）
  - 肉：ベトナム（48%）、UAE、オマーン（2018年）
  - 魚介類：イタリア、イスラエル、ウガンダ（輸出額ベース、2018年）
- 全体：高い輸送コスト**
  - 輸送ルートの複数地点で課される諸税、港の混雑によるPort Chargeなどで輸送コストが上昇
  - 税金を支払うための待ち時間で魚が腐るなど食品ロスも発生
- 豆：悪天候の影響**
  - 悪天候（平均気温の低下や収穫期の雨など）が続き、茶、インゲン、コーヒーなどの輸出作物の生産量が減少
- その他：輸出市場拡大**
  - 国際市場での需要の高まりを受け、アボカド、マンゴー、カシューナッツの欧州や中国への輸出を拡大。特にアボカドは中国への輸出が年々増加
  - 外資系輸出会社は、太平洋島嶼部での供給量減少に伴いケニア産のアボカドに着目。有機栽培されたアボカドの油の加工・輸出を実施
- COVID-19による変化**
  - 夜間外出禁止令/ロックダウン発動中に食品輸送を行う場合、**許可証とトラックの感染対策が義務化**
  - 欧州向け：利用できる航空貨物量が少なくCOVID-19前と比較して輸送費が2倍に高騰し、輸出量も3分の1以下に減少
  - 近隣諸国向け：**食品輸出については4-5月の輸出額が増加しており、COVIDの影響は軽微**
- 感染対策の必要性**
- 欧州への輸出量の減少**



## COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

**包装食品| 小売店の営業時間が短縮。Eコマース利用量はB2B向けが減少する一方、B2C向けが増加**  
**テイクアウト・デリバリー| 主要オンラインデリバリーサービスの利用量が3倍に拡大**

### 包装食品の販売チャネル割合（百万ドル）



- モダンリテールと伝統小売が主要チャネル
- 伝統小売は利用顧客の好みや購買習慣への理解があり、モダンリテールのシェアを徐々に吸収
- Eコマースはまだニッチな市場だが、現地小売のTuskysが2019年にオンラインストアを開設、Carrefour、NaivasがEコマースのJumiaと契約を締結するなどEコマース参入の動きが見られ今後利用が拡大する可能性
- モダンリテール、伝統小売共に夜間外出禁止令で営業時間を短縮
- Eコマースは必要サービスと見なされ営業を継続。対レストラン等へのB2Bは減少、B2Cの宅配は増加

(2020年は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

### テイクアウト・デリバリーのトレンド（赤色はCOVIDによる影響）

#### 背景

- インターネットの普及（2,620万人、約50%）、モバイルの普及（4,700万人、約90%）
- ケニアの食品・飲料の市場価値約81億ドル

#### テイクアウト：スーパー・マーケットデリの広まり

- 都市部では長時間労働や渋滞により料理時間の節約を志向する消費者がスーパー・マーケットのデリを利用

#### デリバリー：オンラインフードデリバリーサービスの拡大

- 2013年、Jumia Foodはオンラインレストラン予約エンジンのEatOutと提携しオンラインフードデリバリーを開始
- 2019年時点Glovo、Yum deliveries、Uber Eatsなど複数のオンラインフードデリバリー・アプリが存在。COVIDを受け、これらオンラインフードデリバリーの注文が3倍に増加

#### デリバリー：現金支払中心

- 消費者の支払方法としては、代金引換やM-Pesa（プリペイドが可能なモバイル決済サービス）など現金支払が多数
- 銀行口座やクレジットカードを持たない消費者向けに、JumiaやAmazon、Alibabaは小売代理店で支払いができるオプションやM-Pesaを導入

#### デリバリー：選択肢と利用時間の多様化

- 店の選択肢：KFC、Subwayなど外資系チェーン参入が増加
- 利用時間：夕食での利用が主流だが、近年は昼食・朝食での利用率も増加（2017年 - 夕食60%、昼食36%、朝食4%、2019年 - 夕食54%、昼食41%、朝食5%）
- Glovoの取り組み：ドライバへの安全キット提供、レストラン集荷時の人介入制限など非接触配達を開始

※外食サービスに関する定量データ取得できず

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.



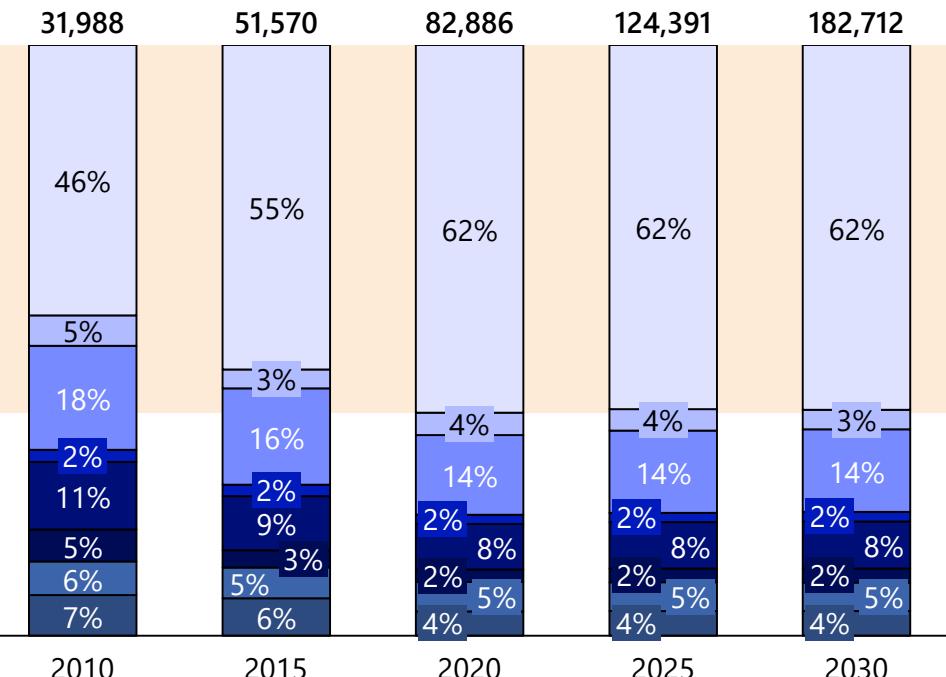


## COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

# 食料品の購入頻度が減少し、一回あたりの購入量が多い買い溜めが増加

### 消費者支出内訳 (百万ドル)

飲食料 住宅 移動 教育  
衣料 健康 レジャー その他



- 消費者支出合計の大半を占め、割合は2010年の46%から2020年には62%まで増加。今後10年において割合に変化は見られないと予測
- 2020-30における消費量は年平均で8.5%成長する見込み

(2020年は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

### 主要な消費者トレンド (赤色はCOVIDによる影響)

#### 背景

- 中間層および富裕層の拡大が食品需要を牽引
- 近隣諸国と比較して高い所得格差が存在

#### 低価格志向がモダンリテールを推進

- 消費者が低価格商品を好むため、コストパフォーマンスが高い多国籍企業の小売店（スーパー・マーケット/ハイパー・マーケット）と地元の小売店との間での競争が激化

#### モダンな外食レストランの人気の高まり

- 都市化の進行、若者層のキャリア機会の向上、ライフスタイルの変化により、モダンな外食レストラン需要が増加

#### 健康志向の高まり

- ケニアでは健康志向が高まっており、特に最も生活にゆとりがあるとされる65歳以上の年齢層の人々が健康・医療関連の商品需要を喚起

#### 外資系外食チェーンの人気の高まり

- 中間層の台頭と文化の変化（ファストフードを食べる子供への受容性の高まり）により外資系外食チェーンへの人気が上昇

#### 営業時間の短縮

- 夜間府外出禁止令で小売店が営業時間を短縮

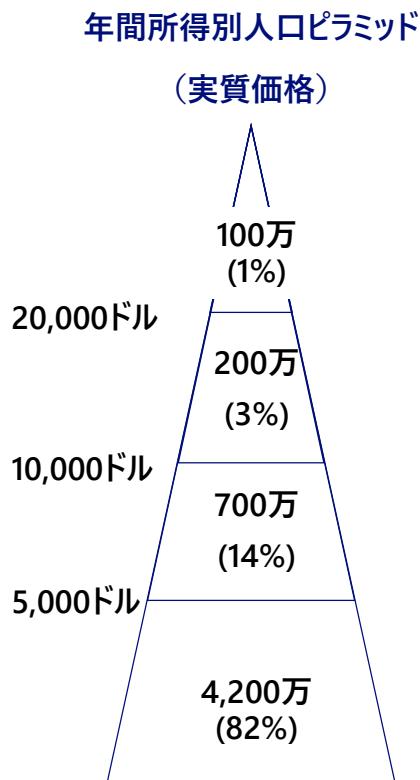
#### 購買行動の変化

- 食品購入頻度が低下**する一方、買い物時に大きいパックサイズの商品を購入するなど巣ごもり需要が増加
- 飲食料など必需品以外の製品需要、衝動買いが減少
- デリバリー・ECマースでの購入が増加

## 必需品を中心に富裕層・小売店による買占めが発生



## 所得別の消費者行動



## COVIDによる変化

食製品	購買チャネル	外食サービス
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康・品質を重視</li> <li>加熱食品（オリーブオイル使用）、プレミアム（チーズ）、生鮮食品を嗜好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モダンリテール（ハイパーマーケット）、コンビニ、高級ショッピングモール内にある伝統的な食料品専門店（Zucchini）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高品質なレストランを嗜好</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康・価格・品質のバランス重視</li> <li>包装食品・生鮮食品を嗜好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モダンリテール（ローカル・外資スーパー・マーケット）、伝統的な食料品専門店</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストラン、テイクアウト専門店、外資ファストフードチェーン</li> <li>子供や若者層の中外資系レストラン需要が増加</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>価格・品質を重視</li> <li>包装食品を嗜好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統小売（キオスク）、個人経営店、行商、屋外市場</li> <li>低価格ショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋台・キオスクを嗜好</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>価格重視</li> <li>コモディティ食品を主に消費</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>嗜好品よりも必要最低限の食料品に需要が集中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富裕層によるパニック購買の発生</li> <li>小売店の一括購入の発生</li> <li>配送会社とスーパーマーケットの提携の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デリバリーフードサービス人気が増加</li> <li>人々の間での不安の高まりによりレストラン需要が低下</li> </ul>

# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

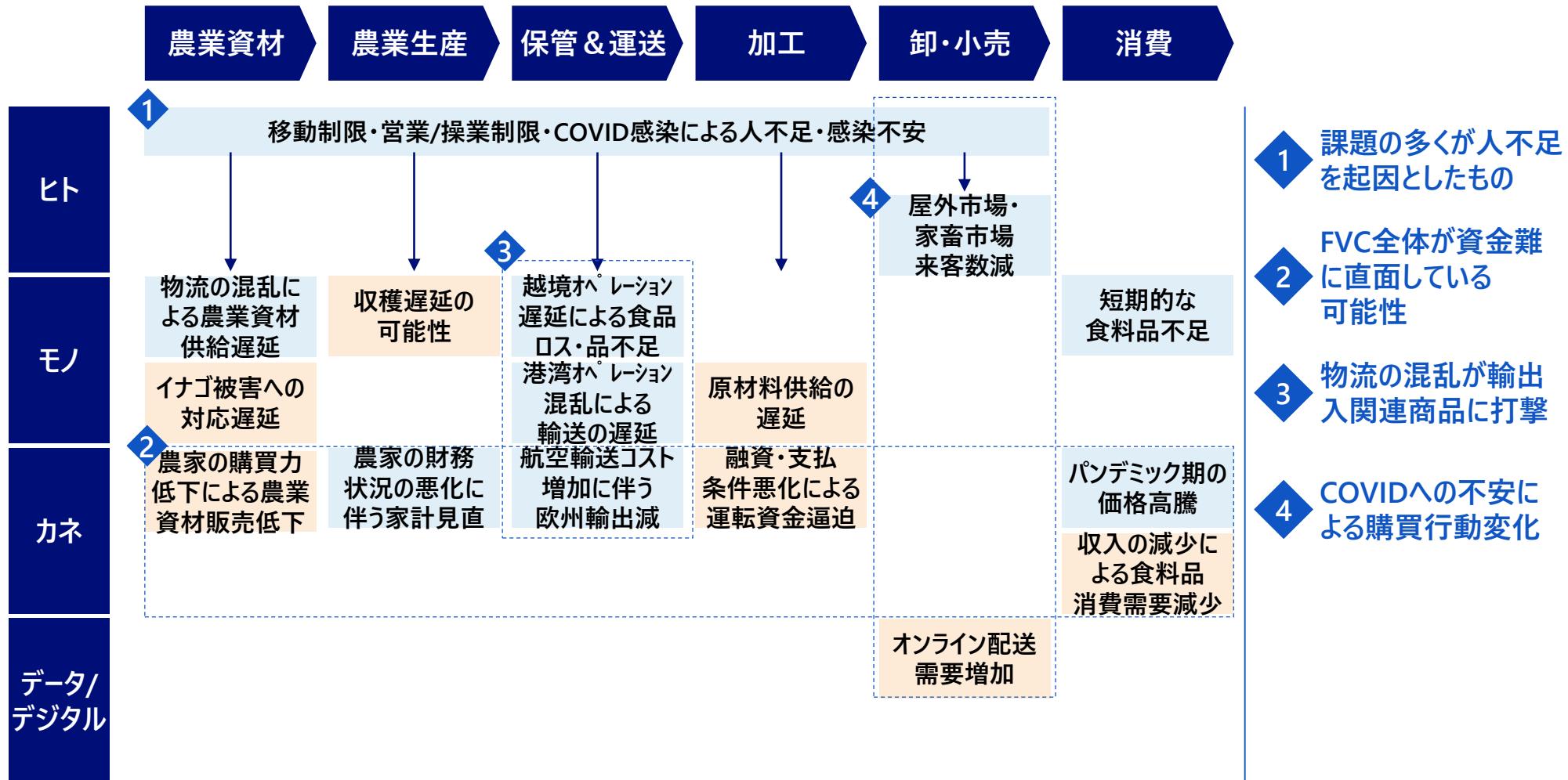
3. ナイジェリア



## ケニア コンテンツ & サマリ - COVID-19 により顕在化したFVCの課題

### FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 領在課題 潜在課題\*





## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

物流の混乱により肥料などの農業資材供給不足が発生。イナゴ被害への対処が遅れる可能性も

### トピック

### 課題

### 内容

#### 顕在課題

#### 潜在課題

#### 課題分類

#### ① ヒト

#### ② モノ

#### ③ カネ

#### ④ データ

### 農業資材供給



① ②

物流の混乱による農業資材供給の遅延

②

農業資材不足への備え

- 都市間の移動制限、夜間外出禁止令、国境閉鎖が肥料や農機など農業資材供給に影響
- 例えば、肥料が港からモンバサに到着するまでに要する時間は本来1日であったところ、港での通関業務の遅れなどの影響により現在は3日に遅延

### イナゴ被害



②

殺虫剤などの供給遅延によるイナゴ被害への対応の遅れ

- 種子や肥料などの不足により来期の作物の植付けに遅延が発生する可能性があるため、これを見越した国内の農業資材物流プレイヤーが資材在庫量を増加

### 農業資材プレイヤーの収益



② ③

農家の購買力低下による農業資材販売量低下

- ケニアは2019年に大量発生したイナゴに苦しんでおり、2020年現在までに約7万ヘクタールの農地で被害が発生
- 害虫駆除剤などの供給がCOVIDにより遅延することでイナゴ被害がさらに拡大する可能性

- COVIDの影響で農家の収入が減少する結果として農業資材の販売量も減少する可能性



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

財務状況悪化を受け、保険解約など農家による家計見直しが発生。生産では労働者不足の可能性

## トピック

## 課題

## 内容

## 顕在課題

## 潜在課題

## 課題分類

## ①ヒト

## ②モノ

## ③カネ

## ④データ

## 農家の財務状況



① ③

農家の財務状況の悪化  
に伴う家計の見直し

- 都市部や海外からの送金が減少したことで貯蓄額が減少
- 収入や貯蓄額の減少により、農業保険を解約するなど家計の見直しが発生

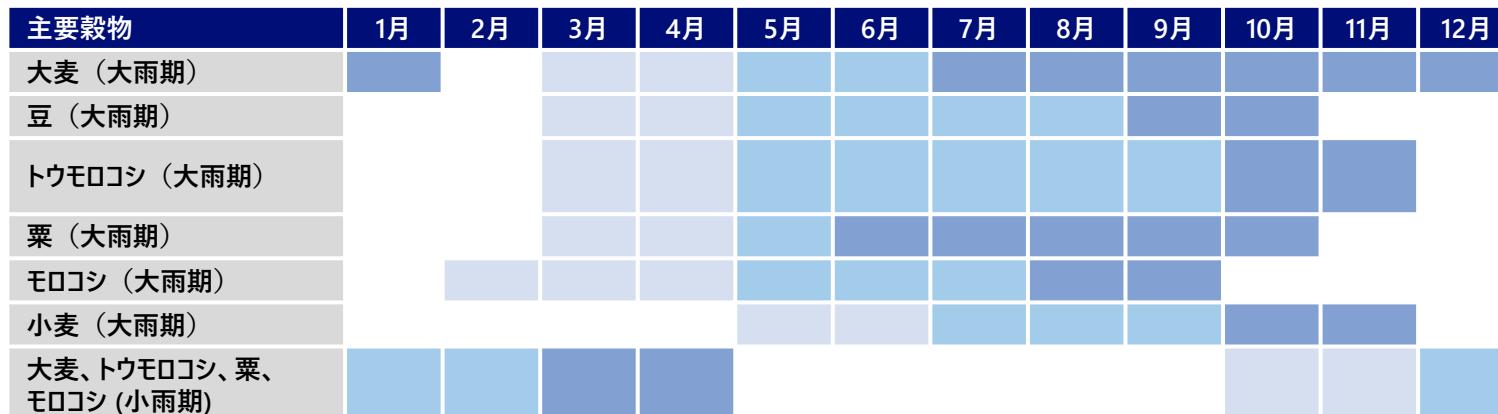
## 農業生産



①

収穫遅延の可能性

- 大麦、豆、トウモロコシ、粟、モロコシ、小麦などの主要農産物の生産は、種付、収穫、収穫後の処理など多くの工程を近隣の町や集落から移動してくる季節労働者に依存
- 州間移動制限により、今シーズンおよび来シーズン向け準備のための農作業員不足が発生している可能性



■ 作付期  
■ 生育期  
■ 収穫期



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

# 欧州向け輸出は航空輸送費の高騰、近隣諸国との輸出入は国境での遅延が発生

### トピック

### 課題

### 内容

顕在課題

潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

#### 航空輸送

② ③



航空輸送コスト増加に伴う欧州向け輸出減少

- 航空貨物輸送コストが2.8米ドル/KGから4米ドル/KGに上昇し、食品価格・航空輸出に影響
- 欧州諸国のロックダウンやケニアの国際線停止により、花、野菜、ハーブ、果物など園芸農作物の欧州向け輸出量が50%減少（欧州はケニアの園芸農業作物の主要輸出先）
- 輸出量減少の結果、例えば園芸産業では350万ドル/日の損失が発生（ケニア生鮮食品輸出協会談）。またケニア第3位の輸出業者であるAAA Growersによるオランダへの花の輸出量は、140万本/週（COVID以前）からほぼゼロにまで減少

#### 陸上輸送

①



越境オペレーションの遅延による生鮮食品のロス・品不足

- トラック輸送の制限が国内流通および近隣諸国への輸出に影響
- 例えば、6月から開始されたタンザニアとの国境間でのCOVID-19検査やルワンダへの入国制限（ルワンダ入ドライバーのみ許可）により国境地帯での輸送で遅延が発生
- 結果として生鮮品のロスが発生しており、ナイロビのスーパーでは生鮮食料品が不足

#### 船舶輸送

①



港湾での検査などCOVIDオペレーションによる輸送の遅延

- 港湾施設はCOVID下においても稼働を継続
- ただし、港湾におけるトラックドライバーの検査などが原因で通常時と比べて遅延が発生



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

# 融資条件や支払条件が悪化したことで運転資金の逼迫が発生

### トピック

### 課題

### 内容

#### 顕在課題

#### 潜在課題

#### 課題分類

##### ①ヒト

##### ②モノ

##### ③カネ

##### ④データ

資金



③

融資条件・支払条件の悪化による運転資金の逼迫

原料調達



②

原材料供給の遅延

- 融資の減少、サプライヤーによる支払条件の変更により流動性や企業の運転資金の逼迫が発生。食品加工業界においても、食品原料サプライヤーが支払日の延長停止を通告するなどの事例が発生

- 物流の混乱により原料供給に遅延が発生する可能性
- 例えばトウモロコシでは、夜間外出禁止令が輸送に影響を与えることを恐れ、長距離輸送に不安を感じるサプライヤーも存在



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

# 外出制限・移動制限により市場アクセスが減少。消費者の間でもリアル店舗での消費に不安が発生

### トピック

### 課題

### 内容

#### 顕在課題

#### 潜在課題

#### 課題分類

##### ①ヒト

##### ②モノ

##### ③カネ

##### ④データ

#### 農作物・家畜 流通



①③

屋外市場への来客数  
減少

- 主要な屋外市場は営業していたものの、外出制限によるアクセス制限、混雑した場所での感染の恐れ、消費者の収入低下などが原因で来客数が減少

①②

家畜市場へのアクセス  
制限

- 家畜市場が営業停止された影響で畜産農家・卸・小売業者の収入が低下
- 移動制限により農場内販売機会も減少

#### 購買チャネル



①

店舗における食料品  
購買への不安

- COVIDの影響で、ソーシャルディスタンスの観点や農作物の新鮮度への不安から、個人販売店から直接購入することに不安を感じる消費者も存在。こうした不安が全土に広がっている可能性

②

オンラインデリバリー需要  
増加

- ワークフロムホームの勤務体系が浸透した結果、食品のデリバリー需要が増加
- その結果、レストランによるUber、Safe Boda、Glovo & Jumiaなどのオンラインデリバリー業者の活用が活発化していく見通し



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 物流の混乱などの影響で食料品不足と価格高騰に直面

橙色：更新情報

トピック	課題	内容	顕在課題	潜在課題	課題分類	①ヒト	②モノ	③カネ	④データ																									
食料品流通	①② 短期的な食料品不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動制限など物流の混乱が原因でケニアの一部で短期的な食料品不足が発生</li> <li>特にナイロビのスーパーでは生鮮品が不足</li> </ul>																																
食料品価格	② パンデミック期間における価格高騰	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナイロビでは生鮮品が90%高騰するなど、供給不足により食料品価格が高騰</li> </ul> <p><b>消費者物価指数 (2020年1月—10月) (2020年1月を100とする)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>COVID-19により消費者物価指数は5月にピークを迎え、1月と比較して約5%増加</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>指数 (2020年1月=100)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1月</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>2月</td><td>102.6</td></tr> <tr><td>3月</td><td>103.2</td></tr> <tr><td>4月</td><td>103.2</td></tr> <tr><td>5月</td><td>105.0</td></tr> <tr><td>6月</td><td>105.9</td></tr> <tr><td>7月</td><td>104.6</td></tr> <tr><td>8月</td><td>103.7</td></tr> <tr><td>9月</td><td>102.7</td></tr> <tr><td>10月</td><td>102.8</td></tr> <tr><td>11月</td><td>104.0</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>6月から9月にかけて野菜（トマト/ポテト/タマネギ/ほうれん草/キャベツ）、果物（オレンジ）、小麦粉の価格が下落した影響で、消費者物価指数全体も下落。野菜需要は学校が担っているため、学校の閉鎖が影響</li> </ul>	月	指数 (2020年1月=100)	1月	100.0	2月	102.6	3月	103.2	4月	103.2	5月	105.0	6月	105.9	7月	104.6	8月	103.7	9月	102.7	10月	102.8	11月	104.0								
月	指数 (2020年1月=100)																																	
1月	100.0																																	
2月	102.6																																	
3月	103.2																																	
4月	103.2																																	
5月	105.0																																	
6月	105.9																																	
7月	104.6																																	
8月	103.7																																	
9月	102.7																																	
10月	102.8																																	
11月	104.0																																	
世帯収入	③ 世帯収入の減少による食料品消費需要減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロックダウンはとりわけインフォーマルセクターの家計収入に影響。世帯収入の減少が食料品消費にも影響を与える可能性</li> </ul>																																

# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

3. ナイジェリア

## 南アフリカ コンテンツ & サマリ - COVID-19 により顕在化したFVCの課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向



### 課題への対応事例は下記の通り

橙色：更新情報

#### 課題対応の方向性

##### 課題整理フレームワーク

###### ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸－  
一時的か不可逆か

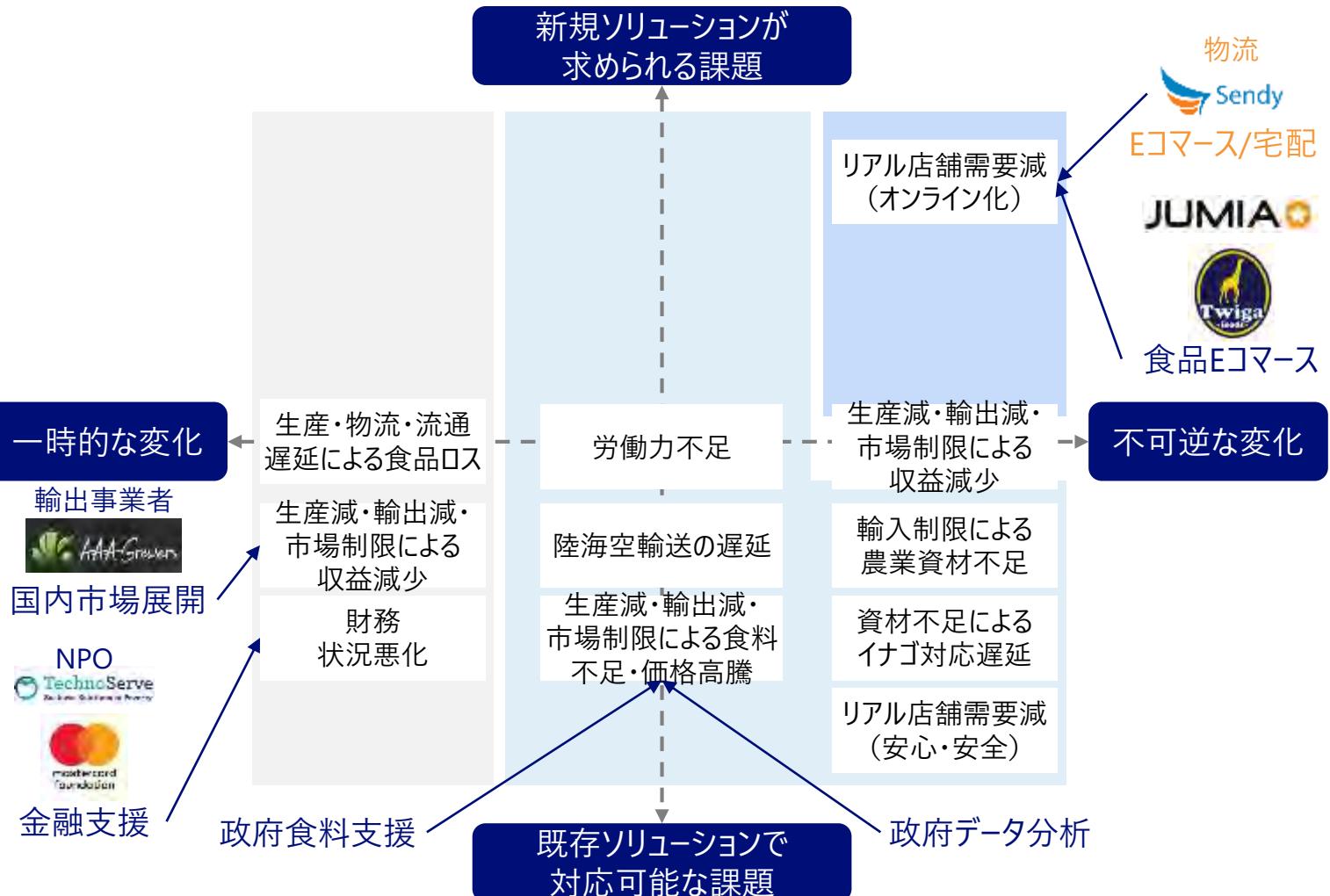
縦：ソリューション軸方向性軸－  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

###### ②課題対応の方向性で整理

止血 オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

レジリエンス 将来のパンデミックを見越(耐性)した備え

肉体改造 価値観・ビジネスモデルの変化への対応





## 現地FVC再構築に向けた最新動向

# 多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済

個人	国内移動
	国際移動
	その他
ビジネス	農業
	ロジスティクス
	製造業
	小売・レストラン

## COVID-19による制限

- 3月にすべての国内航空便を停止
- 4月にナイロビ・モンバサ・マンデラへの出入りを制限（食料輸送事業者を除く）
- 3月に午後7時から午前5時までの外出を禁止
- 3月に緊急便・貨物便を除くすべての国際航空便を停止
- 結婚式場、モール、ナイトクラブ、教会での集会を禁止。病院への来院を制限
- 食品・農業活動は必須サービスに認定
- 5月にケニア-タンザニア、ケニア-ソマリ間で出入国制限（検査済みのドライバーによる貨物輸送は除外）
- 製造業そのものに制限は無いものの、人・モノの移動が間接的に影響
- テイクアウトを除く外食サービスの停止
- 必須製品以外の製品を扱う小売は来店人数の制限の上で営業継続

## 2020年11月現在の状況

- 7月よりすべての国内航空移動制限およびナイロビ・モンバサ・マンデラへの出入り制限を解除
- 9月より外出禁止時間を午後11時から午前4時までの間に短縮。**夜間外出禁止は来年1月まで延長を決定**
- 8月より国際航空便を再開。PCR検査の陰性証明を有する場合は強制隔離を免除
- 9月より集会人数の上限を200人まで緩和
- 
- 6月よりケニア-タンザニア、ケニア-ソマリ間の出入国を再開
- 
- 9月より外食サービスが再開
- (営業時間は午後10時まで)

## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 政府

## 農家向けには中長期、消費者向けには緊急的な措置を実施



対象	政策	政策概要	インパクト
農家	園芸産業に対する金融支援	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>園芸産業向け</b>: 生鮮食品を扱う農家向けに中長期的な競争力を向上を目指し約1,400万ドルの経済支援策を発表。内訳は以下の二つ：農家の生産性・マーケティング力向上支援、国際基準を順守できるレベルに到達するため温水処理・燻蒸設備などのインフラへの投資</li> <li><b>養鶏者向け</b>: 財務省が養鶏協会に455万ドル支援を発表</li> </ul>	農家の中長期的な生産性向上に貢献
FVC全体	食料の供給・価格状況把握のための管理ユニット設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料安全保障を確保するための中央戦略・計画ハブを立ち上げ</li> <li>同ハブにおいて、デジタルツール・データ収集システムを導入することで、食料の供給情報、アクセスのしやすさ、価格などを管理し、同時にバリューチェーン関係者を支援</li> <li>政府の介入が必要なポイントを把握するため、コモディティ農作物10品目に関して価格データ・供給情報を収集</li> </ul>	食料品不足・価格高騰への迅速対応を実現
消費者	低所得者層100万世帯に家庭菜園キット提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料不足の影響緩和を目的として、農務省は低所得者層100万世帯に対して家庭菜園キットを提供</li> <li>キットはお菓子・種子・ネット・水槽を含む</li> </ul>	低所得者層への短期的なダメージを軽減
農家・加工業者・消費者	400万袋のトウモロコシ輸入	<ul style="list-style-type: none"> <li>食用・肥料用として400万袋（1袋90kg）のトウモロコシの輸入を承認</li> <li>政府が備蓄しているトウモロコシはアフロタキシンに汚染されていることもあり食用に使えず、備蓄量が不十分だったことが輸入措置に至った要因</li> </ul>	短期的なトウモロコシ不足を軽減



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# 国内大手輸出業者AAA Growersは、輸出売上の損失を補填するため国内市場向けに農産品を販売

## 輸出業者の国内市場強化



- AAA Growersはケニアで3番目に大きい輸出業者で、ヨーロッパ全土に高級バラ、果物、野菜を輸出
- COVIDへの影響により、AAAのオランダへの花の輸出量は、140万本/週（COVID以前）からほぼゼロにまで減少
- 損失を補填するため、AAAはCarrefour、Quick Mart、KFCなどの有名小売店と提携し、国内での販売を促進



ケニアの大手輸出業者AAAは生産から輸送まで手掛ける



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# 共にEコマース企業であるJumiaとTwigaは提携を通じて消費者に食品のオンライン配送を実現

## 生鮮・加工食品のオンライン流通



- COVIDを受け、アフリカ全土で事業を展開する消費者向けEコマース企業のJumiaと、農家と食品加工業者をつなげるオンラインプラットフォームを展開する農業物流企業のTwigaが提携を発表
- 提携は安全で手ごろな食品を消費者に届けることが目的。提携によりJumiaのプラットフォームを通じたTwigaの生鮮・加工食品の消費者への販売・配送を実現
- 具体的には、Jumiaのウェブサイト・アプリ上でTwiga商品の注文が入ると、Jumiaの配送員がTwigaの倉庫・配送センターから商品をピックアップするオペレーション
- 消費者は、支払にJumiaPayを使うことで注文から配送まですべてオンラインで完結させることが可能



消費者向けEコマースのJumiaとB2B食品EコマースのTwiga Foodsが提携を発表



Jumiaのプラットフォーム上でTwiga商品を販売



## 零細小売業者向け金融支援



- 政府によるCOVID封じ込め政策はサプライチェーンの混乱・労働者不足・需要低下などを引き起こし、特に零細小売業者にとって大きな打撃
- 係る状況下において、貧困支援を目指すNPOのTechnoServeとMastercard基金が零細小売業者を支援することを目的に提携
- 二つの団体はMicro-Enterprises Strengthened for Pandemic Adaptation and Resilience in Kenya (mSPARK) プログラムを立ち上げ、ナイロビ・モンバサ・キリфиで事業を構える2万8千の小売事業者に金融支援、専門的アドバイス、必要に応じてCOVID下に適応するためのスキル開発支援を提供
- さらに、mSPARKはフィンテック企業である4G Capitalとも提携し、緊急的な運転資金ニーズに対応するための助成金（返済義務有）を提供



NPOのTechnoServeとMastercard基金が零細小売業者への金融支援で提携



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# 物流会社のSendyはロックダウンの最中、小売店やeコマース企業と連携し宅配サービスを提供開始

## ラストワンマイル宅配サービスの提供



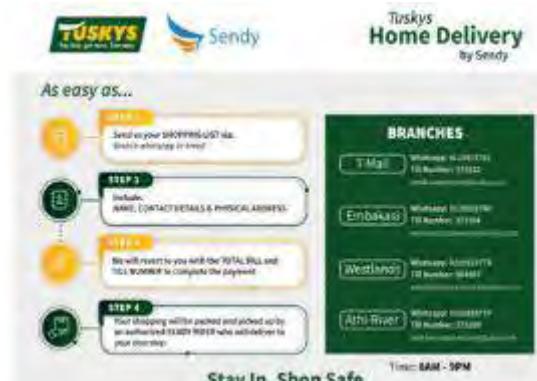
- トラック運転手と荷主をつなぐデジタルプラットフォームを運営する物流会社Sendy（豊田通商が2020年2月に出資）は、3月、COVID-19の拡大抑制のためスーパー・マーケットチェーンTuskysと連携しドアツードアの宅配サービスを開始。消費者はSMS、whatsappで買い物リストを送信、Sendyは近隣のTuskys店舗から商品を受け取り消費者の自宅まで配達
- 4月、ロックダウンで人出が減った地域の市場、店舗と消費者を結び付けるためB2Beコマースプラットフォームを展開するSokowatch社と連携し、オンラインショッピングアプリ「Sendy Go」を開設。食料品、家庭用品、調理用ガス、医薬品などの商品を販売、および宅配。非公式小売店でのeコマースを展開してきたSokowatch社との連携を活かし非公式集落に居住する住民の日用品調達に貢献
- 7月以降もHerdyFreshなど複数のeコマース企業と連携を拡大



Sendyはトラック運転手と荷主をつなぐデジタルプラットフォームを運営



Sokowatch社と連携し非公式集落の消費者に日用品を提供



Tuskys社と提携し宅配サービスを開始



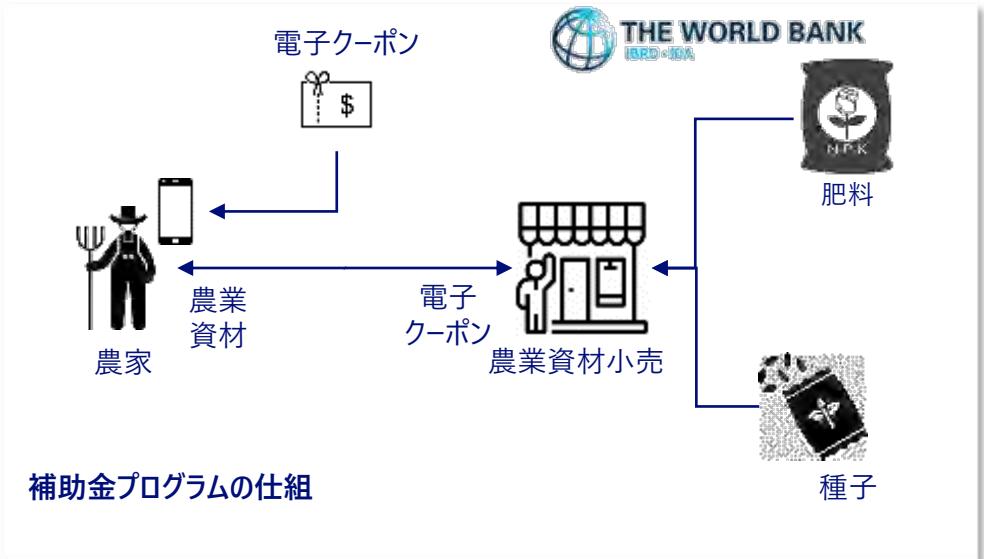
## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

# 世界銀行はケニアの農家向けに補助金を交付。電子クーポンにより農薬などの購入を支援

## 世界銀行による農家向け金融支援



- 5月20日、世界銀行は、低所得層および農家を支援し経済格差を軽減するために10億ドルの予算支援を発表
- 農家に対しては、補助金プログラムを通じた農業資材へのアクセス改善を支援
- 具体的には、肥料・種子・農薬などを購入可能な電子クーポンを農家の携帯端末に送付。これにより、農家による近くの農業資材販売店での必要物資購入を実現
- 効果として、農業資材サプライヤーの収益、農家の生産性が向上する見込み



## コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

**3. ナイジェリア**

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

# 令和2年度COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの影響分析調査（アフリカ地域）ナイジェリア 2020年11月

## ナイジェリアの2020年11月号のコンテンツとサマリは下記の通り

橙色：更新情報

報告内容	目次	サマリ	ページ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	COVIDによる生産への影響は軽微であると見込まれているが、政府は対策として新計画を発表	77
	主要な農林水産物の消費量	CPIが約8%上昇するなど食品価格が高騰	78
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	輸入 国境封鎖により物流が混乱した影響で特に米などで減少する可能性 輸出 国境封鎖の影響で減少する可能性	79,80
	Eコマースによる取扱量	Eコマースへの機運が高まり需要が増加するとの意見とともに普及に否定的な意見も存在	81
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	デリバリー事業に参入するスーパーが登場しており、取扱量が増加していく可能性	81
	消費者マインド	レストランの営業停止や小売店の取引先閉鎖でオンライン取引やデリバリーに注目 輸入量の減少に伴い、国産品の消費量が増加	82,83
	COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	農業資材	外貨不足により農業資材の輸入価格が増加し、移動制限による供給遅延も相まって入手困難
農業生産		労働力不足、農業カレンダーの乱れで収穫量が減少する可能性	88,89
保管・輸送		輸入制限により農業生産量減や航空輸送コスト増が発生。また各地で食品ロスが発生している可能性。港ではCOVIDオペレーションによる遅延が発生。遅延による待機料で輸送コストも増加	90,91
加工		労働力不足により生産・出荷の遅延や停止が発生	92
卸・小売		リアル店舗の収益性悪化に伴いEコマースへの期待が高まるが、普及に時間を要する可能性	93
消費		価格高騰が発生。また食料支援物資の到着に遅れが発生	94,95
現地FVC再構築に向けた最新動向調査		各種制限の緩和の動き	国際空港2港を運航再開。夜間外出制限や集会の人数制限は継続
	政府の支援策	農家向け 資金援助のほか種子提供による農業活動支援を実施 FVC全体向け 金融支援、雇用創出に注力	99,100
	民間企業の事業動向	ドローンによる消毒剤散布/バイクによる配達サービス/輸出向け割引/トマト工場建設/ 食品寄付など	101- 105
第3国(企業)・国際組織の動向	生産者向けトレーニング/政府プロジェクト支援など	106, 107	



## FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

## FVC上の課題

顕在課題

潜在課題\*

(注) ボックスの大きさと課題の重要度は関連なし

橙色：更新情報



	農業資材	農業生産	保管 & 運送	加工	卸・小売	消費	
ヒト	移動制限による労働力不足 農業カレンダーの乱れによる収穫量減少		港湾のCOVIDオペレーションによる輸送遅延				1 移動制限による輸送の遅延やコスト増がFVCの各工程に打撃
モノ	1 移動制限による資材入手困難 資材調達の遅延による収穫量減少 資材調達の遅延による収入減	移動制限による生鮮食品ロス	輸入制限による生産量低下 輸送制限による食品ロス	原材料・梱包入手困難による出荷停滞 労働者不足による生産の遅延		食料供給量低下による栄養失調 食料支援の到着遅れ	1 FVC全体が資金難に直面している可能性
力ネ	2 外貨準備高低下による資材価格上昇	売掛金回収期間の長期化	穀物備蓄開放による食料価格低下 輸送キャパ制限によるコスト増加		消費減少によるキャッシュフロー悪化	可処分所得の低下 食料品価格の高騰	2 Eコマース普及の見通しが不透明
データ/ デジタル	事業継続性への不安	1		3 Eコマース普及への機運と障害			3 Eコマース普及の見通しが不透明

\*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



## 課題への対応事例は下記の通り

### 課題対応の方向性

#### 課題整理フレームワーク

##### ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸—  
一時的か不可逆か

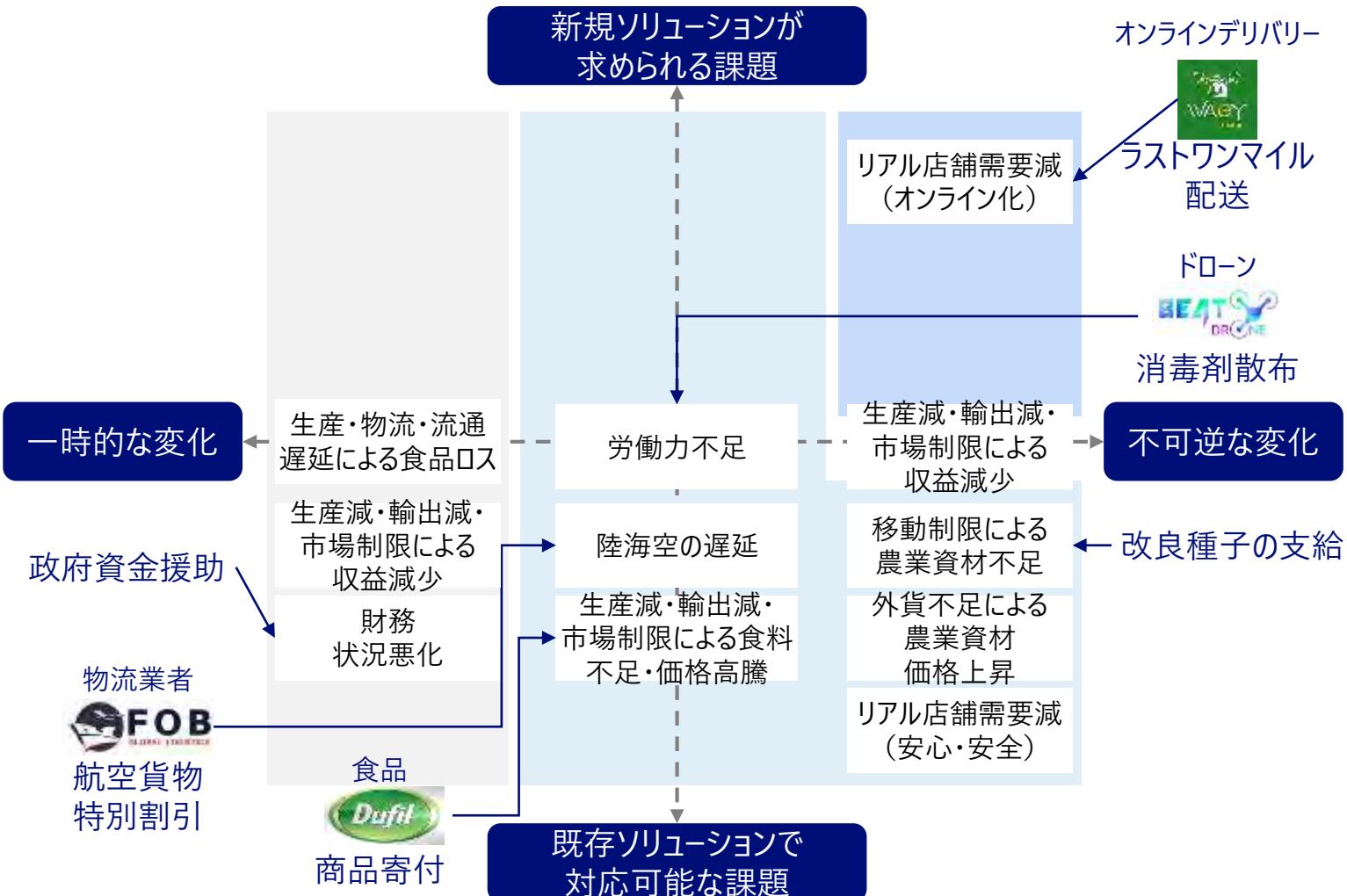
縦：ソリューション軸方向性軸—  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

##### ②課題対応の方向性で整理

止血 オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

レジリエンス 将来のパンデミックを見越  
(耐性) した備え

肉体改造 価値観・ビジネスモデルの  
変化への対応



## コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

**3. ナイジェリア**

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

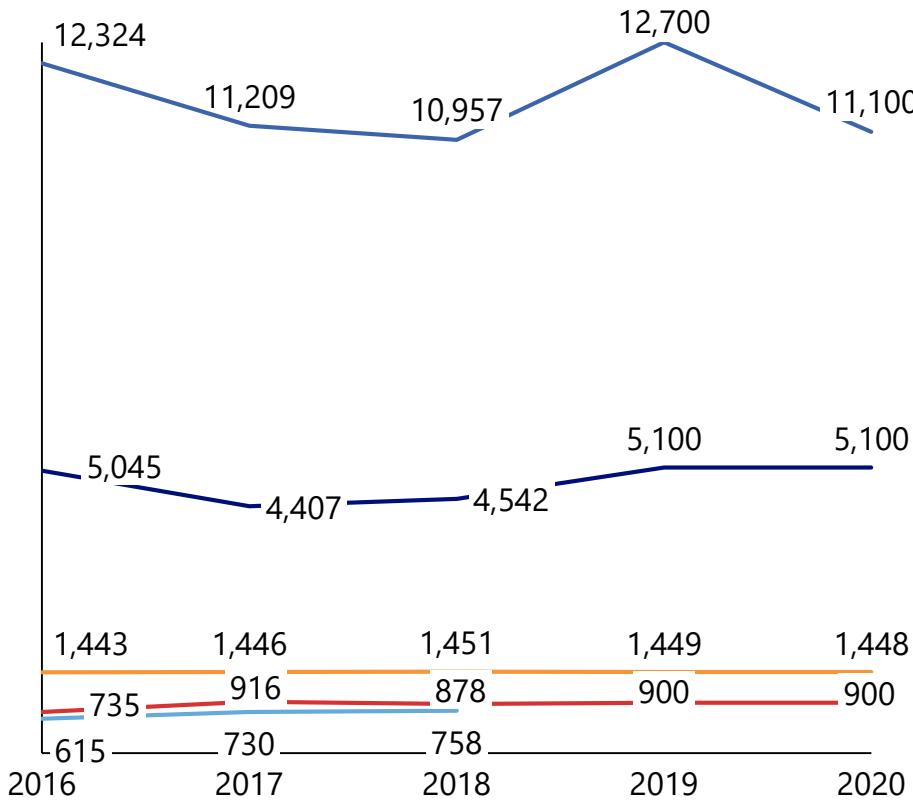


## COVIDによる生産への影響は軽微であると見込まれているが、政府は対策として新たな計画を発表

### 主要農林水産物の生産量推移、2016-2020（千トン）

— 米 — トウモロコシ — 豆 — 肉 — 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆は2019-20データなし

### キートレンド/特徴

#### 米：低い生産効率

- 1ha当たりの米の平均収量は約2トンで世界平均の約半分
- 灌漑化率が低く、1%（世界平均は20%）。灌漑設備不足や機械化の遅れにより手作業が発生し、生産効率が低く米の需要に対して生産が追いつかない状況
- 小規模農家が80%、大企業（Coscharisグループ、Dangote、Olamなど）が20%を生産しているが、多くを占める小規模農家の収入ではトラクターなどの農業器具が入手困難

#### 肉：食肉産業への投資促進

- ナイジェリア畜産学研究所（NIAS）が動物性タンパク質の需要に応えるため家畜生産を6倍にすることを提唱し、政府もこれを推進

### COVID-19による変化

#### 生産量への影響薄

- 2020年の各食品の生産量は例年並みになる見通し。  
**COVID-19による生産量への影響は薄い可能性**

#### 国内生産商機拡大

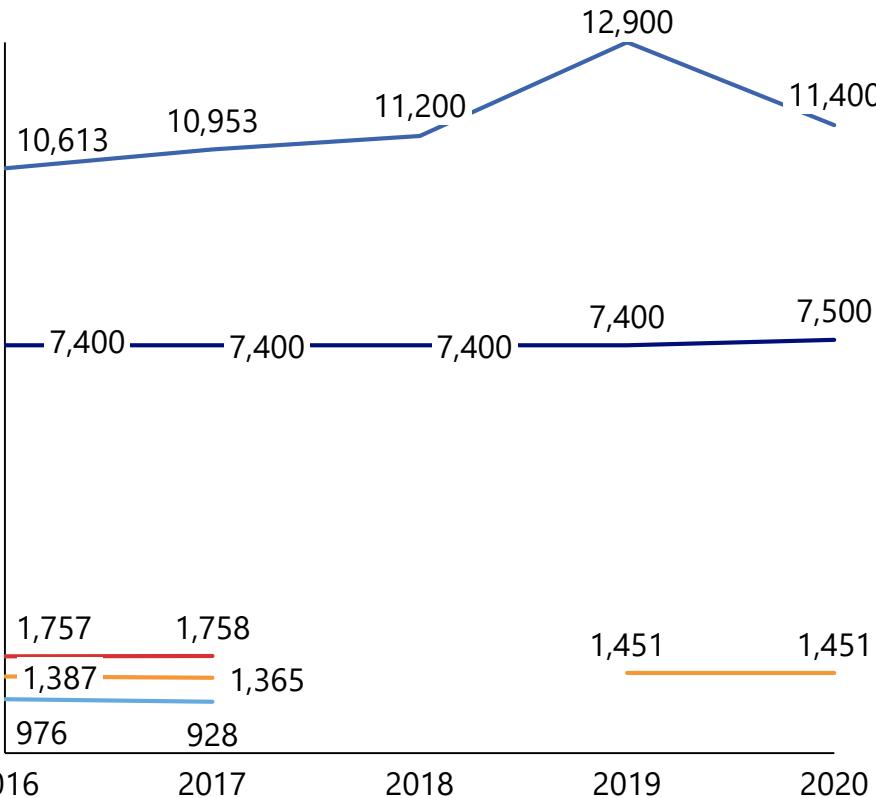
- ①COVID対策として政府が打ち出した「ナイジェリア経済持続可能性計画2020（NESP2020）」の中の新規開墾計画、②陸路国境封鎖措置、③食品や農産品の輸入決済での外為禁止の影響で、**国内生産に商機が拡大**



## 主要農林水産物の消費量推移、2016-2020（千トン）

— 米 — トウモロコシ — 豆 — 肉 — 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類は2019-20、肉は2018データなし

Source: FAO、Euromonitor、ニュース記事

## キートレンド/特徴

## 米：輸入制限での価格上昇

- 輸入規制の影響で、規制前の2018年7月と比べて米の価格が約2倍に上昇（ラゴスでは50 kgの米袋1つが約63ドル）

## 肉：食肉の消費状況

- 年間36万トンの牛肉を消費、2050年までに4倍に成長見込み
- 年間約200万トンの家禽肉を消費
- 牛肉、羊肉、山羊肉の供給は需要の半分未満、牛乳や豚肉製品は4分の1未満

## 肉・魚介類：タンパク質不足と対応

- 平均的なナイジェリア人の食事ではタンパク質が必要摂取量より約20%低く（FAO, 2009年）、タンパク欠乏症となり栄養失調、発育阻害、感染症などの健康被害が発生（PAA※, 2020）
- PAAは大豆収穫量を増やすため政府や国内外の団体と協力し、若者など500人に生産知識・スキルを訓練するカリキュラムを開始（団体は米国大豆輸出評議会(USSOY)、ナイジェリア栄養協会(NSN)、ナイジェリア畜産学研究所(NIAS)、国際熱帯農業研究所(IITA)等）

## COVID-19による変化

## 価格上昇による負担増

- ロックダウンによりFVC上流の農業資材制限、輸送制限がかかり食品価格が高騰。米の値段は8%上昇
- パン、シリアル、魚、肉などの価格上昇により食品の消費者物価指数は2020年1月～7月で約8%上昇
- 学校閉鎖で給食がなくなり低所得層の食費の負担が増加

※PAA：プレミアアグリビジネスアカデミー。ナイジェリアの農業ビジネストレーニング機関

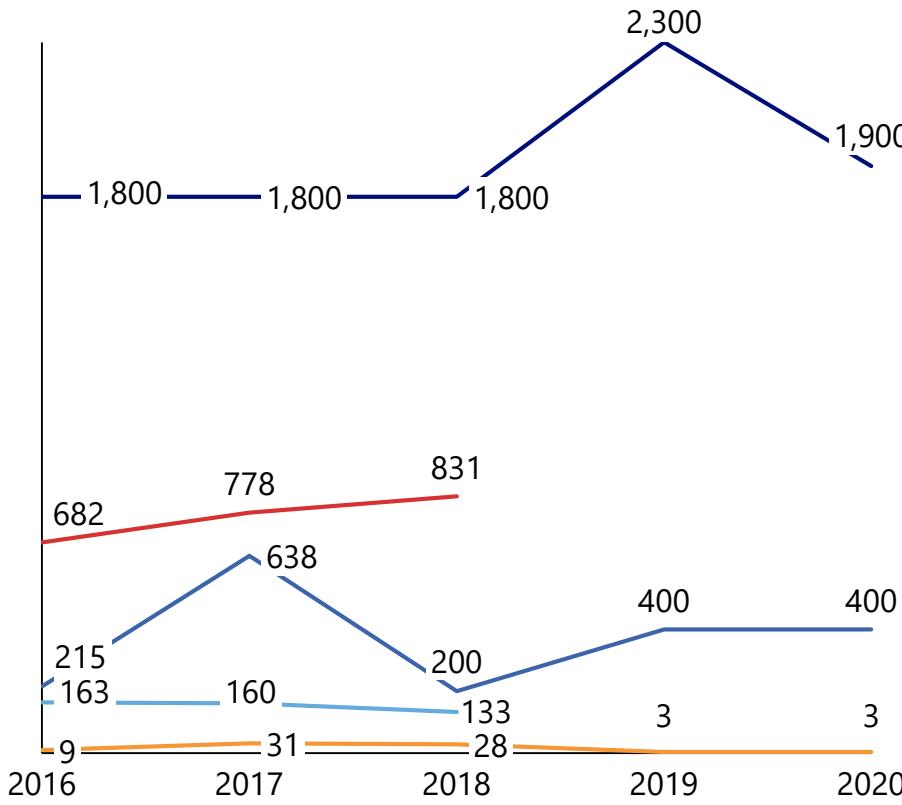


## 国境封鎖により物流が混乱した影響で特に米などで減少する可能性

### 主要農林水産物の輸入量推移、2016-2020（千トン）

— 米 — トウモロコシ — 豆 — 肉 — 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類は2019-20データなし

### キートレンド/特徴

#### 主要輸入元

- トウモロコシ：アルゼンチン、中国（2018）
- 米：ブラジル、インド（2018） 豆：中国、ニジュール（2018）
- 肉：中国（2018） 魚介類：オランダ、チリ、ロシア（2018）
- 生産・輸送能力の低さと人口増加により食料供給が不足し輸入に依存
- 2006年～2019年上半期にかけて、国内生産を強化するために農産物（米、小麦粉、魚、鶏肉、牛肉など）の輸入に約1億ドルを投資

#### 全体：需要大を輸入で対応

- 2015年、米の自給自足に向け中央銀行は米の輸入への外国為替の使用を禁止、港経由の輸入に対して70%の関税付与
- 2019年8月、政府は隣国ベナンからの米の密輸対策のため国境を封鎖。エコノミストらは産業の発展や外国投資の阻害要因になると批判

#### 米：国産品保護のための輸入規制

- 国内で食肉処理される家畜のうち、30%を隣国から輸入。また、家禽肉の消費量（年間約200万トン）のうち70%が輸入、あるいは密輸されたもの。食肉の供給に占める輸入の割合が高い状況
- 低品質だが低価格の輸入肉が国内市場へ出回った影響で、養鶏場をはじめとする家禽ビジネスやその雇用が消失

#### 肉：食肉輸入拡大による失業

### COVID-19による変化

#### 国境封鎖による食料減

- ロックダウンの国境封鎖で物流が混乱し、米、肉等で輸入食品による食料供給が減少する可能性

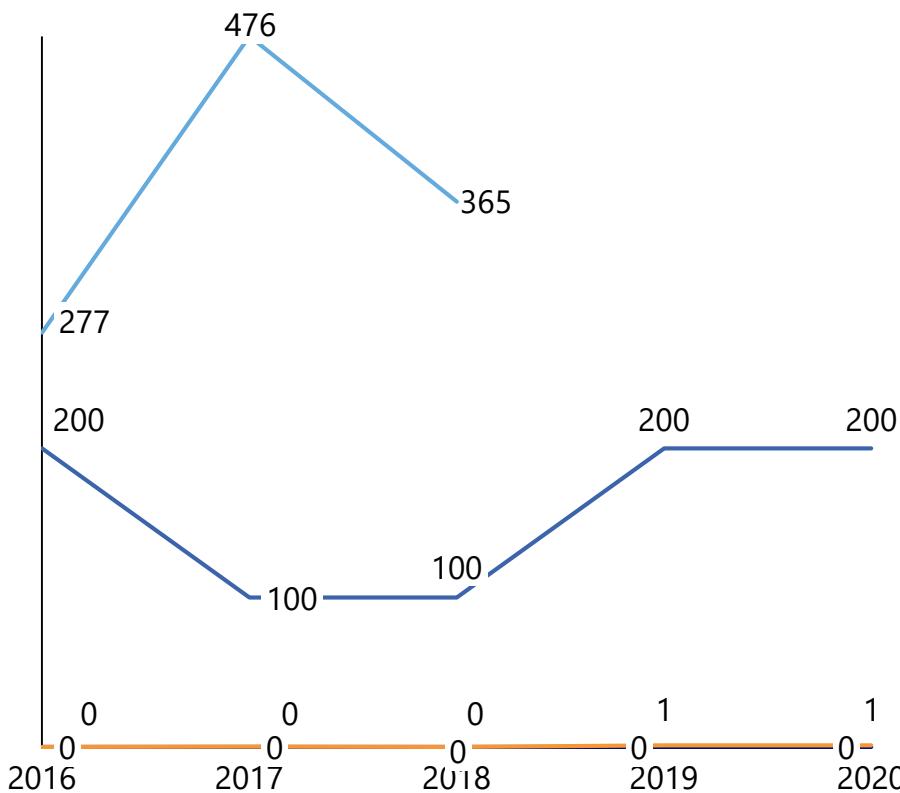


## 国境封鎖の影響で減少する可能性

主要農林水産物の輸出量推移、2016-2020（千トン）

— 米 — トウモロコシ — 豆 — 肉 — 魚介類

(2020年は予測)



Source: FAO、Euromonitor、ニュース記事

## キートレンド/特徴

## 主要輸出先

- トウモロコシ：ガーナ（2018）
- 米：データなし（2016-2018）
- 豆：インド、アメリカ、ガーナ（2018）
- 肉：ベトナム、中国、ミャンマー（2018）
- 魚介類：オランダ、ベルギー（2018）

全体：  
石油から  
農作物へ

- ナイジェリア輸出促進評議会（NEPC）は石油依存(80%)からの脱退を目指しており、農作物は石油に代わる主要輸出品の候補
- 候補として注目されている輸出品の一例は、50億ドル市場といわれる生姜。有機栽培を行うなど欧州や中東の国際市場を視野に入れた栽培をすでに開始

全体：  
国際市場  
進出への課題

- 主要輸出品として国際市場に出すに当たり、農業資材の品質の低さや技術不足、国際的なバイヤーとのつながりの欠如などの課題に直面
- 州政府と企業は連携して課題の解決に向けた取り組みを進行（デジタルで農場投資を促すFarmcrowdyなど）

## COVID-19による変化

輸出業者  
移動制限

- 国境封鎖により輸出業者の移動が制限され、輸出量が減少する可能性

## 輸出促進

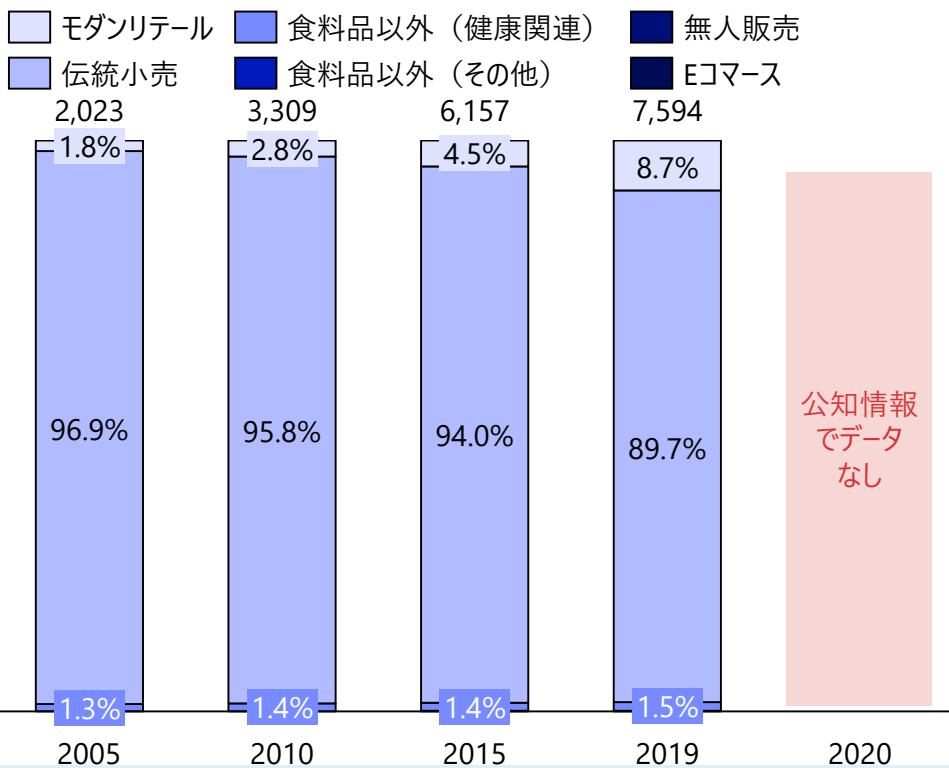
- 輸出業者の活動促進のため、NEPCはFree on Board（FOB）Global Logistics Limitedと提携しラゴスからロンドンへの特別割引航空貨物サービスを導入



## COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

包装食品| Eコマースへの機運が高まり需要が増加するとの意見とともに普及に否定的な意見も存在  
外食サービス| デリバリー事業に参入するスーパーが登場しており、取扱量が増加していく可能性

### 包装食品の販売チャネル割合（百万ドル）

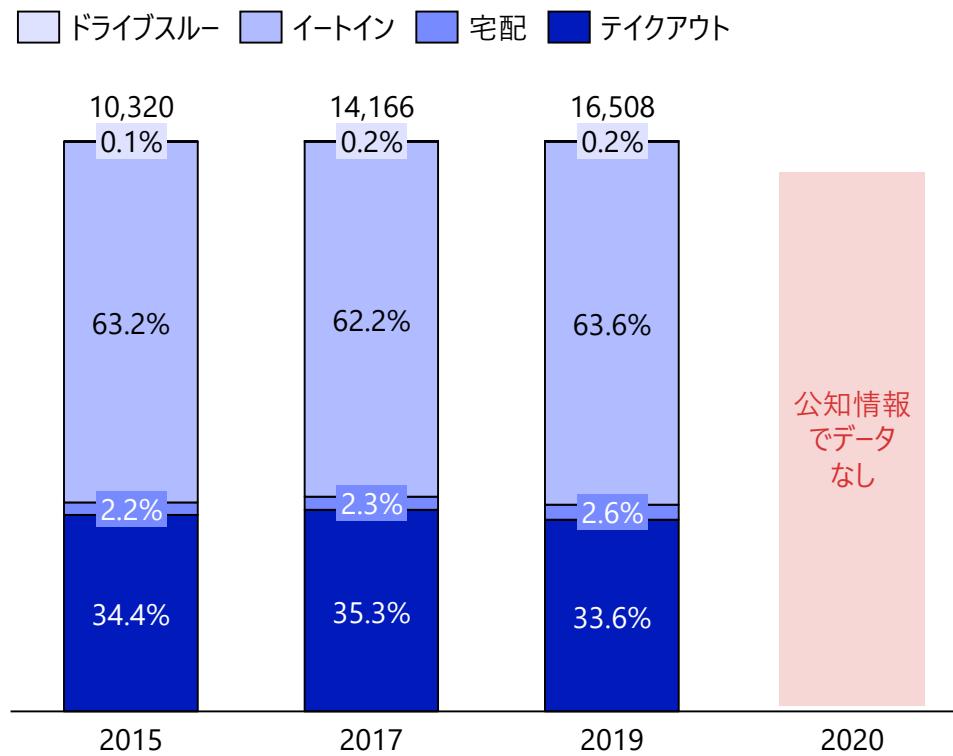


- 包装食品の主要チャネルは伝統小売(個人経営小売店、食品・飲料・タバコなどの専門店)
- COVIDに起因する消費者のEコマース利用拡大は見られないという見解と、Eコマース需要が増加するという見解が混在。  
WAeYなどEコマースに参入する企業の動きは活発化

(2020年は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

### 外食サービスの利用チャネル割合（百万ドル）



- イートインとテイクアウトで外食の98%の割合
- 高級ホテルやレストランは、デリバリー・テイクアウトに注力
- スーパー・マーケット・チェーンSPARは夜間外出禁止令で営業時間を短縮後、デリバリー事業に新規参入し新しいチャネルを開拓

## COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

## レストランの営業停止や小売店の取引先閉鎖でオンライン取引やデリバリーに注目

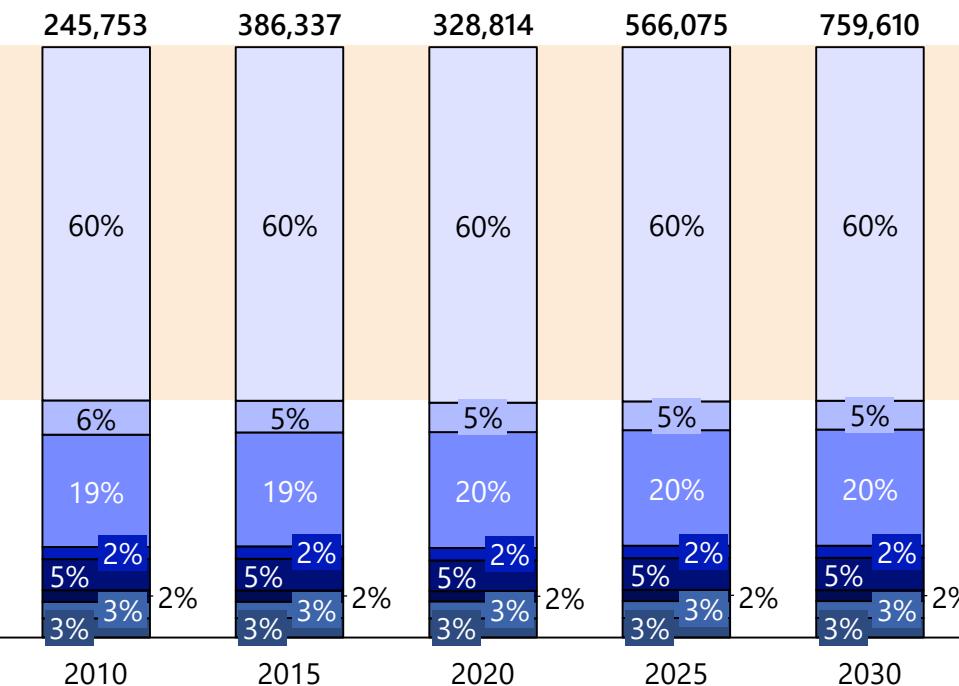


橙色：更新情報

## 消費者支出内訳 (百万ドル)

飲食料	住宅	移動	教育
衣料	健康	レジヤー	その他

※2020年以降は予測



- 消費者支出合計に占める飲食料の割合は約60%を占め、今後10年の間に大きな変化は見られないと予測
- 2020-30における消費量は年平均で8.7%成長する見込み

(2020年は予測)

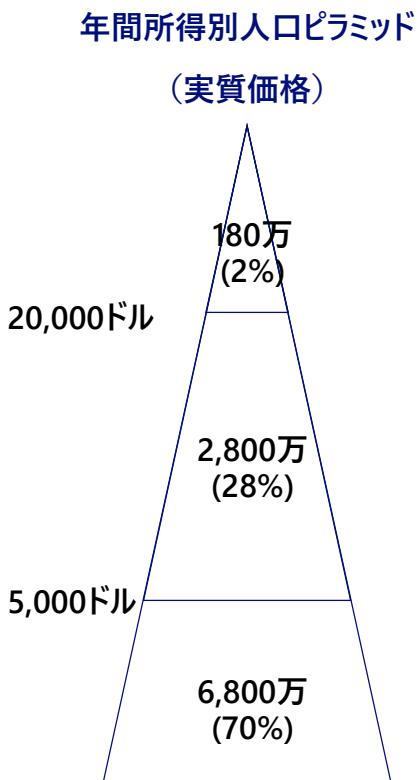
Source: Euromonitor、ニュース記事

## 主要な消費者トレンド (赤色はCOVIDによる影響)

- 背景**
- 人口はアフリカ最大（約2億人、2019年）で、増加傾向が継続（人口増加率約2.5%）
  - インターネット利用者人口の増加。インターネットユーザーは約1億1,000万人（2019年）、過去20年間で55%上昇
- 健康志向の高まり**
- 最も裕福と想定される65歳以上の年齢層の人々が健康・医療関連の商品需要を喚起
- サードパーティ宅配プラットフォーム**
- オンラインでの宅配プラットフォーム利用の広まり
  - WAeYなどデジタルを利用したデリバリーサービスの開始
- 個人経営の小売店の根強い人気**
- 低価格かつ伝統的なナイジェリア料理が好まれるため整備された小売店よりも個人店への人気が根強い傾向
  - 食品を販売するキオスクや非公式小売点は消費者に食料品を行きわたらせる拠点として営業継続
  - 仕入れにTradeDepotなどオンライン取引を利用
- モダンな外食レストランの人気の高まり**
- 若者層を中心に時間節約のために外食する層が増加し、そのため低価格レストランの人気が増加
  - レストランは営業停止。その後オンラインを使用したデリバリーでの販売に移行
- 国産品嗜好 (11月追加)**
- 輸入量が落ち込み、消費者（富裕層も含む）は輸入品より国産品を好んで消費。特に地元産の鶏肉の消費が拡大



## 所得別の消費者行動



## COVIDによる変化

食製品	購買チャネル	外食サービス
<ul style="list-style-type: none"> <li>所得25,000ドル以上では65歳以上が50%以上。健康食品を嗜好</li> <li>包装食品を嗜好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eコマース、デリバリー</li> <li>モダンリテール（スーパー・マーケット、ハイパー・マーケット）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテル、レストランでの外食を嗜好</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康意識の高まりから、健康食品を嗜好</li> <li>生鮮食品・包装食品を嗜好</li> <li>便利・簡単・迅速に調理可能な食品を嗜好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eコマース、デリバリー</li> <li>コンビニ、モダンリテール（スーパー・マーケット、ハイパー・マーケット）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストラン、テイクアウト</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食品・非ブランド品を嗜好</li> <li>都市部では他所得層と比較して乳製品・肉・野菜の摂取量少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭菜園からの収穫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋台・キオスクを嗜好</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>必要最低限の食料品や健康食品に需要が集中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン購入やデリバリーを優先</li> <li>Eコマース普及の必要性の高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストランの需要低下</li> </ul>

## コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

**3. ナイジェリア**

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

**2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題**

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

## ナイジェリア コンテンツ&amp;サマリ - COVID-19 により顕在化したFVCの課題

## FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り



## FVC上の課題

顕在課題

潜在課題\*

(注) ボックスの大きさと課題の重要度は関連なし

橙色：更新情報



	農業資材	農業生産	保管 & 運送	加工	卸・小売	消費	
ヒト	移動制限による労働力不足 農業カレンダーの乱れによる収穫量減少		港湾のCOVIDオペレーションによる輸送遅延				1 移動制限による輸送の遅延やコスト増がFVCの各工程に打撃
モノ	1 移動制限による資材入手困難 資材調達の遅延による収穫量減少 資材調達の遅延による収入減	移動制限による生鮮食品ロス	輸入制限による生産量低下 輸送制限による食品ロス	原材料・梱包入手困難による出荷停滞 労働者不足による生産の遅延		食料供給量低下による栄養失調 食料支援の到着遅れ	1 FVC全体が資金難に直面している可能性
カネ	2 外貨準備高低下による資材価格上昇	売掛金回収期間の長期化	穀物備蓄開放による食料価格低下 輸送キャパ制限によるコスト増加		消費減少によるキャッシュフロー悪化	可処分所得の低下 食料品価格の高騰	2 Eコマース普及の見通しが不透明
データ/ デジタル	事業継続性への不安	1			3 Eコマース普及への機運と障害		3 Eコマース普及の見通しが不透明

\*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 移動制限で農家は農業資材が入手困難に。資材不足で収穫収穫量が減少

橙色：更新情報

トピック	課題	内容	顕在課題	潜在課題	課題分類	①ヒト
			②モノ	③カネ	④データ	
農業資材供給	② 移動制限による農業資材入手困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナサラワ州などではロックダウンで事業所が閉鎖し農薬、種子、肥料など農業資材の入手が困難</li> <li>ナイジェリア畜産学研究所（NIAS）によると、輸送制限により動物飼料が農家に届く時期が遅延</li> </ul>				
	② 資材調達の遅延による収穫量減	<ul style="list-style-type: none"> <li>農薬、肥料は輸入依存の状態にあり、移動制限で輸送できない資材が港に停滞。オンタイムの資材入手が不可能（2ヶ月以上遅延）</li> <li>農業機械の供給が遅延。機械化を行っている農家（約25～40%）に影響</li> <li>資材が入手できない農家は十分な肥料が使用できず、従来型の農法に切り替え。結果、農作物の収穫量/生産量が減少</li> </ul>				
事業継続性	④ 事業継続性への不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業生産を含む必要不可欠なサービスを移動制限の対象から除外している一方、農業資材業や食品加工業が含まれるかどうかは曖昧な状態でこれら産業の事業運営が可能か不透明</li> </ul>				
	② 資材調達の遅延による収入減	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業資材のコスト増やアクセス困難により、生産に必要な分の農業資材を購入できない農家は収入が減少する可能性</li> </ul>				



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 石油価格下落に伴う外貨不足で農業資材の輸入価格が上昇し、政府は輸入制限を実施

橙色：更新情報

## トピック

## 課題

## 内容

## 顕在課題

## 潜在課題

## 課題分類

## ①ヒト

## ②モノ

## ③カネ

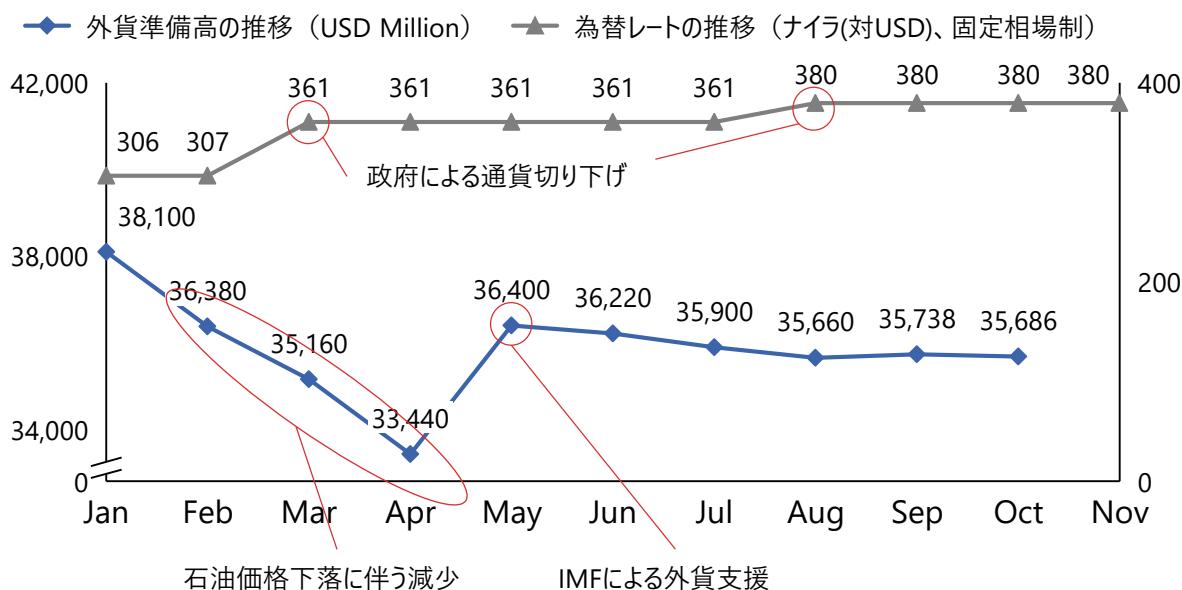
## ④データ

## 農業資材供給

## ③

外貨準備高低下による農業資材価格上昇

- COVIDによる世界経済の低迷の影響で石油価格が下落。外貨準備高は石油の輸出に依存しており、石油価格の下落に伴い外貨準備高も減少。4月には過去2年間の最低値を記録
- 3月の通貨切り下げ（石油価格の下落に関連）と予想されるインフレによる経済の不確実性に対する懸念から、4月には輸入農業機器や原材料の輸入価格が24%増加
- 9月、政府は外貨の使用を抑え、肥料の国内生産を促すため肥料の輸入制限（肥料輸入のための外貨発行を行わない）を実施





## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 労働力不足、農業カレンダーの乱れで収穫量が減少する可能性

橙色：更新情報

トピック	課題	内容	顕在課題	潜在課題	課題分類	①ヒト	②モノ	③カネ	④データ
労働力	① 移動制限による 労働力不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月～5月のロックダウン期間中、農村部の仕事（農業以外も含む）の約40%が停止（国家統計局（NBS）による全国電話調査）</li> <li>雨期4月～5月の準備を始めた3月末にロックダウンが始まり、準備作業が停止。約50～60%の農家で5月～6月の農作業開始シーズンに準備が不十分な状態に</li> </ul>							
収穫	①② 農業カレンダーの乱れによる 収穫量減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業カレンダーの乱れ（播種・収穫期の喪失）により、2020年第3～4四半期の農作物の供給量が減少する可能性</li> </ul>							





## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 州間移動制限により販売が制限され、売れ残りが発生。農家の財政状況も悪化する可能性

橙色：更新情報

## トピック

## 課題

## 内容

顕在課題

潜在課題

課題分類

①ヒト

②モノ

③カネ

④データ

## 食品ロス



②

移動制限による  
生鮮食品ロス

- 州間移動制限、夜間移動制限で卵や雛、家禽肉を運ぶ車両の移動が制限され市場への農産物供給が停滞
- その結果、カドゥナ州では外出が制限された影響で家禽農家で卵の売れ残りが発生しロスが増加

## 農家の財政状況



③

売掛金回収期間の  
長期化

- 農家の約80%はキャッシュフローのバッファーに余裕を持たない中小農家
- 農家への売掛金の支払いに約30日の遅延が発生



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

輸入制限により農業生産の減少や航空輸送コスト増が発生。  
また各地で食品ロスが発生している可能性

橙色：更新情報

トピック	課題	内容	顕在課題	潜在課題	課題分類	
			①ヒト	②モノ	③カネ	④データ
航空輸送	② 輸入制限による生産量低下					
	②③ 航空輸送コスト増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港制限や貿易の制限により農業資材が入手困難・利用困難となり、生産量が低下</li> </ul>				
陸上輸送	② 輸送制限による食品ロス発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロックダウン後、新型コロナ割増料金（Covid-19 Surcharge）や航空便数減少を原因として輸送キャパシティが減少した結果、航空貨物運賃が1,80ドル/kgから3,00ドル/kgまで上昇。11月時点でも3-4倍の価格で、生鮮食品や季節性商品の価格高騰の原因</li> </ul>				
食料貯蓄	② 穀物備蓄開放による食料価格低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間外出禁止令を含む国内外の移動制限や輸送制限により、食品の輸送に遅延が発生し、食品ロスが増加する可能性</li> <li>移動制限により飼料が届かず家畜が死亡する可能性</li> </ul>				



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

港湾ではCOVIDオペレーションによる遅延が発生。遅延による待機料で輸送コストも増加

橙色：更新情報

### トピック

### 課題

### 内容

顕在課題

潜在課題

課題分類

①ヒト

②モノ

③カネ

④データ

#### 船舶輸送



① ②

港湾での検査など  
COVIDオペレーションによる輸送の遅延

③

輸送キャパシティ制限によるコスト増加

- 港のオペレーションに感染チェックなどの工程が加わり入港・荷揚げ・出港までの時間が長期化
- 例えば、アパパ港では入港・荷揚げ・出港に約1か月を要する。港周辺に輸送トラックが渋滞し1日後も全く動かないなど陸上輸送にも影響

- 輸送キャパシティ減少により交渉力のある大手でもスペース取得困難に。待機料が加算され輸送コストも増加
- 年末は繁忙期のため、11-12月にかけて状況が悪化する見通し



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

# 労働力不足により生産・出荷の遅延や停止が発生

橙色：更新情報

トピック	課題	内容	顕在課題	潜在課題	課題分類	1 ヒト	2 モノ	3 カネ	4 データ
労働力	①② 労働者不足による生産の遅延	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品加工はロックダウンによる閉鎖を免除されたものの、輸送制限と検疫措置の影響で従業員が出社できない工場では加工・出荷の遅延や停止が発生</li> </ul>							
原材料供給	② 原材料・梱包材入手困難による加工・出荷停滞	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動制限に伴うサプライチェーンの混乱により原材料・包装材料・化学品・スペアパーツの調達に遅延が発生し、加工・出荷が停滞</li> <li>食品加工業者は生産計画を削減</li> </ul>							



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

リアル店舗の収益性悪化に伴いEコマースへの期待が高まるが、普及に時間を要する可能性

### トピック

### 課題

### 内容

#### 顕在課題

#### 潜在課題

#### 課題分類

##### ① ヒト

##### ② モノ

##### ③ カネ

##### ④ データ

#### 収益性



③

消費減少による  
キャッシュフロー悪化

#### 販売チャネル



②④

Eコマース普及への機運と  
障害

- COVID-19の終息が見えず不確実性が続く間、消費者は現金を節約し必需品以外への支出が減少。また金融機関の利用制限などもあり、零細/中小企業のキャッシュフローが悪化

- ロックダウンやソーシャルディスタンスの影響で、消費者の購買チャネルはオンラインへ移行。リアル店舗の収益性が悪化する可能性
- Eコマースの需要が増加する一方、移動制限により労働力が不十分。またナイジェリアは物流インフラが貧弱（世界銀行による2018年度のLPI（物流パフォーマンス指標）で世界160か国中110位）で、物流産業の発展に障害



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

価格高騰が発生。また供給量の減少も相まって食料へのアクセスが制限されている可能性

橙色：更新情報

トピック	課題	内容	顕在課題	潜在課題	課題分類	①ヒト	②モノ	③カネ	④データ																				
世帯収入 	③ 可処分所得の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナイジェリア人は世帯年収の57%を食料品に消費しており（ナイジェリア国家統計局（NBS）・2019）COVID-19による食品価格の高騰は消費者の可処分所得をより圧迫する可能性</li> </ul>																											
食料品価格 	③ 食料品価格の高騰	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロックダウンの影響により消費者のパニック購買が発生。主要農産物の価格が高騰しており、例えばコメ、山芋、キャッサバなど主食の価格が2020年3月～4月にかけて8～12%上昇</li> </ul> <p><b>食品・ノンアルコール飲料の消費者物価指数（CPI）（2020年1～10月）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品全体では、2020年1月と10月を比較すると11%程度上昇</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>CPI</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1月</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>2月</td><td>100.8</td></tr> <tr><td>3月</td><td>101.6</td></tr> <tr><td>4月</td><td>102.7</td></tr> <tr><td>5月</td><td>103.9</td></tr> <tr><td>6月</td><td>105.1</td></tr> <tr><td>7月</td><td>106.4</td></tr> <tr><td>8月</td><td>107.9</td></tr> <tr><td>9月</td><td>109.5</td></tr> <tr><td>10月</td><td>111.1</td></tr> </tbody> </table>	月	CPI	1月	100.0	2月	100.8	3月	101.6	4月	102.7	5月	103.9	6月	105.1	7月	106.4	8月	107.9	9月	109.5	10月	111.1	+11.1%				
月	CPI																												
1月	100.0																												
2月	100.8																												
3月	101.6																												
4月	102.7																												
5月	103.9																												
6月	105.1																												
7月	106.4																												
8月	107.9																												
9月	109.5																												
10月	111.1																												
食料供給 	② 食料供給量低下による栄養失調	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家の生産量低下により収穫期に農作物が十分収穫できず、食料不足や飢餓に陥る危険性</li> <li>農作物の販売店が営業停止することで、消費者への農作物が行き届かなくなり、食料不足や栄養失調につながる可能性</li> <li>食料品の輸入量の減少や政府の戦略的食料備蓄によって食料アクセスが悪化する可能性</li> </ul>																											



## COVID-19 により顕在化したFVC の課題

## 貧困層向けの食料支援物資の到着に約4か月の遅れが発生

橙色：更新情報

## トピック

## 課題

## 内容



## 顕在課題



## 潜在課題

## 課題分類



## ヒト



## モノ



## カネ



## データ

## 食料供給



②

食料支援物資の  
到着遅れ

- CACOVID(\*)は4月より774地方自治体の貧困層200万世帯（約1,000万人）に向けて食料支援計画を開始。しかし需要の大きさに対して生産が追いつかず配給が遅延
- 配給が実際に始まったのは8月。州によっては10月まで配給を開始できない状態が継続

(\*) Coalition Against COVID-19 (CACOVID)。政府のCOVID-19対策を支援するために設立された民間主導の団体

Source: ニュース記事

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# マンスリーレポートご報告内容：11月

## コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

3. ナイジェリア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向



## ナイジェリア コンテンツ & サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

### 課題への対応事例は下記の通り

#### 課題対応の方向性

##### 課題整理フレームワーク

###### ①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸 –  
一時的か不可逆か

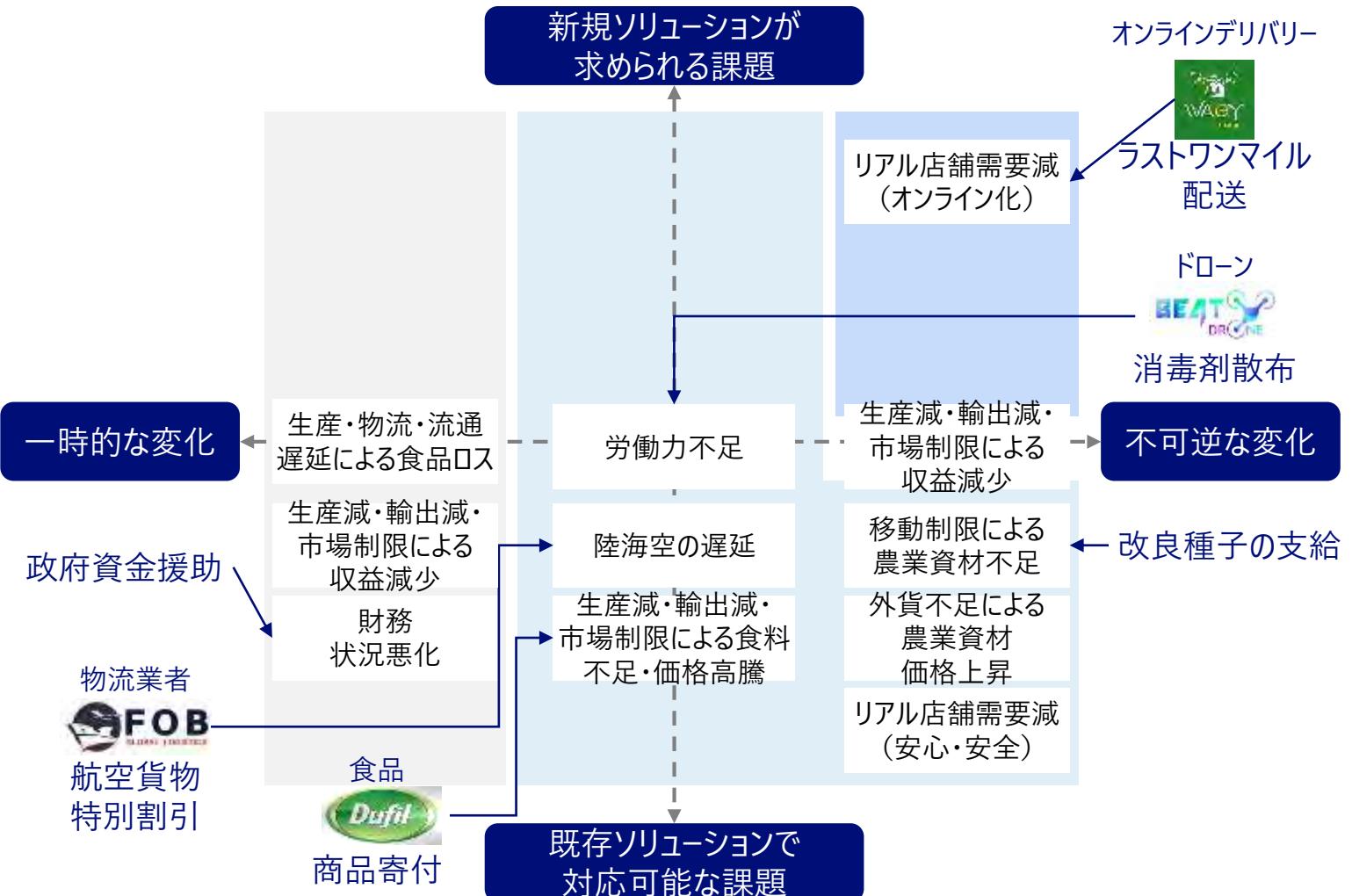
縦：ソリューション軸方向性軸 –  
解決に求められるソリューションは  
既存か新規か

###### ②課題対応の方向性で整理

止血 オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築

レジリエンス 将来のパンデミックを見越  
(耐性) した備え

肉体改造 価値観・ビジネスモデルの  
変化への対応





## 現地FVC再構築に向けた最新動向

# 11月より国際空港2港を運航再開。夜間外出制限や集会の人数制限は継続

橙色：更新情報

### 国内移動

- 3月、すべての国内線旅客便が運休
- 3月、アブジヤ首都圏、ラゴス州、オグン州でロックダウン
- 5月、各州間の移動制限発令
- 5月、国内全土で夜間外出禁止（午後8時～午前6時）

### 国際移動

- 3月、国内全空港の国際線が運休

### その他

- 3月、結婚式、ナイトクラブ、お祭りなど30人以上が集まる集会を禁止
- 5月、公共の場でのマスク着用義務化

### 農業

- 3月、食品・農業活動は必須サービスに認定

### ロジスティクス

- 5月、州間移動、夜間外出禁止時間帯の輸送禁止
- 3月、輸送・物流サービス事業を必須製品に限定

### ビジネス

### 製造業

- 3月、食料品、医薬品等必需品の製造業は営業許可

### 小売・レストラン

- 3月、食料品、医薬品等必需品の販売店は営業許可
- 3月、レストランは営業停止

## COVID-19による制限

## 2020年11月現在の状況

- 7月よりアブジヤ-ラゴス間の運行を再開
- 5月に3地域でのロックダウン解除
- 7月より州間移動を許可（夜間外出禁止時間除く）
- 9月より夜間外出禁止時間が午前0時～午前4時に短縮
- 9月よりアブジヤ及びラゴスの2都市での発着にて運航が再開
- 11月より、カノ空港とポートハーコート空港でも国際線の運航を再開**

- 8月より礼拝所や社交クラブを許容人数の50%以下を条件に再開。集会の許容人数を20人から50人へ増加
- ナイトクラブは継続して禁止

- 
- 7月、州間移動を許可（夜間外出禁止時間は高速道路の利用不可）
- 9月より夜間外出禁止時間帯を午前0-4時にして継続実施

- 
- 5月より非食品を扱う小売店も時間短縮で営業再開
- 8月よりレストランは許容人数50%以下、安全許可を取得することを条件に営業再開



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 政府

# 農家向けには資金援助のほか種子提供による農業活動支援を実施

対象	政策	政策概要	インパクト
農家	ローン返済猶予延長	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年3月1日より、ナイジェリア中央銀行の提供する介入ローン(※1)の元本返済に1年の猶予を付与</li> <li>産業銀行、農業銀行、ナイジェリア輸出入銀行を通してTradermoni、Marketmoni、Farmermoniなどの政府系ローンの返済猶予を3か月延長</li> </ul>	農家の資金不安を軽減
	改良種子の支給	<ul style="list-style-type: none"> <li>13州の小規模農家にモロコシ、トウジンビエ、ササゲ、コメの改良種子を支給</li> <li>COVID-19で打撃を受けた小規模農家の生計とその農業活動を支えること、将来の食料不足の防止が目的</li> </ul>	COVIDによる農業資材（種子）の流通量低下を軽減することで農業活動を支援

Note : (※) ICRISAT - International Crops Research Institute for the Semi-Arid Tropics。農村開発のための農業研究を行う国際組織

Source: Euromonitor, News Reports

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 政府

# FVC全体に対しては金融支援、雇用創出に注力

対象	政策	政策概要	インパクト
FVC全体	中小企業・世帯向けに500億ナaira(1.3億ドル)の融資枠提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>CBNは中小企業開発基金（MSMEDF）を通して、COVID-19で影響を受けた世帯および中小企業向けに総計1.3億ドルの融資枠を提供</li> <li>世帯の場合最大約7,800ドル、中小企業の場合最大約6万5,000ドルを融資</li> <li>中小企業は過去3年間の年間売上高平均の25%を上限に運転資金を確保することが可能</li> <li>金利は2021年2月28日までは5.0%、2021年3月1日以降は9.0%</li> </ul>	世帯の消費の促進、中小企業の運転資金の増加
	金利引き下げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年3月1日より、CBNの介入ローンの金利を9%から5%に引き下げ</li> <li>流動性回復に向けナイジェリア中央銀行は政策金利を13.5%から12.5%に引き下げ</li> </ul>	需要の損失の軽減、高額購入の機会提供
	雇用創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業、製造業などにおける雇用機会の創出とインフラ整備のため、経済刺激策として同分野に約59億ドルを投入</li> <li>隔週で2~10haの新たな農地耕作、道路建設、年間最大30万戸の住宅建設を実施予定</li> <li>COVID-19による経済縮小規模を-0.59%に抑えるねらい</li> </ul>	雇用維持とインフラ建設、投資家への投資機会の提供
	Agriculture for Foods, Jobs Plan (AFJP)の開始 (2020年7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>AFJPはCOVID-19の影響を押さえ、競争力のあるFVC（生産、加工、流通）作ることを目的に立ち上げられたスキーム。今後1年の計画は下記           <ul style="list-style-type: none"> <li>農業分野における500~1,000万人の雇用創出</li> <li>1州あたり約1,000万トンの食料生産と2~10万haの土地の耕作</li> <li>農家に対するゼロ金利での融資と更地や整地支援</li> </ul> </li> </ul>	雇用創出や農業支援を通じて農業生産・流通回復を迅速化

Note : (※1): 介入ローンとは、MSME、農業信用およびその他のストレスセクター向けのCNBによる特別基金

Source: FAO, IMF, ニュース記事よりNRI作成



## 現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

# Beat Droneは肥料散布に使用するドローンの技術を、ウイルス拡散を防ぐための消毒剤散布に応用

### ドローンを用いた消毒剤散布



- Beat Drone（ビートドローン）はドローンを用いて農地調査や肥料散布を行うナイジェリア発のスタートアップ企業
- COVID-19対応のため同社はオンド州政府と協力し、ドローンを利用した近隣地域への消毒剤散布を開始
- 政府は、国内36州全ての消毒を行うため、120万ドルを投じて同社のドローン工場設立を支援。3,000超のドローンを製造する予定
- 同社はCOVID-19の沈静化後、ドローンを利用して年間30万人以上が死亡するマラリアの原因となる蚊の駆除剤を撒いたり、農地における作物の収穫量増加、農家のコストの削減を行う意向



ドローンを用いた農地調査・肥料散布



オンド州政府へ近隣地域の消毒に使用するドローンを提供



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# Eコマースの利用拡大を受け、WAeY Technologiesはバイクによるオンラインデリバリーサービスを開始

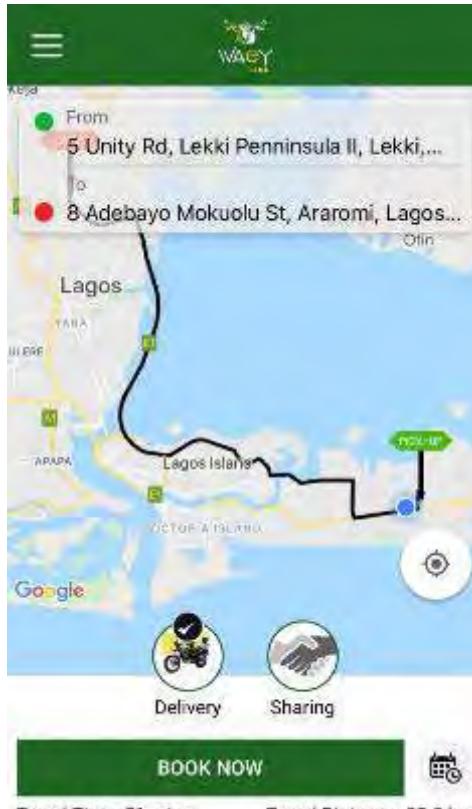
### バイクによるラストワンマイル配送



- WAeY Technologiesは7月、バイクでのデリバリーサービスWAeYを開始
- 専用のアプリで依頼者と近隣にいる最適なデリバリースタッフをマッチング、指定場所で荷物をピックアップし、アプリの指示に従い配送先へ荷物を配達
- COVID-19の影響でEコマース利用者が増加する中、ラストワンマイルをつなぐ物流サービス、および商用二輪車乗り入れ禁止措置の影響で失職したバイクドライバーの雇用の受け皿として世間から期待
- ラゴス州でのサービスを中心に展開しているが、将来的にはナイジェリア全土に拡大予定
- 特徴は「シェアリングデリバリー」ができること。配送ボックス内に空きスペースのあるデリバリースタッフが、別の依頼主の近隣を通過する際に荷物をピックアップし、他の荷物の配送先と組み合わせて配達することが可能



ラストワンマイル物流



WAeY（アプリ画面）



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# FOB Global Logistics Limited は航空貨物の特別割引で輸出を促進

### 輸出機会拡大に向けた特別割引航空貨物サービス導入



- 物流業者のFree on Board (FOB) Global Logistics Limitedは、ナイジェリア輸出促進評議会（NEPC）と提携しラゴスからロンドンへの特別割引航空貨物サービスを導入
- 食品、繊維、化粧品などのナイジェリア製製品をヨーロッパへ輸出する機会を創出
- 非輸出業者に対しても、当サービスの開始をきっかけに輸出を促進。企業の外貨獲得機会を創出するねらい
- 2020年6月7日より、毎日航空貨物の運搬を実施



ナイジェリア輸出促進評議会（NEPC）CEOの  
Segun Awolowo氏



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

# GBfoodsはトマト加工工場を建設し、雇用機会の創出や生産効率化に貢献

## トマト加工工場建設



- 食品製造大手のGBfoodsはナイジェリア中央銀行、ケッピ州政府、ヤウリー首長国と連携しケッピ州に約5,300万ドルでトマト加工工場を建設
- 同工場を通して、技術提供、生産効率化、機械化、労働機会創出へ貢献
  - 技術提供：イタリアとスペインで40年続くトマト事業のベストプラクティスやノウハウから技術を移転
  - 生産効率化：ナイジェリア最大のトマト農場を所有。乾季にはトマト、雨季には大豆を生産
  - 機械化：農場・工場には点滴灌漑、施肥インフラ、温室、種まきロボット、インキュベーションチャンバーの他、多数の農業機械を装備
  - 労働機会創出：農場500名、工場150名、工場建設に150名の雇用を生み出した他、小規模農家をアウトグローバーとして提携し16の井戸を提供・維持することでホストコミュニティを形成
- 同社は引き続きナイジェリア中央銀行や政府と協力し、国内の食料供給に貢献する予定



トマト加工工場での雇用創出



機械化への貢献





## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 企業

## Dufil Prima Foodsは、インドミーヌードルなどの食品を消費者に寄付

## 人気食品の寄付

農業資材

農業生産

保管 &amp; 運送

加工

卸・小売

消費

- インスタントヌードル「インドミーヌードル」で有名なDufil Prima Foodsは、州政府を通じてインドミーヌードル等の食品を消費者に寄付
- オグン州ではインドミーヌードルを1万カートン、リバーズ州ではインドミーヌードル1,000カートンとパスタ500カートンを寄付



インドミーヌードル



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

米国大豆輸出評議会(USSOY)や国際熱帯農業研究所(IITA)はタンパク質源の供給増加に向け  
大豆生産に関するトレーニングを実施

### 大豆の生産力増加に向けたトレーニングプログラム



- 米国大豆輸出評議会(USSOY)や国際熱帯農業研究所(IITA)はナイジェリア政府や民間の農業訓練機関と連携し、栄養失調への対策としてタンパク質源を増やす取り組みを開始
- タンパク質の元になる大豆等の生産が増えない原因を知識やスキルの欠如によるものとし、トレーニングを通じた生産力向上を目指す
- 大豆収穫量を増やすため若者など500人に生産知識・スキルを訓練するカリキュラムを開始
- 農業従事者への生産スキル獲得機会の創出や、タンパク質摂取量増加の基盤創出が可能



米国大豆輸出評議会(USSOY)や国際熱帯農業研究所(IITA)



## 現地FVC再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

# 世界銀行は、貧困家庭の生活支援や食料安全保障に取り組むための政府プロジェクトを支援

### 政府プロジェクトへの資金援助



- 世界銀行は貧困家庭の生活支援と食料安全保障のため、政府に7億5,000万ドルを支援する  
"Program-for-Results Financing"を実施
- 低所得者層や中小企業のサポート、FVC関連のインフラ整備などを  
行う国内プロジェクトに対する資金援助が目的



Program-for-Results Financing遂行のイメージ



*Share the Next Values!*